

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500101
開設科目名	環境衛生学			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	常岡 英弘			区分	
授業の概要					
<p>環境衛生学は、保健学科のカリキュラム編成に当たり、公衆衛生学の一分野であったものが独立した授業科目である。環境問題は 1970 年代の公害防止対策から環境影響評価、さらに地球環境問題、廃棄物や自動車公害等へと変化してきた。身近な居住環境から地球規模の人間居住環境に至るまでの環境を説明し、さらに環境と人の健康との関わりを説明する。また食中毒や食品添加物等の食品衛生についてもこの授業で説明する。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)水環境の変化と健康影響を理解する。(2)大気環境の変化と健康影響を理解する。 (3)物理的環境の変化と健康影響を理解する。(4)産業職場の環境変化と健康影響について理解する。(5)地球規模の環境変化と健康影響について理解する。(6)栄養と健康について理解する。(7)食品衛生と健康について知る。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)水環境の変化と健康影響を説明できる。(2)大気環境の変化と健康影響を説明できる。(3)物理的環境の変化と健康影響を説明できる。(4)産業職場の環境変化と健康影響について説明できる。(5)地球規模の環境変化と健康影響について説明できる。(6)栄養と健康について説明できる。(7)食品衛生と健康について説明できる。</p> <p>思考・判断の観点:環境が及ぼす人の健康について自分の意見を述べる事が出来る。</p> <p>関心・意欲の観点:生活の中での環境問題に関心をひろげ、問題意識を高めることができる。</p> <p>態度の観点:日常生活の中で環境問題について主体的に考えることができる。</p> <p>技能・表現の観点:地球環境問題について説明・プレゼンテーションすることが出来る。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末試験で主に評価するが出席状況、授業態度、宿題レポート提出状態も加味して総合評価する。</p>					
教科書					
<p>公衆衛生学／眞野喜洋:医歯薬出版株式会社, 2006</p>					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>0836-22-2854</p>					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500102
開設科目名	形態機能学 I			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	野垣 宏			区分	
授業の概要					
保健学科の授業は人体の構造を基礎に形作られている部分が多い。従って、解剖学がわかっていないと学習がはかどらない。しかし、単なる用語の丸暗記では実用的ではないので、形態と機能を結びつけて理解する。					
授業の一般目標					
人体の各部位を覚える(できれば英語でも)。 教科書の説明を読み、機能を理解しながら覚える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 人体の肉眼的構造を理解する。					
思考・判断の観点: 人体の構成と、それがいかなる機能を行っているかを理解する。					
関心・意欲の観点: これからの医学知識獲得への関心を持つ。					
態度の観点: 医学・医療には膨大な知識が必要とされる。そのためには真摯に努力を重ねる態度や、常に医学を科学としてとらえる態度が求められる。					
成績評価方法(総合)					
筆記試験					
教科書					
からだの地図帳／高橋長雄: 講談社, 1989					
参考書					
英辞郎／道端秀樹: アルク, 2006					
メッセージ					
連絡先					
nogaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500103
開設科目名	看護学概論 I			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	正村 啓子			区分	
授業の概要					
看護の真髄を流れる概念は、人間のケアである。ケアの本質、看護、人間、健康、生活について教授するとともに、ヘルスケアシステムの中にある看護の位置を知り、看護の概念の理解を目指す。さらに、看護倫理、看護の変遷、看護の役割について概説する。					
授業の一般目標					
看護の素晴らしさを実践例を通して実感し、人を大切にケアするとはどういうことかを理解する。質の高い看護の実践家となることを目指して、自己の位置と果たすべき役割を認識するとともに、ケアリング・倫理・看護・健康・生活・人間について、その本質をそれらの連関において理解する。歴史的な諸看護理論家による看護の概念を学び、相互協力のできる実践家を目指して今後の学習に積極的に取り組むことができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 看護の素晴らしさを実践例を通して実感できる。2. 科学の発達の中で看護学の発達を位置づけることができる。3. 看護教育制度における自己の位置と果たすべき役割を説明できる。4. 他者をどのようにして理解し大切にケアするのか説明できる。5. ケアリングと看護の連関を説明できる。6. 諸理論家の看護理論を理解し、看護の概念を説明できる。7. 看護・健康・生活・人間について、それらの連関において説明できる。8. ヘルスケアチームにおける相互協力の重要性を認識し説明できる。9. 看護師の倫理綱領について説明できる。					
思考・判断の観点: 1.提示された事例、テーマに対して、自分の意見を述べるができる。2.学習したことと自己のそれまでの考えとの違い、他の学生との違いに気付き、自分の考えを持つことができる。3.学んだことをもとに自己の日常生活を評価し、活用できる。					
関心・意欲の観点: 1.学習したことをさらに深く広く理解し、疑問点を解決しようと行動できる。 2.先達の看護理論の遺産をよむことの喜びを実感できる。3.世界の代表的な看護理論家の看護への遺産を原著で読むことの喜びを実感できる。4.看護理論を継承し発展させることへの意欲を持つことができる。					
態度の観点: 1.日常生活の中で、「他者を大切にすかかわり」ができるように努力できる。2.学習したことをすすんで自己の生活に活かす取り組みができる。 3.他者の意見を尊重し、自分の意見も表現できる。					
技能・表現の観点: 1.学習による気付き、疑問、自己の取り組みを他者に解かるように表現できる。2.わかりやすくプレゼンテーションができる。					
成績評価方法(総合)					
成績は、試験、レポート、参加の状況、出席状況により評価する。					
教科書					
看護学概論／川村佐和子他:メディカ出版, 2008					
参考書					
ケアの本質／ミルトン・メイヤロフ:ゆみる出版, 2008					
看護覚え書 対訳／小林章夫:うぶすな書院, 2008					
看護理論 20 の理解と実践への応用／筒井真由美編:南江堂, 2008					
メッセージ					
連絡先					
E-mail:masamura@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2860 研究室:医学部保健学科第一研究棟					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500104
開設科目名	英文多読			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	田中 経彦			区分	
授業の概要					
<p>自分が好きな本を色々読む小学校中学校での朝読書の英語版です。Extensive Readingと言います。多読と言うと義務的に読む感じがしますが、そうではなく色々自由に選んで読書しようというものです。楽しく読めれば結果的にたくさん読めます。その時点で非常に易しく読める英語の本から始め色々な本を読みます。訳さずに英語のまま読んで行きます。今日自分にとって楽しい本を読みます。読みたい本が今読めなければ、易しい本を読んで行くと読めるようになります。電気通信大学の酒井邦秀准教授がまとめた多読三原則「1. 英和辞書を引かない 2. わからなければ飛ばす 3. 進まなければ後回し」に従い、易しい本からたくさん読んでいくうちに2年くらい(毎日30分)すればPaperbacksが読めるようになり、ひいては英語の専門原書を読むのが楽になるはずで、専門原書には知識が必要ですが、ただし、卒業に必要な英語の単位にはなりません。帰国子女の方は、読み聞かせ等をしていただけると優遇します。インターネットで利用できる英語ニュース等のサイトも紹介します。気分転換に英語の音楽を聴いても構いません。1時間程度読んだら退出自由です。もともとTOEIC 高得点の人は1時間半読みますが。</p>					
授業の一般目標					
<p>専門書は別ですが、自分にとって面白い本を何ヶ月もかけて訳読しようとする、途中で興味が薄れてしまい止めてしまいかねません。「大草原の小さな家」等の原作を数日で読める自信をつけるのが目標です。</p> <p>訳読にこだわるのは、もうやめましょう。大学院入試、大学病院検査部の就職試験に辞書持込で英語の試験が出ることがありますが、直訳ではなく意識をすべしなのです。英語をたくさん読めば分からなかった複雑な文もわかるようになります。訳すのは通常自分の頭を混乱させるだけです。むしろ日本語でかく小論文の方が大事でしょう。</p> <p>英語の本を訳読するとせいぜい毎分80語ですが、毎分100語以上で直読できればTOEICは600以上に相当します。毎日30分でも読んでいけば、誰でもできます。大学を出るまでにこの段階に到達しておけば、英語が楽しくなるはずで、大学入学時より英語力が必ず向上します。</p>					
授業の到達目標					
<p>思考・判断の観点: 英語話者の思考方法に興味を持つ</p> <p>関心・意欲の観点: 英語で直接情報を取り込む意欲</p> <p>態度の観点: 英語文化に親しむ。</p> <p>技能・表現の観点: 7割くらいしか分からずともいから、英文を訳さずできるだけ早く読めるようになること。(TOEIC600点台の人は毎分100語以上だそうです。やさしい文章から始めればほとんどの人が毎分100語以上、200語以上の人も珍しくありません。)</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>英語への積極性を評価します。単位認定にはアンケートに必ずお答え下さい。皆勤であれば、誰も80点です。毎分100語で読むとすると、90分授業14回で、12万6千語です。中学高校6年間で読む英文は、熱心な人で10万語程度です。一方英米の小中高生は毎年100万語は読むそうです。記録手帳に語数を記録して10万語を越した分は、1万語の上積につき、1点加算します。TOEICの点数についても考慮します。</p>					
教科書					
参考書					
<p>さよなら英文法！多読が育てる英語力／酒井邦秀:筑摩書房, 2008</p> <p>100万語多読入門／古川昭夫、伊藤晶子:コスモビア, 2005</p> <p>英語候 50のメソッド／上川一秋、ジーナジョージ:三修社, 2007</p> <p>ロングマン ベーシック英英辞典／ロングマン社編集局:桐原書店, 2002</p>					
メッセージ					
<p>やさしい英語の本を訳さないで早く読読訓練はTOEIC創設者の一人、三枝幸夫元早大教授(個人)も薦めておられ、世界の常識です。</p> <p>英語を直読するのに慣れていないと、眠くなります。無意識に訳そうとすると眠くなるのでこんな易しい本と思う本から読んでください。また三コマ目の授業を受けるときは、少し昼ごはんを軽くしたらいいかもしれません。空腹気味だと眠くなりません。</p> <p>語数は、酒井先生、古川氏(SEG代表)らが多読の普及のために作ったSSSと言う団体の協力者が公開している語数です。教材の本に書き込んであります。</p>					
連絡先					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp					

オフィスアワー

授業時間がオフィスアワーです。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500105
開設科目名	英文多読			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	田中 経彦			区分	
授業の概要					
<p>自分が好きな本を色々読む小学校中学校での朝読書の英語版です。Extensive Readingと言います。多読と言うと義務的に読む感じがしますが、そうではなく色々自由に選んで読書しようというものです。楽しく読めれば結果的にたくさん読めます。その時点で非常に易しく読める英語の本から始め色々な本を読みます。訳さずに英語のまま読んで行きます。今日自分にとって楽しい本を読みます。読みたい本が今読めなければ、易しい本を読んで行くと読めるようになり。電気通信大学の酒井邦秀准教授がまとめた多読三原則「1. 英和辞書を引かない 2. わからなければ飛ばす 3. 進まなければ後回し」に従い、易しい本からたくさん読んでいくうちに2年くらい(毎日30分)すればPaperbacksが読めるようになり、ひいては英語の専門原書を読むのが楽になるはず。専門原書には知識が必要ですが、ただし、卒業に必要な英語の単位にはなりません。帰国子女の方は、読み聞かせ等をしていただけると優遇します。インターネットで利用できる英語ニュース等のサイトも紹介します。気分転換に英語の音楽を聴いても構いません。1時間程度読んだら退出自由です。もともとTOEIC 高得点の人は1時間半読みますが。</p>					
授業の一般目標					
<p>専門書は別ですが、自分にとって面白い本を何ヶ月もかけて訳読しようとする、途中で興味が薄れてしまい止めてしまいかねません。「大草原の小さな家」等の原作を数日で読める自信をつけるのが目標です。</p> <p>訳読にこだわるのは、もうやめましょう。大学院入試、大学病院検査部の就職試験に辞書持込で英語の試験が出ることがありますが、直訳ではなく意訳をすればいいのです。英語をたくさん読めば分からなかった複雑な文もわかるようになります。訳すのは通常自分の頭を混乱させるだけです。むしろ日本語でかく小論文の方が大事でしょう。</p> <p>英語の本を訳読するとせいぜい毎分80語ですが、毎分100語以上で直読できればTOEICは600以上に相当します。毎日30分でも読んでいけば、誰でもできます。大学を出るまでにこの段階に到達しておけば、英語が楽しくなるはず。大学入学時より英語力が必ず向上します。</p>					
授業の到達目標					
<p>思考・判断の観点: 英語話者の思考方法に興味を持つ</p> <p>関心・意欲の観点: 英語で直接情報を取り込む意欲</p> <p>態度の観点: 英語文化に親しむ。</p> <p>技能・表現の観点: 7割くらいしか分からずともいいから、英文を訳さずできるだけ早く読めるようになること。(TOEIC600点台の人は毎分100語以上だそう。やさしい文章から始めればほとんどの人が毎分100語以上、200語以上の人も珍しくありません。)</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>英語への積極性を評価します。単位認定にはアンケートに必ずお答え下さい。皆勤であれば、誰も80点です。毎分100語で読むとすると、90分授業14回で、12万6千語です。中学高校6年間で読む英文は、熱心な人で10万語程度です。一方英米の小中高生は毎年100万語は読むそうです。記録手帳に語数を記録して10万語を越した分は、1万語の上積につき、1点加算します。TOEICの点数についても考慮します。</p>					
教科書					
参考書					
<p>さよなら英文法！多読が育てる英語力／酒井邦秀:筑摩書房, 2008</p> <p>100万語多読入門／古川昭夫、伊藤晶子:コスモビア, 2005</p> <p>英語候 50のメソッド／上川一秋、ジーナジョージ:三修社, 2007</p> <p>ロングマン ベーシック英英辞典／ロングマン社編集局:桐原書店, 2002</p>					
メッセージ					
<p>やさしい英語の本を訳さないで早く読読訓練はTOEIC創設者の一人、三枝幸夫元早大教授(個人)も薦めておられ、世界の常識です。</p> <p>英語を直読するのに慣れていないと、眠くなります。無意識に訳そうとすると眠くなるのでこんな易しい本と思う本から読んでください。また三コマ目の授業を受けるときは、少し昼ごはんを軽くしたらいいかもしれません。空腹気味だと眠くなりません。</p> <p>語数は、酒井先生、古川氏(SEG代表)らが多読の普及のために作ったSSSと言う団体の協力者が公開している語数です。教材の本に書き込んであります。</p>					
連絡先					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp					

オフィスアワー

授業時間がオフィスアワーです。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500201
開設科目名	病理学			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	高橋 睦夫			区分	
授業の概要					
<p>病理学は医学的知識を習得するための基本となる学問であり、医療従事者の一員としての看護師もその業務を遂行するためには、各疾患の概念、病態などを理解していることが大切である。本授業では疾病について総合的に概説し、さらに基本的な疾患についてもその概念や病因、臨床症状、診断、治療法、経過・転帰などを講義する。</p>					
授業の一般目標					
<p>基本的な疾患の概念や病態を理解し、各疾患の臨床病理像、治療法などを把握できる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 基本的な疾患について、その概念や病因、診断法、臨床病理学的特徴像、治療法、経過・転帰などを理解し、説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 臨床症状や理学的所見から疾患を推定することができる。</p> <p>関心・意欲の観点: 看護師として、患者のケアに寄与できる。</p> <p>態度の観点: 医療人の一員として、チーム医療に参加できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>定期試験(50点満点)と小テスト(50点満点)で総合評価し、授業態度の不良者や規程の出席回数に満たないものは欠格条件とする。</p>					
教科書					
<p>わかりやすい病理学 改訂第5版/岩田隆子監修、恒吉正澄、豊島里志、高橋睦夫編:南江堂, 2008</p>					
参考書					
メッセージ					
<p>各週に小テスト(7回を予定)を行い、その合計点を50点満点に換算して期末テスト(50点満点)と総合して評価します。しっかり復習して、小テストを頑張るように。</p>					
連絡先					
<p>E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp, Tel/Fax: (0836) 22-2845 研究室:保健学科研究棟1</p>					
オフィスアワー					
<p>随時</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500202
開設科目名	微生物学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	梅田 昭子			区分	
授業の概要					
地球上に存在する微生物には膨大な種類があるが、医学部では人体に生息する微生物、および人体に感染する病原微生物を学習する。すなわち感染に関与する微生物についてその性質・病原性を学び、各感染症での症状・治療法・予防法・対処法を学ぶ。					
授業の一般目標					
感染症の概念と感染症に起因する微生物の構造・性質・病原因子について総合的に理解する。 また、各感染症について症状・治療法・予防法・対処法を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 微生物の種類と構造を総合的に理解する。 感染症の概念および対処法・治療法・予防法を理解する。 各感染症における起因微生物との関係、病原性について理解する。					
思考・判断の観点: 自分の所属する地域・社会で発生する感染症に対し、適格に判断し対処できる能力を養う。					
関心・意欲の観点: 世界的および国内で発生する種々の感染症について、新聞やテレビでの報道に敏感になり関心を深める能力を養う。					
態度の観点: 微生物の授業を通じて学んだ知識を用いて、また、その後に得られた経験から、自分の所属する地域・社会で発生した感染症に対し、適格な判断と対処ができる能力を養う。					
技能・表現の観点: 微生物の授業を通じて学んだ知識を用いて、また、その後に得られた経験から、自分の所属する地域・社会で発生した感染症に対し、適格な判断と対処ができる能力を養う。					
成績評価方法(総合)					
期末試験を中心とする。総論が終了時には総論の試験、また、各項目終了後に小テスト実施あり。					
教科書					
系統看護学講座6—微生物学／南嶋洋一、吉田真一:医学書院, 2008					
参考書					
メッセージ					
授業後に必ず復習をしてください。					
連絡先					
内線2805 umeda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500203
開設科目名	臨床薬理学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	神谷 晃			区分	
授業の概要					
看護の立場から必須の医薬品に関する知識(薬物の作用、吸収と分布と排泄、効果と副作用、各種剤型とその特徴など)について講義する。					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
系統看護学講座 専門基礎5 薬理学:医学書院, 2008					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500204
開設科目名	形態機能学Ⅲ			単位	2単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	清水 昭彦			区分	
授業の概要					
生理機能を人体を構成している種々の系統(循環系、神経系、消化器系、呼吸器系、運動機能系、聴覚・視覚系、口腔歯科系、等)単位で学ぶ。また、生理機能を測定、検査する方法を学ぶ。					
授業の一般目標					
臨床に必要な形態学と人体の生理機能を理解する。また、生理機能検査法を学び正常値を把握する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 人体を構成している生理機能システムの名称を覚え、その機能を理解する。					
思考・判断の観点: 人体を構成している生理機能システムの相互関係を思考する。					
関心・意欲の観点: 人の生理機能の統合性を理解することに意欲を持つ。					
態度の観点: 臨床に必要な形態学と生理学の知識と理解を学ぶ態度を良くする					
技能・表現の観点: 臨床に必要な形態学と生理学を学びそれをみんなに分かるように説明できる。					
成績評価方法(総合)					
筆記試験とレポート。 主に試験の成績で判定する。					
教科書					
シンプル生理学／貴邑富久子: 南江堂, 2008					
参考書					
メッセージ					
予習をすること					
連絡先					
清水研究室 EX 2856、 E-mail: ashimizu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500205
開設科目名	症候ケア論			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
健康障害を抱えた人々が示す主要症状のメカニズムについて解説し、その基本的治療方法、治療・処置を受けている患者の看護、症状緩和のための看護技術について教授する。					
授業の一般目標					
1、健康障害を抱えた人々が示す主要症状のメカニズムについて理解できる 2、主要症状の基本的治療方法、治療・処置を受けている患者の看護、症状緩和のための看護技術について理解できる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験					
教科書					
症状から見た看護過程の展開／井上智子:医学書院					
参考書					
カルペニート看護過程・看護診断入門／藤崎郁・山勢博彰:医学書院, 2008					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500206
開設科目名	免疫学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	野島 順三			区分	
授業の概要					
免疫学は、医学の各分野に幅広く関わっており、免疫のエッセンスを学ぶことは、医学・医療の道を目指す全ての学生にとって大切である。本講義では、細胞レベルからみた免疫系や分子レベルからみた免疫系など様々な角度から免疫系のしくみを概説し、感染防御・アレルギー・自己免疫疾患・癌の制御と発生・輸血・臓器移植等に免疫系がどのように関連しているのか解説する。さらに、医療領域における免疫学的検査法の臨床的意義を講義する。					
授業の一般目標					
1) 免疫系のしくみ(自然免疫と適応免疫、体液性免疫と細胞性免疫)を理解させる。 2) 免疫に関わる細胞群の種類と役割を理解させる。 3) 免疫がもたらす有害な生体反応(アレルギー・移植拒絶・自己免疫・免疫不全等)を理解させる。 4) 感染症診断のための免疫学的検査法を理解させる。 5) 輸血の概要と輸血検査の実際を理解させる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1) [自然免疫と適応免疫]および[体液性免疫と細胞性免疫]の違いを説明できる。 2) 免疫担当細胞の種類と各細胞の役割を説明できる。 3) 免疫がもたらす有害な生体反応について、その病因を説明できる。 4) 感染症および輸血・移植関連の免疫学的検査法について説明できる。					
思考・判断の観点: 1) 生体の免疫反応を細胞レベルおよび分子レベルで論理的に説明することができ、免疫システムの異常によりどのような生体反応が現れるのか考察できる 2) 医療領域における各種免疫学的検査の臨床的意義を述べることが出来る。					
関心・意欲の観点: 授業での教員の質問に積極的に回答できる。さらに、自ら疑問点を見出し、その解決のために積極的に質問をすることができる。					
態度の観点: 予習を行って講義に望む積極的な態度を身につけ、講義でよく理解出来なかった箇所については復習をして知識を整理する。					
技能・表現の観点: 講義内容に関して、自分が理解できている部分と理解が不十分な部分を明確に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
学期末試験および小試験の成績で評価する。 (ただし期末試験受験には2/3以上の出席が必要)					
教科書					
一目でわかる免疫学 第4版/田中伸幸訳:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2007 臨床検査技術学13 免疫検査学 /折笠道昭他:医学書院, 2003					
参考書					
免疫学イラストレイテッド 第5版/多田富雄 監訳:南江堂, 1999					
メッセージ					
講義に使用するスライドをシラバスの資料にアップしているので、予習・復習に活用してください。					
連絡先					
保健学科研究棟 407 号室 TEL:0836-22-2824					
オフィスアワー					
後期 水曜日 8:40~10:10					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500207
開設科目名	基礎看護学実習 I			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	正村 啓子			区分	
授業の概要					
ヘルスケアチームにおける相互協力を基盤に据えた質の高い看護師の育成を目指して、初回の実習である本実習では、看護実践の基礎を習得するとともに、特に医療チーム各部門を理解し相互協力の基盤形成ができるよう、病棟における看護実習及びヘルスケアチーム(医療チーム)実習を行う。					
授業の一般目標					
患者の生活と医療環境を見学し、看護に関する概念を具現化し認知できるようにする。また看護を体験する中で、患者とのかかわりを通し援助的な人間関係の形成について理解する。ヘルスケアチームを構成する他職種の見学実習をすることで、他職種との違いや看護師の役割について理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 実習要項参照					
思考・判断の観点: 実習要項参照					
関心・意欲の観点: 実習要項参照					
態度の観点: 実習要項参照					
技能・表現の観点: 実習要項参照					
成績評価方法(総合)					
行動目標にそった評価、客観評価、出欠点、記録物、記録の提出状況を総合して評価する。客観評価は、事前学習、積極性、協調性、責任感、自己洞察の側面から行う。行動目標は、実習要項に記載する。					
教科書					
参考書					
基本から学ぶ看護過程と看護診断/R.アルファロールフォーヴァ:医学書院, 2004					
看護診断ハンドブック/新道幸恵監訳:医学書院, 2002					
基礎看護技術/川村佐和子他編:メディカ出版, 2005					
実践的看護マニュアル,共通技術編/川島みどり著:看護の科学社, 2003					
基準値ハンドブック 第二版/巽典之:南江堂, 2003					
メッセージ					
連絡先					
正村 啓子 :E-mail masamura@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2860 藤澤 怜子 :E-mail reiko@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2814 稲垣 順子 :E-mail rinagaki@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2851 加瀬 田 暢子 :E-mail nobk@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2815 生田 奈美 可 :E-mail ikuta@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2841 河村 敦子 :E-mail atsuko@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2839					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500208
開設科目名	看護過程論			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	稲垣 順子			区分	
授業の概要					
看護過程は、看護により解決できる問題を効果的に取り上げ解決していくために、系統的・組織的に行う活動である。本授業では、看護過程の構成要素であるアセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価について概説し、実践応用できる能力が習得できるよう教授する。					
授業の一般目標					
看護過程の知識を踏まえ、事例を通じて実際に紙上で看護過程の展開を実施することで、看護過程の各段階を理解し、看護実践の具体的な方法を考えることができる。					
<ol style="list-style-type: none"> 1.看護の対象を全人的に捉えるために必要な情報のもつ意味を理解できる。 2.看護の対象の情報をゴードンの機能的健康パターンにもとに分類し、アセスメントできる。 3.看護の対象の全体像を把握することができる。 4.看護の視点から対象の健康問題を明らかにすることができる。 5.適切に優先順位を付け、目標を定めることができる。 6.看護の対象の健康問題に対する具体的な看護介入計画が立案できる。 7.看護の対象の健康問題の評価ができる。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.看護過程の各段階(アセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価)に関する基礎的知識、具体的方法を述べることができる。					
思考・判断の観点: 1.紙上患者で、看護過程の各段階(アセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価)において自分の判断を記述できる。					
関心・意欲の観点: 1.紙上患者で看護過程を展開する時に、疾患や看護に関する関連文献を幅広く用い、自己学習できる。 2.これまで学んだ知識(看護理論など)を用いてアセスメントできる。					
態度の観点: 1.グループワークで他者の意見を積極的に聴き、討議できる。					
技能・表現の観点: 1.紙上患者で、看護過程の各段階(アセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価)を実施できる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験(期末試験)70%、演習 30%として評価します。演習では、授業態度・グループワークへの参加度、課題への取り組み、プレゼンテーションを総合的に評価します。					
教科書					
基礎から学ぶ看護過程と看護診断/R.アルファロール:医学書院, 2008					
看護診断ハンドブック/リンダカルベニート:医学書院, 2006					
参考書					
基準値ハンドブック/巽典之:南江堂, 2004					
今日の治療薬2009/水島豊:南江堂, 2009					
メッセージ					
臨床の現場でも、看護師は看護過程を用い、アセスメント・診断・計画立案・実施・評価をしています。看護過程ができないと、現場では通用しません。この授業が基礎となりますので、欠席しないように心掛けて下さい。また、グループワークを実施しますので、しっかりと自己学習して臨んで下さい。					
連絡先					
Tel/Fax: (0836) 22-2851					
E-mail: jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日:16:00～17:50					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500209
開設科目名	基礎看護方法論 I			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	藤澤 怜子			区分	
授業の概要					
看護実践の基盤となり、各看護学に共通する看護基本技術について教授する。方法論 I では、看護技術の考え方や構造など看護技術の成り立ち、看護行為に共通する技術、健康上のニーズを充足するための基本的な日常生活の援助技術を教授する。					
授業の一般目標					
1. 看護技術の考え方や構造について理解する。 2. 看護行為に共通する援助技術について理解する。 3. 健康的な日常生活行動を促進する援助技術について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 看護行為に共通する技術、健康的な日常生活行動を促進する援助技術について、学習内容を理解し説明できる。					
思考・判断の観点: 安全性・安楽性・個性の視点から、各技術項目を捉えることが出来る。 各技術に関するエビデンスが説明できる。					
関心・意欲の観点: 看護の対象である人間に関心を持ち、自己の生活行動を振り返りながら、健康が障害された人の生活について考えることが出来る。					
態度の観点: グループメンバーとしての役割がとれる。					
その他の観点: 基礎看護方法論 I で学んだ知識を元に、同日に設定している基礎看護方法論演習 I で看護技術を実施する。演習に結びつくよう知識を整理しておくことが重要になる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験を実施する。課題レポート、授業意欲、態度について総合的に評価する。出席日数が規定に満たない場合は、期末試験の受験資格が与えられない。					
教科書					
ナーシング・グラフィカ 18、基礎看護技術／志自岐康子他:メディカ出版, 2008					
参考書					
メッセージ					
基礎看護方法論 I、方法論演習 I は連続して講義演習を行うため、授業時間が長時間になります。当日のアルバイト、クラブ活動などは自粛する方が望ましいです。					
連絡先					
藤澤 22-2814 reiko@yamaguchi-u.ac.jp 稲垣 2851 jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp 加瀬田 2815 nobk@yamaguchi-u.ac.jp 生田 2822 ikuta@yamaguchi-u.ac.jp 河村 2839 atsuko@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
藤澤:水 18:00～ 稲垣:水 11:50～12:50 加瀬田:水 11:50～12:50 生田:水 11:50～12:50 河村:水 11:50～12:50					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500210
開設科目名	基礎看護方法演習 I			単位	2 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	藤澤 怜子			区分	
授業の概要					
人間関係を発展させる技術、安全を守る技術、安楽確保の技術、情報収集と観察の技術、日常生活の援助技術を演習する。演習を通して基本技術の目的・必要性・期待される効果を認識し、正確な看護技術が修得できると共に、基本技術を支える態度を養う。					
授業の一般目標					
1. 看護に共通する技術である、人間関係を発展させる技術、安全を守る技術、安楽確保の技術、情報収集と観察の技術等を演習を通して修得する。					
2. 日常生活の援助技術を修得する。					
3. 基本技術の目的・必要性・期待される効果を認識し、正確な看護技術が修得できると共に、基本技術を支える態度を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 各技術のエビデンスとなる知識が説明できる。					
正確な看護技術が実践できる。					
思考・判断の観点: 基本技術の必要性・期待される結果を説明できる。					
関心・意欲の観点: 事前の課題に積極的に取り組む					
不明な点を演習時間内でクリアできるようにする。					
態度の観点: グループで効果的な演習が実践できるよう、メンバーの役割を果たす。					
技能・表現の観点: 時間内に予定された技術項目を実施できる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験を実施する。課題レポート、演習への参加度、意欲、態度について総合的に評価する。出席日数が規定に満たないものは期末試験の受験資格が与えられない。					
教科書					
実践的看護マニュアルー共通技術編／川島みどり編著:看護の科学者					
参考書					
メッセージ					
基礎看護方法論 I の講義に続いて演習を行います。演習は、患者・看護者・観察者の役割を取りながら、学生自身あるいはモデル人形を用いて各技術を実際に行い技術を修得することになります。					
連絡先					
基礎看護方法論 I を見て下さい					
オフィスアワー					
基礎看護方法論 I を見て下さい					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500211
開設科目名	成人疾病学			単位	2単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	清水 昭彦			区分	
授業の概要					
臨床に必要なおもな病気の病態と治療					
授業の一般目標					
臨床に必要なおもな病気の病態と治療を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 臨床に必要なおもな病気の病態と治療を知り、理解する。					
思考・判断の観点: 臨床に必要なおもな病気の病態と治療を知り、理解して思考できるようにする。					
関心・意欲の観点: 臨床に必要なおもな病気の病態と治療に関心を持つ					
態度の観点: 臨床に必要なおもな病気の病態と治療に関して学ぶ態度を身につける。					
技能・表現の観点: 臨床に必要なおもな病気の病態と治療を理解し、みんなに教えることができる。					
成績評価方法(総合)					
筆記試験とレポート。 主に筆記試験で評価する。					
教科書					
系統看護学講座: 医学書院, 2008					
参考書					
メッセージ					
予習をすること。					
連絡先					
清水研究室 EX 2856、 E-mail: ashimizu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500212
開設科目名	成人看護学概論			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
ライフサイクルにおける成人期の特徴を解説し、成人期に特有な健康障害の特徴、成人看護の対象論と援助論、および、看護の役割を教授する。また、成人看護に適応される理論とモデルを教授する。					
授業の一般目標					
1、成人期の特徴と健康生活・健康障害について理解できる					
2、成人看護に適応される主な理論とモデルを理解できる					
3、成人期の健康障害を抱える人々に対する看護の役割について理解できる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験					
教科書					
系統看護学講座専門5「成人看護学総論」/医学書院					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500213
開設科目名	精神保健学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	渡邊 義文			区分	
授業の概要					
精神障害についての知識を講義する。精神障害を抱える患者さんを援助するためには、良い人間関係を築くことが第一である。そのためには、先入観や偏見なしに一人の人間として、患者さんに接するとともに、精神障害に特徴的な問題点への理解が必要である。講義では、精神障害を抱えた患者さんの理解を助けるために、さまざまな知識を系統的に講義する。					
授業の一般目標					
1.さまざまな精神疾患について理解する					
2.精神障害の抱える症状を理解する。					
3.精神障害の診断と検査の種類について理解する。					
4.主な精神障害の治療法について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.精神障害について理解できる。					
2.個々の精神疾患の特徴について理解できる。					
3.精神科における診断や治療法について理解できる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験を行う					
教科書					
新体系 看護学全書 34 精神看護学①/佐藤壹三監修:メヂカルフレンド社, 2008					
新体系 看護学全書 35 精神看護学②/佐藤壹三監修:メヂカルフレンド社, 2008					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500214
開設科目名	小児疾病学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	辻野 久美子			区分	
授業の概要					
小児は新生児期から思春期に至るまで常に身体的、精神的に発育・発達し続ける個体である。従って、小児医療を実践する際には、常に発育・発達を念頭に置いたきめ細やかな配慮が要求される。小児は出生から成人に至るまでに、種々の疾病に罹患し、それらは小児の発達段階に応じた特色をもつ。本講義では小児疾病の特性について学ぶ。					
授業の一般目標					
1.小児の成長・発達の特性を理解する。 2.小児に特有な疾病の概念、診断、検査法、治療法を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 小児の成長・発達の特徴を説明できる。 小児疾患の病態生理を説明できる。 小児に特有な疾患の概念・原因・症状・検査・診断・治療を説明できる。 小児疾病の予防方策を説明できる。 現場で用いられる医療英語を理解できる。 思考・判断の観点: 小児の発達段階に応じた視点で、小児疾病を考えることができる。					
成績評価方法(総合)					
レポート、試験、出席率などによる(単位認定の最低条件:総授業数の2/3以上の出席およびレポート提出)					
教科書					
ナースとコメディカルのための小児科学/白木和夫, 高田哲編集:日本小児医事出版社, 2008					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
辻野 久美子 0836-22-2806(tsuji@yamaguchi-u.ac.jp) 村上 京子 0836-22-2820(k.mura@yamaguchi-u.ac.jp)					
オフィスアワー					
辻野久美子(0836-22-2806)に連絡して下さい。 201 研究室 村上京子 (0836-22-2820)に連絡して下さい。 312 研究室					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500215
開設科目名	母性対象論			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	田中 満由美			区分	
授業の概要					
母性看護の意義・母性看護の基礎となる概念について教授する。					
授業の一般目標					
母性看護の基礎概念を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.母性看護の主な概念について概説できる。					
2.母性看護の発達と歴史について概説できる。					
3.母子保健の指標を考察し、問題点を列挙できる。					
4.母子保健の動向を知り、母子保健の現状を分析できる。					
5.母性看護における倫理的課題を概説できる。					
6.母性看護に関する法令について概説することができる。					
7.ライフサイクル各期の女性の身体的・心理的・社会的特徴を列挙できる。					
8.ライフサイクル各期の女性の健康課題について述べることができる。					
思考・判断の観点: 1.母子保健の指標について、アセスメントできる。					
2.母性看護における倫理について、アセスメントできる。					
3.ライフサイクル各期の女性の性と生殖に関する健康状態がアセスメントできる。					
関心・意欲の観点: 1.授業に関連することを自己学習によって知識を深める。					
2.母性看護に対して日常生活の中で関心を高める。					
態度の観点: 1.授業は欠席および遅刻をせず、積極的態で参加する。					
2.日常生活の中で母性看護にかかわる出来事や問題点について主体的に考えることができる。					
技能・表現の観点: 大学学生用の電子シラバスに準じる					
その他の観点: 大学学生用の電子シラバスに準じる					
成績評価方法(総合)					
定期試験にて、知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現を確認する。課題レポートにて、知識・理解、思考・判断、技能・表現を確認する。授業への参加度にて、関心、態度を確認する。					
教科書					
系統看護学講座専門24 母性看護学(1)母性看護学概論／森恵美他:医学書院, 2008					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
田中満由美:22-2821、E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp					
戸部郁代:22-2825					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500216
開設科目名	老年疾病学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	野垣 宏			区分	
授業の概要					
老化とは何か、および加齢による臓器・器官の形態学的、生理学的、生化学的変化について概説し、老年患者のアセスメントおよび老年者に多く見られる疾患の病態・治療・予後等について教授する。					
授業の一般目標					
老化とは、老年者の特徴、老年症候群、主な老年病の病態を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 老化、老年者の特徴、主な老年病の病態を説明できる。					
成績評価方法(総合)					
学期末試験で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
nogaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500217
開設科目名	英語聴解			単位	1 単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	服部 幸夫			区分	
授業の概要					
英語を実際に自分の口で喋ることにより、speaking および listening の能力の向上を図ります。 具体的には「shadowing」という技法で行います。 週に3回、各30分ずつ行いますが、継続が最も大切です。					
授業の一般目標					
英語を喋り、聴くことにより、異文化との触れ合いを実感する。 英語を喋る「羞恥心」を取り除く					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 言語は「コミュニケーション」のためにあるもので、決して「完璧」に喋る必要のないことを体得する。					
思考・判断の観点: 少しでも喋って、外国人と「コミュニケーション」が出来ると、楽しくなります。それは異文化との接触が心地よいからです。					
関心・意欲の観点: たとえ、自分の英語力がさほどでなくても、実際に自分で話してみると案外通じるものです。「使ってみよう」と心のバリアを越えると、関心と意欲が湧いてきます。					
態度の観点: 自分の文化と異なる異文化には、軽蔑でなく「尊敬」の心で接することにより、相互理解が深まることに気付く					
技能・表現の観点: このトレーニングを重ねればかさねるほど、語彙が豊富になり、より楽しくなることに気付く					
その他の観点: 英語は現在においては国際共通語です。寧ろ、第2の「日本語」と思って接するの如何？					
成績評価方法(総合)					
出席のみです。					
教科書					
NHK ラジオ講座「入門ビジネス英語」(H21 年度毎月発刊、¥380) / John K. Gillespie: 日本放送出版協会					
参考書					
メッセージ					
授業では 10 回程度しか shadowing が出来ませんので、是非残り 20 回ほどを自分で行って下さい。これは「ながら族」で結構です。shadowing はスキットの会話の後追いをすること、つまり、「聴きながら喋って」後追いすることです。遅れたら、中断をして追いついたらまた追いかけて下さい。文字を見ないようにすることがコツです。					
連絡先					
yhattori@yamaguchi-u.ac.jp tel & fax: 0836-22-2807					
オフィスアワー					
授業、会議、その他でオフィスにいないことが多いので、先に連絡(上記)をいただければ、幸いです。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500218
開設科目名	英語読解			単位	1単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	服部 幸夫			区分	
授業の概要					
<p>月～金の毎朝 8:05-8:35 の 30 分間に、英語で書かれた医学書を読みます。毎日英語に触れることにより、医学の専門英語が身につく、文献を読むのが楽になります。1文章ずつ、誰かが英語で読んで、別の者がその部分の日本語の訳本を読み上げ、最後に教員が「英語」で解説をつけます。したがって、30分間の大部分が英語で行われる授業です。内容は国試に関連のあるものを選んで読みます。つまり、医学書の読解、speaking、国試レベル以上の知識習得を知らずのうちに獲得するという欲張った企画です。</p>					
授業の一般目標					
<p>医学英語に慣れる 国試にも関係する医学知識をより深く獲得する 自分の speaking に寄与する</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:「Pathology」(病理学)の本を読んでいます。内容を理解すると同時にそこに使われている医学用語(英単語)に慣れる。(ここで得られた知識は国試にも役立ちます。)</p> <p>思考・判断の観点:授業で浅く習った内容を、もう少し深く学び、より楽しく知識を獲得する</p> <p>関心・意欲の観点:特に3、4年次生、編入生には基礎知識が幾分かあるだけに、一段と楽しめます。</p> <p>態度の観点:単に学習するだけでなく、毎日持続することの出来る「人格」の養成が、最も得るところが大きい</p>					
成績評価方法(総合)					
出席のみです。					
教科書					
Essential Pathology／Emanuel Rubin:Lippincott, 2001					
参考書					
メッセージ					
自分との戦いですが、得るものも少なくないプロジェクトです。					
連絡先					
yhattori@yamaguchi-u.ac.jp tel & fax 0836-22-2807					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500219
開設科目名	英文多読			単位	1 単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	田中 経彦			区分	
授業の概要					
<p>自分が好きな本を色々読む小学校中学校での朝読書の英語版です。Extensive Reading と言います。多読と言うと義務的に読む感じがしますが、そうではなく色々自由に選んで読書しようというものです。楽しく読めれば結果的にたくさん読めます。その時点で非常に易しく読める英語の本から始め色々な本を読みます。訳さずに英語のまま読んで行きます。今日自分にとって楽しい本を読みます。読みたい本が今読めなければ、易しい本を読んで行くと読めるようになり。電気通信大学の酒井邦秀准教授がまとめた多読三原則「1. 英和辞書を引かない 2. わからなければ飛ばす 3. 進まなければ後回し」に従い、易しい本からたくさん読んでいくうちに2年くらい(毎日30分)すればPaperbacksが読めるようになり、ひいては英語の専門原書を読むのが楽になるはず。専門原書には知識が必要ですが、ただし、卒業に必要な英語の単位にはなりません。帰国子女の方は、読み聞かせ等をしていただけると優遇します。インターネットで利用できる英語ニュース等のサイトも紹介します。気分転換に英語の音楽を聴いても構いません。1時間程度読んだら退出自由です。もともとTOEIC 高得点の人は1時間半読みますが。</p>					
授業の一般目標					
<p>専門書は別ですが、自分にとって面白い本を何ヶ月もかけて訳読しようとする、途中で興味が薄れてしまい止めてしまいかねません。「大草原の小さな家」等の原作を数日で読める自信をつけるのが目標です。</p> <p>訳読にこだわるのは、もうやめましょう。大学院入試、大学病院検査部の就職試験に辞書持込で英語の試験が出ることがありますが、直訳ではなく意識をすれればいいのです。英語をたくさん読めば分からなかった複雑な文もわかるようになります。</p> <p>英語の本を訳読するとせいぜい毎分80語ですが、毎分100語以上で直読できればTOEICは600以上に相当します。毎日30分でも読んでいけば、誰でもできます。大学を出るまでにこの段階に到達しておけば、英語が楽しくなるはず。大学入学時より英語力が必ず向上します。</p>					
授業の到達目標					
<p>思考・判断の観点: 英語話者の思考方法に興味を持つ</p> <p>関心・意欲の観点: 英語で直接情報を取り込む意欲</p> <p>態度の観点: 英語文化に親しむ。</p> <p>技能・表現の観点: 7割くらいしか分からずともいっから、英文を訳さずできるだけ早く読めるようになること。(TOEIC600点台の人は毎分100語以上だそう。やさしい文章から始めればほとんどの人が毎分100語以上、200語以上の人も珍しくありません。)</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>英語への積極性を評価します。単位認定にはアンケートに必ずお答え下さい。皆勤であれば、誰も80点です。毎分100語で読むとすると、90分授業14回で、12万6千語です。中学高校6年間で読む英文は、熱心な人で10万語程度です。一方英米の小中高生は毎年100万語は読むそうです。記録手帳に語数を記録して10万語を越した分は、1万語の上積につき、1点加算します。TOEICの点数についても考慮します。</p>					
教科書					
参考書					
<p>さよなら英文法！多読が育てる英語力／酒井邦秀：筑摩書房、2008</p> <p>100万語多読入門／古川昭夫、伊藤晶子：コスモピア、2005</p> <p>英語喉 50のメソッド／上川一秋、ジーナジョージ：三修社、2007</p> <p>ロングマン ベーシック英英辞典／ロングマン社編集局：桐原書店、2002</p>					
メッセージ					
<p>やさしい英語の本を訳さないで早く読む訓練はTOEIC創設者の一人、三枝幸夫元早大教授(個人)も薦めておられ、世界の常識です。</p> <p>英語を直読するのに慣れていないと、眠くなります。無意識に訳そうとすると眠くなるのでこんな易しい本と思っ本から読んでください。また三コマ目の授業を受けるときは、少し昼ごはんを軽くしたらいいかもしれません。空腹気味だと眠くなりません。</p> <p>語数は、酒井先生、古川氏(SEG代表)らが多読の普及のために作ったSSSと言う団体の協力者が公開している語数です。教材の本に書き込んであります。</p>					
連絡先					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

授業時間がオフィスアワーです。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500301
開設科目名	成人看護学実習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
要項の通り					
授業の一般目標					
要項の通り					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
要項の通り					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500302
開設科目名	成人看護学実習Ⅱ			単位	3単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	齊田 菜穂子			区分	
授業の概要					
<p>成人期(青年期、壮年期、中年期)で、慢性期・終末期病態にある人々を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、看護の対象となる健康問題を明らかにし、その健康問題を解決するための知識、理論、技術及び態度を実習を通して習得する。慢性期看護では慢性期病態にある人々の生活をできるだけ普通に保ち、かつQOL(Quality of Life)を高めるための援助に必要な知識と技術を習得する。終末期看護では、終末期病態にある人が全人的痛み(身体的、精神的、社会的、霊的)が和らぎ、安寧な死が迎えられるように家族とともに援助する看護の知識・技術及び態度を習得する。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 慢性期、終末期病態にある成人期の人々とその家族を身体的・社会的側面から総合的に理解できる。 患者及びその家族と有効な人間関係を成立させ、患者の健康問題を判断し、解決方法を計画し、実施、評価できる。 継続看護の必要性を理解し、社会復帰への援助方法を理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 慢性期・終末期病態にある成人期の人々の身体・心理・社会的特徴を説明できる。 患者に生じている機能障害出現のメカニズムと成り行きを説明できる。 患者やその家族を理解し、看護を行っていくために必要な諸理論を説明できる。 患者及び家族が活用可能な医療、保健、福祉サービスを説明できる。 					
思考・判断の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 機能障害をもつ患者がいかなる健康問題及び生活上の困難を抱えるかを説明できる。 機能障害をもった患者の健康問題を解決するための看護を根拠とともに説明できる。 慢性期・終末期看護で求められる看護師の能力について、自らの考えを記述・口述できる。 					
関心・意欲の観点:					
病を持つ成人患者や家族の体験に関心を持つ。					
態度の観点:					
<p>実習中の行動における自己客観性、責任性、協調性、共感性、規律性、積極性、慎重性、倫理性</p> <p>いかなる場面においても、人権、生命の尊厳を尊ぶ態度がとれる。</p> <p>*人の死に直面している自分の情動反応を分析し、自己洞察できる。</p>					
技能・表現の観点:					
看護技術の適切性・達成状況					
成績評価方法(総合)					
<ol style="list-style-type: none"> 看護過程の展開状況と記録内容 70% 実習に臨む態度(自己客観性、責任性、協調性、共感性、規律性、慎重性、倫理性) 30% 出席は、欠落条件 					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>実習中は日々のケアに向けて復習・予習が必要で、大変厳しい状況が続きますが、心身共に健やかな状態で実習に臨まれますよう健康の自己管理を十分にしてください。実習中に困ったことがあった場合はできるだけ早く教官に相談して下さい。</p>					
連絡先					
<p>齊田菜穂子:22-2855</p> <p>正司亜矢子:22-2861</p>					
オフィスアワー					
齊田菜穂子・正司亜矢子:研究室に在否を確認して訪室して下さい。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500303
開設科目名	精神看護学実習			単位	2単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	山根 俊恵			区分	
授業の概要					
精神の健康に障害をもつ患者との関わりを通じて、その人が自分らしく生きる、あるいは生活できる為の問題解決方法を当事者とともに考える援助技術を修得する。また退院後の地域生活を支援するための看護師の役割について学習を深める。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神を病む人との関わりを通して、その人を理解する技術(コミュニケーション、接近技法)を学ぶ。 2. 患者の抱える精神保健上の問題について、身体面・精神面・社会面から理解する。 3. 患者の抱える問題や持っている力についてアセスメントを行い、必要な援助技術を学ぶ。 4. 精神障がい者を地域で支えるための制度や施策、社会資源などについて理解を深め、精神障がい者がその人らしく生活するために何が必要なのかを考えることができる。 5. 看護師としての自己を成長させるために自己の言動を振り返り、自己開発のための洞察を試みる。(プロセスレコード) 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1) 種々の精神疾患の症状と治療法を述べ、それに対する適切な援助方法を述べることができる。					
2) 発病に至った経緯を理解し、身体的・精神的・社会的側面から患者を理解することができる。					
3) 患者の持つ障害の内容とその程度、患者の受けている治療を説明できる。					
4) 患者とのかかわりをおとして精神科病棟における安全管理の特殊性を理解する。					
5) 受け持ち患者のセルフケア能力のアセスメントを行い必要な援助ができる。					
6) 発達段階を考慮して精神状態をアセスメントすることができる。					
7) 受持ち患者の全体像を把握し問題点を明確にできる。					
8) 受け持ち患者に必要な看護計画を立案し実施できる。					
9) 患者間、学生を含めたスタッフ-患者間、スタッフ間、および病棟全体のダイナミクスを理解し、チームワークについて理解できる。					
10) カンファレンスを通して、様々な精神に障害を持つ人への援助について学ぶことができる。					
思考・判断の観点: 1) 精神障がい者に関する制度や法律を患者に即して理解できる。					
2) 障害が、入院中・退院後の日常生活にどのような影響を及ぼすか述べることができる。					
3) 障害を対象および家族がどのように受け止めているのか述べることができる。					
4) 精神障がい者に必要な退院および地域支援について考えることができる。					
5) 患者と共に社会復帰の目標を具体的に設定し、社会資源を含めた必要な援助について学ぶ。					
関心・意欲の観点: 1) コミュニケーション技術を用いて受け持ち患者とのよりよい関係を構築することができる。					
2) 精神に障害がある人との効果的なコミュニケーションについて考えることができる。					
3) 精神に障害を持つ患者との関わりを通じて、自分自身のコミュニケーションの傾向を知ることができる。					
4) 患者自身がどのようになることを希望しているのかを理解することができる。					
5) 精神に障害を持つ人との関わりを通して、共感・受容・距離の意味を説明することができる。					
態度の観点: 1) プロセスレコードを通じて、自らの対人援助について振り返ることができる。					
2) 患者の言葉や行動から、患者の感情について気づくことができる。					
3) 患者の立場から自分の行動や反応を省みて、自分自身の行動や反応のパターンに気づくことができる。					
4) 自分自身の感情や行動に気づき、患者-看護師関係への影響を考えることができる。					
5) 患者-看護師関係の発展過程を理解し、治療的かかわりを学ぶことができる。					
成績評価方法(総合)					
実習態度、記録、看護実践等を総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500304
開設科目名	母性看護学実習			単位	2単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	田中 満由美			区分	

授業の概要

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象者、およびそれらを取り巻く家族を理解し、対象者の援助に必要な母性看護学としての知識・技術・態度を看護過程の展開を通して教授する。

授業の一般目標

1. 母性看護学の対象者である妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康状態をアセスメントするために必要な知識や技術を習得することができる。
2. 対象者の健康を保持・増進させるための看護展開(計画・立案、実践、看護評価)を習得することができる。
3. 健康から逸脱している場合は、その要因になっているものを追求でき、健康逸脱からの回復のための看護展開(計画・立案、実践、看護評価)を習得することができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1.妊婦の健康診査の目的と方法を説明することができる。

- 2.正常妊娠経過および生理的・心理発達変化を説明できる。
- 3.妊婦、胎児に必要な検査の種類・目的・方法を説明できる。
- 4.胎児の発育と健康状態を把握する方法を説明できる。
- 5.妊娠各期に必要な保健指導、生活援助方法を説明できる。
- 6.妊娠による生理的变化とマイナートラブルの関連を説明できる。
- 7.マイナートラブルを解決するための援助方法を説明できる。
- 8.妊娠各期に起こりうる異常の早期発見、治療法、援助方法について説明できる。
- 9.陣痛発来と分娩機転、分娩による生理的变化を説明できる。
- 10.分娩各期における保健指導、援助方法を説明できる。
- 11.分娩直後の褥婦の生理的特徴を説明できる。
- 12.出生直後の新生児の生理的特徴を説明できる。
- 13.出生直後の新生児の診察技法、新生児の胎外生活適応への援助方法を説明できる。
- 14.分娩各期に起こりうる異常とそれに対する援助方法を説明できる。
- 15.産褥期における生理的变化を説明できる。
- 16.産褥期における心理発達の变化・社会的変化を説明できる。
- 17.褥婦に必要な保健指導、生活援助方法を説明できる。
- 18.早期新生児の生理的变化を説明できる。
- 19.新生児看護の原則を説明できる。
- 20.産褥期に起こりうる異常の早期発見とその対処方法を説明できる。
- 21.新生児期に起こりうる異常の早期発見とその対処方法を説明できる。

思考・判断の観点: 1.対象者の妊娠週数における正常な母体の変化と順調な胎児の発育がアセスメントできる。

- 2.妊婦の日常生活適応とセルフケア能力をアセスメントできる。
- 3.胎児の健康状態をアセスメントできる。
- 4.集団指導として母親学級を、個別指導として助産師外来を見学し、対象者の学習効果を説明できる。
- 5.分娩の順調な進行と産婦のセルフケア能力をアセスメントすることができる。
- 6.胎児管理の目的を理解し、産婦および胎児の健康状態をアセスメントしてそれに対する援助方法を説明できる。
- 7.褥婦の退行性変化および進行性変化の経過をアセスメントできる。
- 8.褥婦の産褥経過に応じたセルフケア能力をアセスメントできる。
- 9.母子(父子)愛着行動、母親の養育・育児能力をアセスメントできる。
- 10.新しい家族(新生児)を迎える家族の関係をアセスメントできる。

<p>11.新生児の胎外生活適応の状態をアセスメントできる。</p> <p>12.対象者の理解、アセスメント、看護計画の立案・計画、看護実践、看護評価の一連の過程を科学的根拠に基づいて展開できる。</p> <p>関心・意欲の観点:1.実習開始前に援助技術能力を自己評価し、不足部分は自己学習によって能力を向上できる。</p> <p>2.実習中における自己の健康管理を怠らない。</p> <p>態度の観点:1.欠席や遅刻を一度もしない。</p> <p>2.指示された内容(対象者の秘密)を守ることができる。</p> <p>3.対象者に危害を加えたり、不快感を与えたりすることがない。</p> <p>4.グループ、チーム内で協調行動がとれる。</p> <p>5.他人の意見を尊重して傾聴できる。</p> <p>6.責任感のある行動を取ることができる。</p> <p>7.自分の意見を簡潔に伝達・報告することができる。</p> <p>8.何事も積極的、意欲的に取り組むことができる。</p> <p>9.正しい言葉使いで会話することができる。</p> <p>10.身だしなみは母性看護学実習に適切なものである。</p> <p>11.対象者、指導者および関係者と円滑なコミュニケーションがとれる。</p> <p>技能・表現の観点:1.妊婦看護に必要な情報(心理発達・社会経済的背景、日常生活背景)を、視診、触診、聴診、計測診などの基本的看護技術を適用して収集することができる(腹囲・子宮底長、浮腫、尿検査、胎児の健康、心理的適応、親への発達、家族役割の変更など)。</p> <p>2.妊婦に必要な保健指導や生活援助方法を実施できる。</p> <p>3.分娩各期の産痛緩和のための援助・指導ができる。</p> <p>4.分娩各期における産婦の心理的援助ができる。</p> <p>5.分娩各期における日常生活援助ができる。</p> <p>6.復古現象を促進させるための援助が実践できる(外陰部観察、子宮状態の観察、悪露交換、外陰部の清潔、産褥体操)。</p> <p>7.母乳栄養を確立させるための援助が実践できる(乳房観察、泌乳ケア、乳房ケア、授乳援助)。</p> <p>8.親子関係確立への援助ができる(母子・父子・家族との相互作用の観察、親密機会の援助、関係確立の援助、家族関係調整の援助)。</p> <p>9.育児技術習得のための援助・指導ができる。</p> <p>10.退院後の生活支援・指導ができる。</p> <p>11.新生児の全身の観察、胎外生活への移行観察ができる。</p> <p>12.新生児の日常生活援助(沐浴、栄養、衣服の着脱、おむつ交換、抱っこ、愛護、感染防止、事故防止)が安全・安楽に実施できる。</p> <p>13.カンファレンスにおいて自分が実践した対象に対する看護の内容および看護評価を簡潔に発表することができる。</p>
<p>成績評価方法(総合)</p> <p>1)実習は、原則欠席を認めない。教員の許可を得て、やむ終えず欠席する場合、指定された補習実習を実施しなければ単位は修得できない。</p> <p>2)外来実習を1単位、病棟実習を1単位として評価する。</p> <p>3)評価についての詳細は実習要項に記載してあります。</p>
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門25 母性看護学各論2/森恵美他:医学書院, 2008</p>
<p>参考書</p> <p>根拠がわかる母性看護技術/北川真理子:メヂカルフレンド社, 2008</p>
<p>メッセージ</p> <p>*授業にて、学習したことは、実習前に必ず事前学習・復習をして出席してください。</p> <p>*実習オリエンテーションには必ず出席すること。</p> <p>※実習には実習要項を熟読し、到達目標をしっかりと認識して望むこと。</p> <p>*連絡および相談事項が生じた場合はできるだけ早期に行なうこと。</p> <p>*連絡および相談事項が生じた場合は原則、本人が連絡すること。</p>
<p>連絡先</p> <p>田中満由美:22-2821、E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>戸部郁代:22-2825</p> <p>田中奈美:22-2840</p>

亀崎明子:22-2829

山元公美子:22-2819

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500306
開設科目名	小児看護学概論			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	辻野 久美子			区分	
授業の概要					
小児看護では出生前期から学童・思春期頃までの小児とその家族を対象とし、健康・不健康を問わず広く小児を理解し、小児の健康に関するあらゆる問題に対応する。しかし、成育医療の概念も忘れてはならない。ここでは小児期各期の特性を始めとする小児保健と看護を中心に講義し、小児看護に対する関心を深める。					
授業の一般目標					
(1) 小児看護の理念と目的、役割を理解する。 (2) 小児保健における小児看護の役割を理解する。 (3) 小児期各期の特徴と生活について学び、健康な小児の成長・発達を理解する。 (4) 小児とその家族への適切な看護ケア・支援について、考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 小児看護の理念と目的、役割を説明できる。					
小児保健における小児看護の役割を説明できる。					
小児期各期の特徴と生活について説明できる。					
健康な小児の成長・発達の特徴を説明できる。					
思考・判断の観点: 小児とその家族への適切な看護ケア・支援について考えることができる。					
成績評価方法(総合)					
試験、レポート、出席率などによる(単位認定の最低条件:総授業数の2/3以上の出席およびレポート提出)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
辻野久美子 tsujino@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2806) 村上京子 k.mura@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2820)					
沓脱小枝子 saeko@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2847) に連絡してください。					
オフィスアワー					
辻野久美子 tsujino@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2806) 村上京子 k.mura@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2820)					
沓脱小枝子 saeko@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2847) に連絡してください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500307
開設科目名	老年看護学概論			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	堤 雅恵			区分	
授業の概要					
我が国は世界の最長寿国であり、高齢者の健康や QOL の維持は、看護職の大きな役割の一つである。高齢者はライフサイクルの最終段階にある人々であり、社会的背景や生活習慣などの影響により個人差が大きい。また、老化に伴う諸臓器機能の生理的変化は予備力や適応力の低下につながり、ささいな負荷によって疾病・障害が発生したり増悪したりする。この科目では、高齢者の特性および高齢者を取り巻く社会の歴史と現状について知り、高齢者の QOL の維持を目指した老年看護のあり方について考える。					
授業の一般目標					
1. 高齢者の身体・心理・社会的特徴について知る。 2. 高齢社会の歴史と実態について知り、老年看護学が必要とされる社会的背景を理解する。 3. 老年看護学の概念、機能、目的について理解する。 4. 高齢者を取り巻く課題について考える。 5. 保健・医療・福祉チームの一員の立場から、高齢者ケアに果たす看護職の役割について考える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 高齢者の身体・心理・社会的特徴について説明できる。 2. 高齢社会の歴史と実態、老年看護学の概念、機能、目的について説明できる。 3. 高齢者を支援する保健・医療・福祉システムの目的・機能について、例をあげて述べることができる。					
思考・判断の観点: 1. 高齢者を取り巻く課題について考えることができる。 2. 保健・医療・福祉チームの一員の立場から、高齢者ケアにおける看護職の役割は何かを考えることができる。 3. 高齢者を取り巻く課題を踏まえた上で、対象者の特性に応じた看護のありかたについて考えることができる。					
関心・意欲の観点: 1. 高齢者ケアに関連する情報を意欲的に収集することができる。 2. 高齢者ケアにおける課題について学生間で、もしくは教員をまじえてディスカッションするなどの行動がみられる。					
態度の観点: 1. 出席状況が良好である。 2. 熱意をもって講義を聴くとともに、演習において積極的な発言がみられるなど、意欲的な態度が認められる。					
技能・表現の観点: 1. 学習内容を踏まえて深く考察した内容を、レポート等で表現できる。					
成績評価方法(総合)					
【全体】定期試験やレポート内容、参加度から総合的に評価する。授業への出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験資格を失う。					
【観点別】各観点から総合的に評価する。					
教科書					
ナーシング・グラフィカ 26 高齢者の健康と障害／堀内ふき 他:メディカ出版, 2008					
参考書					
メッセージ					
老年看護学は、皆さんも教員も体験し得ない年齢の人々の看護についての学問です。そのため、老年疾病学をはじめとして関連科目で学んだ内容と関連づけながら理解を深めることや、講義を聴きながら、高齢者やその家族、取り巻く社会についてのイメージをしっかりとふくらませていくことが大切です。					
連絡先					
堤雅恵 22-2818, tutumi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 16:10～17:40					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500308
開設科目名	地域看護学概論			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	守田 孝恵			区分	
授業の概要					
地域看護の基本的概念と地域で生活する人々を対象とした保健活動の展開について、保健師活動の実際をとおして解説する。また、学校保健について概説する。					
授業の一般目標					
1 地域の概念を理解できる。					
2 地域を対象とした看護であることの意味を理解できる。					
3 地域保健活動の展開について学ぶ。					
4 住民の健康づくりについて学ぶ					
4 学校保健について学習する					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 地域とは何か、具体的に理解できる。					
地域の保健活動の展開を理解できる。					
住民の組織活動を理解できる					
思考・判断の観点: 地域の保健活動の実践事例から、地域保健活動の展開を考えることができる					
関心・意欲の観点: 地域について、これまでの学生の経験から関連づける。					
態度の観点: 課題について、主体的に学習する。					
技能・表現の観点: 各講義をとおして、自ら学習した内容を記述できる。					
成績評価方法(総合)					
試験・演習・講義出席					
教科書					
地域看護学.JP/後閑容子:インターメディカル, 2009					
地域看護学/平野かよ子:建白者, 2005					
学校保健実務必携:第一法規					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
22-2827					
mtakae@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
連絡して来室下さい。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500309
開設科目名	保健管理学			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	守田 孝恵			区分	
授業の概要					
地域の人々の健康づくり、健康管理・疾病予防等が地域において実際にどのように行われているのかを解説する。					
授業の一般目標					
1.健康づくりの基本的な考え方が理解できる。 2.地域保健計画や住民参加の意義について学ぶ。 3.地域看護の対象別看護の展開が理解できる。 4.学校保健について学習する					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 地域の保健活動の展開の実際をイメージできる。					
思考・判断の観点: 地域の保健活動の実践事例から、地域保健管理(保健計画と実践、評価のあり方)を考察することができる					
関心・意欲の観点: 主体的に学習する。					
態度の観点: 課題について、主体的に情報を収集する。					
技能・表現の観点: 地域の保健活動の方法や技術(家庭訪問・健康教育・グループ支援)を理解できる。					
成績評価方法(総合)					
試験・演習・講義出席					
教科書					
新訂版 学校保健実務必携／学校保健・安全実務研究会:第一法規, 2006 三訂養護概説／三木とみ子:ぎょうせい, 2005					
参考書					
地域看護学 JP／後閑容子ほか:インターメディカル 地域看護学／平野かよ子:建白社					
メッセージ					
連絡先					
22-2827 mtakae@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
連絡して来室下さい。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500401
開設科目名	高度先進医療看護学			単位	1単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
<p>高度先進医療の具体例を紹介し、それにかかわる看護の役割を教授する。また、高度医療にまつわる問題についても、看護の立場で考察できるようにする。知識に関する教授は講義形式で行う。スライド等を用い、医療の実際をビジュアルに教授できるように考えている。また、脳死臓器移植に関する問題を題材に、グループディスカッションを通して考察できるようにする(レポート課題あり)。最後の授業では、まとめとしてテストを実施する。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1) 高度先進医療と看護の関わりについて理解する。(2) 高度先進医療の具体例について説明できる。(3) 高度先進医療にまつわる問題について認識し、考察できる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1、高度先進医療の概要について説明できる。2、主に集中治療、循環器領域の場面で行われる高度医療に関する事項について説明できる。3、高度先進医療にまつわる問題について説明できる。4、高度医療にかかわる看護の役割を説明できる。</p> <p>思考・判断の観点:高度医療がもたらす倫理的問題について考察できる。</p> <p>関心・意欲の観点:最先端医療について関心を持つことができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>小テストを実施し、その結果と授業課題レポートを合わせて評価する。出席が所定の回数に満たない場合は、単位認定はできない。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500402
開設科目名	小児看護学実習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	辻野 久美子			区分	
授業の概要					
<p>小児科病棟および保育所で、小児看護の実習を行い、小児看護の実践能力を養う。</p> <p>病棟実習では、健康を損ない入院を余儀なくされた小児に対して看護を行い、実施した看護について考察する。保育所実習では保育活動に参加して子どもと触れ合い、健康な子どもの成長・発達や日常生活の様子などを観察し、子どもについて理解を深める。</p>					
授業の一般目標					
実習要項を参照のこと					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
実習要項を参照のこと					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
辻野久美子 tsujino@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2806) 村上京子 k.mura@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2820) 沓脱小枝子 saeko@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2847) に連絡してください。					
オフィスアワー					
辻野久美子 tsujino@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2806) 村上京子 k.mura@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2820) 沓脱小枝子 saeko@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2847) に連絡してください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500403
開設科目名	看護遺伝学			単位	1 単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	辻野 久美子			区分	
授業の概要					
<p>遺伝医療の進展に伴い、現場では遺伝性疾患、染色体異常、家族性腫瘍などをもつクライアントをケアする機会が増えている。このような状況の中で、適切な看護ケアを行うために、看護師は遺伝に関する基礎知識と実践能力をもつことが要求される。本授業では、臨床現場で遺伝的諸問題に対処できるような知識・能力を学ぶ。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 先天異常について説明できる。 2. 単一遺伝子病の遺伝形式を理解し、疾患にはどのようなものがあるかを説明することができる。 3. 染色体とDNA・遺伝子との関係を理解し、説明することができる。 4. 染色体異常と単一(メンデル)遺伝子病の違いを説明することができる。 5. 遺伝問題を持つクライアントや家族に対する看護の役割を理解できる。 6. 遺伝性疾患をもつクライアントに対するケアについて理解できる。 7. 遺伝カウンセリングについて説明できる。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 先天異常について説明できる。 遺伝現象と遺伝病について説明できる。 遺伝性疾患をもつクライアントに対するケアについて理解できる。 遺伝カウンセリングについて説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 遺伝性疾患を遺伝看護学的視点から考えることができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
試験、レポート、出席率などによる(単位認定の最低条件:総授業数の2/3以上の出席およびレポート提出)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
遺伝現象の神秘・不思議さを学び、遺伝病を持つ人への温かい思いやりを身につけて欲しい。					
連絡先					
辻野久美子 tsujino@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2806) 村上京子 k.mura@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2820) 杏脱小枝子 saeko@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2847) に連絡してください。					
オフィスアワー					
辻野久美子 tsujino@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2806) 村上京子 k.mura@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2820) 杏脱小枝子 saeko@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2847) に連絡してください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500404
開設科目名	助産学実習			単位	6単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	田中 満由美			区分	
授業の概要					
<p>周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、学内で学んだ助産診断および助産技術に必要な知識と技術を向上させ、実践できる能力を育成する。学生が実習を通して母性観・父性観・生命観を養い、助産のあり方と職業アイデンティティの形成を図れるようにする。</p>					
授業の一般目標					
<p>周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、学内で学んだ助産診断および助産技術に必要な知識と技術を向上させ、実践できる能力を習得する。実習を通して自らの母性観・父性観・生命観を養い、助産のあり方と職業アイデンティティの形成を図る。</p>					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 助産診断の根拠が述べられる。					
問題点を指摘し、優先順位を決定できる。					
関係書類の記載方法が理解できる。					
思考・判断の観点: 適切な方法で得た情報を診断・予測することができる。					
助産過程の評価ができる。					
分娩介助の評価ができる。					
関心・意欲の観点: 助産活動を通して助産師の役割と責任を認識し、言葉に出る。					
母性観・父性観・生命観についての発言がある。					
助産管理の視点から発言がある。					
態度の観点: 実際に母親学級を展開できる。					
計画・実践ができる。					
妊娠・分娩体験を産婦と共に想起できる。					
対象・その家族・スタッフ等とコミュニケーションがとれる。					
技能・表現の観点: 正常分娩の方の分娩介助を手順に従って、一人で行うことができる。					
分娩経過が正常から逸脱した場合は、分娩の介補ができる。					
乳房マッサージの自己管理を指導することができる。					
乳房マッサージを行うことができる。					
退院指導を行うことができる。					
成績評価方法(総合)					
評価については詳細に実習要項に記載してあります。					
教科書					
助産学講座1～10／我部山キヨ子:医学書院					
今日の助産／北川眞理子:南江堂, 2004					
看護のための最新医学講座[第2版]第15巻産科疾患／日野原重明監修:中山書店, 2005					
参考書					
マタニティ診断ガイドブック／日本助産診断・実践研究会:医学書院, 2007					
根拠がわかる母性看護技術／北川眞理子:メヂカルフレンド社, 2008					
病気がみえる vol.10／医療情報科学研究所:MEDIC MEDIA, 2007					
メッセージ					
(1)詳細は助産学実習要項を参照すること。					
(2)オリエンテーションには必ず出席すること。					
(3)分娩介助・乳房管理・沐浴等の演習は事前に徹底して行っておくこと。					
(4)事前学習が不十分である場合は実習中止になることがあります。					
(5)助産診断は徹底して事前学習しておくこと。					
(6)24時間体制で6週間の実習なので、健康管理に十分注意すること。					
連絡先					

田中満由美:22-2821、E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp

戸部郁代:22-2825

田中奈美:22-2840

亀崎明子:22-2829

山元公美子:22-2819

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500405
開設科目名	老年看護学実習			単位	3単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	堤 雅恵			区分	
授業の概要					
<p>高齢者はライフサイクルの最終段階にあり、社会や文化、生活習慣などの影響を受けて個人差が大きい。この実習では、個々の高齢者の生きてきた道のりや価値観を踏まえながら、その人を取り巻く環境・条件のもとでの最適健康を獲得・維持・増進し、最高の QOL が保たれるための援助のありかたを考え、実行できる能力を養う。また、加齢に伴い諸機能の低下をきたした高齢者を、豊かな人間性や経験に基づく貴重な知識をもっている存在として認識し、尊重する態度でかかわるための基本的姿勢と感性を養う。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院および施設で療養する高齢者とその家族についての理解を深め、適切な看護実践を系統的に行う能力を養う。 2. 高齢者の生活像を明らかにし、QOL が維持・向上されるための支援について学ぶ。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1. 加齢や疾患による身体的・心理的・社会的な変化やその特徴を理解する。 2. 高齢者に提供されている具体的な診療に沿った看護について理解する。 3. 高齢者ケアに関わる他職種の役割を知る。 4. 高齢者ケアに関するサービス活動の実際を知る。 5. 高齢者ケアにおける医療・保健・福祉活動の連携の実際を理解する。</p> <p>思考・判断の観点:1. 科学的根拠に基づき、高齢者の看護の必要性に応じた看護を行う。 2. 高齢者の心身の特徴をふまえ、対象に応じた看護過程を展開する。 3. 高齢者のセルフケア能力に応じ、QOL の向上を目的とした援助を行う。 4. 高齢者に対する看護実践を通して看護専門職としての視点を見いだす。 5. 高齢者に提供されているケアを通して人間性の尊重について学び、自己の看護観の基礎を形成する。</p> <p>関心・意欲の観点:1. 受け持ち患者の看護過程や高齢者ケアに関連する情報を意欲的に収集する。 2. 高齢者と積極的に関わり、コミュニケーションをとろうとする。 3. 受け持ち患者の看護や高齢者ケアにおける課題について学生間で、もしくは教員をまじえてディスカッションするなどの行動がみられる。</p> <p>態度の観点:1. 実習全般に、熱意をもって取り組む。 2. 出席状況が良好である。</p> <p>技能・表現の観点:1. 受け持ち患者について、高齢者の身体・心理・社会的側面の理解を反映した看護過程の展開ができる。 2. 受け持ち患者に関することや高齢者ケアに関する内容を、カンファレンスにおける発言や実習記録等で表現できる。 3. カンファレンスや事例検討会への参加によって、それぞれの実習で学習したことを共有・統合し、将来の学びへの課題を見いだす。</p>					
成績評価方法(総合)					
【全体】実習記録の記載内容・カンファレンスでの発言内容・計画立案カンファレンスおよび事例検討会の発表内容からみた看護過程の評価、実習態度、出席状況などから総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>老年看護学の授業でたびたび触れた「授業の概要(実習概要)」では、老年看護学の実践がいかなるものかを凝縮して表現しました。ここに示した内容を、実習の中で具体化していきましょう。</p>					
連絡先					

堤雅恵 22-2818、tutumi@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

月曜日 16:10～17:40

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500406
開設科目名	地域看護学実習			単位	3単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	守田 孝恵			区分	
授業の概要					
保健所及び市町の保健センターなどでの実習を通して、あらゆる健康レベルにある地域住民の健康づくりとQOLの向上をめざし、地域を対象として展開される地域保健活動について、その展開プロセスと保健師の役割、機能及び地域住民や関係機関との協働の実践事例について考察する。					
授業の一般目標					
1.保健所や市町で行われている地域保健活動の展開プロセスを習得できる。					
2.保健事業や疾病対策の実際が理解できる。					
3.保健師活動に用いられる様々な技術について実践を通して習得できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 保健所や市町で行われている地域保健活動の展開プロセスを理解できる					
思考・判断の観点: 保健事業の目的目標評価を考えることができる					
関心・意欲の観点: 市町保健センターの事業に事前学習して参加できる					
態度の観点: 地域住民の言動や行動を真摯に受け止められる					
技能・表現の観点: 自らの考えを的確に言語化して伝えられる。					
成績評価方法(総合)					
・実習最終日に教員と面接を行う。					
・以下の内容をもとに、自己評価と面接で総合的に評価を行う。					
事前学習、学内カンファレンス参加、実習内容、記録、カンファレンスへの参加					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051500407
開設科目名	在宅看護学実習			単位	1単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	堤 雅恵			区分	
授業の概要					
在宅看護は対象者の生活の場で展開されることから、個々の対象者および家族が有する生活・健康への価値観や主体性を尊重し、自立支援や自己決定という視点を持ちながら、健康を維持・増進することが重要である。この実習では、訪問看護ステーションにおける実習を通して、在宅療養生活をおくる対象者の特徴や支援方法を学ぶとともに、在宅看護のあり方や課題について考える。また、在宅ケアに関連する機関の機能と活動内容を理解し、在宅ケアにおける看護者の役割や課題について考察する。					
授業の一般目標					
1. 在宅療養者および家族の特性を理解し、個々の対象者に応じた看護の展開、QOLの向上を目指した看護のあり方について学ぶ。					
2. 訪問看護ステーションの役割と機能および在宅療養者に関わる保健・医療・福祉の連携について学ぶ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 地域における訪問看護ステーションの役割と機能について理解する。					
2. 訪問看護ステーションの組織・運営管理と訪問看護利用者の情報管理の概略について理解する。					
3. 訪問看護ステーションと他機関の連携について理解する。					
4. 訪問看護師と他職種との連携・協働について理解する。					
5. 当該地域における在宅ケアシステムや社会資源について理解する。					
思考・判断の観点: 1. 訪問事例を通して、在宅療養者と家族のニーズを把握し、療養生活を総合的に捉える。					
2. 在宅療養者と家族のニーズに応じた看護を展開する。					
3. 訪問事例を通して、在宅看護に必要な看護の視点や看護技術を説明できる。					
4. 療養者の介護を家族が継続できる支援方法について説明できる。					
5. 在宅療養者と家族の生きがいおよびQOLを維持・向上させるための方策について説明できる。					
関心・意欲の観点: 1. 訪問事例について積極的に情報収集を行い、看護上の課題や提供されている看護について知ろうとする。					
2. 訪問事例と積極的に関わり、コミュニケーションをとりようとする。					
3. 実習指導者が行っている訪問看護の実践を通し、訪問事例の看護のあり方や方法について積極的に学びようとする。					
4. 訪問事例に提供されている看護や在宅看護における課題について学生間で、もしくは実習指導者・教員をまじえてディスカッションするなどの行動がみられる。					
態度の観点: 1. 実習全般に、熱意をもって取り組む。					
2. 出席状況が良好である。					
技能・表現の観点: 1. 訪問事例に提供されている看護についての的確な記載を、実習記録に行う。					
2. 訪問看護ステーションの概要・訪問事例に提供されている看護・在宅看護における課題について、カンファレンスや学内反省会で表現できる。					
3. カンファレンスや学内反省会への参加によって、それぞれの訪問看護ステーション実習で学んだことを共有・統合し、将来の学びへの課題を見いだす。					
成績評価方法(総合)					
実習記録の記載内容・カンファレンスでの発言内容・学内反省会の発表内容、実習態度、出席状況などから総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
短期間の実習ですが、意欲を持って取り組み、必ず大きな学びを得ることができます。身体・心理・社会的側面から、そして疾患・治療、生活状況、発達課題					

の各側面から在宅療養者と家族を捉え、個々の対象者の看護のあり方や具体的方法について考えていきましょう。

連絡先

堤雅恵 22-2818、tutumi@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

月曜日 16:00～17:40

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700102
開設科目名	環境衛生学			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	常岡 英弘			区分	
授業の概要					
<p>環境衛生学は、保健学科のカリキュラム編成に当たり、公衆衛生学の一分野であったものが独立した授業科目である。環境問題は 1970 年代の公害防止対策から環境影響評価、さらに地球環境問題、廃棄物や自動車公害等へと変化してきた。身近な居住環境から地球規模の人間居住環境に至るまでの環境を説明し、さらに環境と人の健康との関わりを説明する。また食中毒や食品添加物等の食品衛生についてもこの授業で説明する。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)水環境の変化と健康影響を理解する。(2)大気環境の変化と健康影響を理解する。(3)物理的環境の変化と健康影響を理解する。(4)産業職場の環境変化と健康影響について理解する。</p> <p>(5)地球規模の環境変化と健康影響について理解する。(6)栄養と健康について理解する。</p> <p>(7)食品衛生と健康について知る。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)水環境の変化と健康影響を説明できる。(2)大気環境の変化と健康影響を説明できる。(3)物理的環境の変化と健康影響を説明できる。(4)産業職場の環境変化と健康影響について説明できる。(5)地球規模の環境変化と健康影響について説明できる。(6)栄養と健康について説明できる。(7)食品衛生と健康について説明できる。</p> <p>思考・判断の観点:環境が及ぼす人の健康について自分の意見を述べる事が出来る。</p> <p>関心・意欲の観点:生活の中での環境問題に関心をひろげ、問題意識を高めることができる。</p> <p>態度の観点:日常生活の中で環境問題について主体的に考えることができる。</p> <p>技能・表現の観点:地球環境問題について説明できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末試験で主に評価するが、出席状況、授業態度、宿題レポート提出状態も加味して総合評価する。</p>					
教科書					
<p>公衆衛生学／眞野喜洋:医歯薬出版株式会社, 2006</p>					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>0836-22-2854</p>					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700103
開設科目名	形態機能学 I			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	野垣 宏			区分	
授業の概要					
保健学科の授業は人体の構造を基礎に形作られている部分が多い。従って、解剖学がわかっていないと学習がはかどらない。しかし、単なる用語の丸暗記では実用的ではないので、形態と機能を結びつけて理解する。					
授業の一般目標					
人体の各部位を覚える(できれば英語でも)。 教科書の説明を読み、機能を理解しながら覚える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 人体の肉眼的構造を理解する。					
思考・判断の観点: 人体の構成と、それがいかなる機能を行っているかを理解する。					
関心・意欲の観点: これからの医学知識獲得への関心を持つ。					
態度の観点: 医学・医療には膨大な知識が必要とされる。そのためには真摯に努力を重ねる態度や、常に医学を科学としてとらえる態度が求められる。					
成績評価方法(総合)					
筆記試験					
教科書					
からだの地図帳／高橋長雄: 講談社, 1989					
参考書					
英辞郎／道端秀樹: アルク, 2006					
メッセージ					
連絡先					
nogaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700104
開設科目名	組織学			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	尾野 緑			区分	
授業の概要					
正常の人体のしくみを理解していなければ、疾患を理解することはできません。このため、本講義では、正常の人体における、各器官の組織および細胞の構造とその機能について講義します。					
授業の一般目標					
人体における各器官の組織および細胞の構造とその機能を理解しましょう。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 人体における各器官の組織および細胞の構造とその機能を理解し、知識として習得できる。					
思考・判断の観点: 正常の組織および細胞の構造とその機能を理解することにより、疾患を理解することを容易にする。					
成績評価方法(総合)					
定期試験で総合評価を行います。					
教科書					
入門組織学／牛木辰男:南江堂, 2002					
参考書					
透視人体解剖図／新井正治:金原出版, 2004					
メッセージ					
連絡先					
尾野 緑 E-mail:mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-85-2853					
オフィスアワー					
随時、可能です。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700105
開設科目名	細胞診断学講義 I -1			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	尾野 緑			区分	
授業の概要					
<p>山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年次に認定試験の受験が可能です。認定試験では全般的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要です。</p> <p>前期は婦人科領域の細胞診について学びます。</p> <p>* 細胞診＝細胞診断学</p>					
授業の一般目標					
子宮頸部扁平上皮領域の基礎知識を習得し、細胞診とはどんなものかを知りましょう。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 子宮頸部扁平上皮領域の基礎知識を習得する。					
思考・判断の観点: 子宮頸部扁平上皮領域の基礎知識を活用することができる。					
成績評価方法(総合)					
<ul style="list-style-type: none"> ・講義項目について予習レポートを提出してください。 ・講義した内容について小テストを行います。 ・小テストで基準を満たさない場合、定期試験を行います。 					
教科書					
～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方 第2版/西 国広;近代出版, 2007					
参考書					
CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.1 婦人科」/椎名義雄・他;ユニバーサルコンピューター, 2004					
細胞診用語解説集/日本臨床細胞学会;医学書院, 1996					
メッセージ					
細胞診とはどんなものか知るために、とりあえず、やってみましょう。					
連絡先					
尾野 緑 E-mail:mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-85-2853					
オフィスアワー					
随時、可能です。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700106
開設科目名	細胞診断学演習 I			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	尾野 緑			区分	
授業の概要					
<p>山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年次に認定試験の受験が可能です。認定試験では全般的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要です。</p> <p>前期は婦人科領域の細胞診について学びます。</p> <p>* 細胞診＝細胞診断学</p>					
授業の一般目標					
子宮頸部扁平上皮領域の基礎技術を習得し、細胞診とはどんなものかを知りましょう。					
授業の到達目標					
技能・表現の観点: 子宮頸部扁平上皮領域の基礎技術を習得する。					
成績評価方法(総合)					
<ul style="list-style-type: none"> ・講義項目に関して、実際にスクリーニングして、スケッチしましょう。 ・スケッチした疾患に関して、スクリーニング試験を行います。 					
教科書					
～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方 第2版/西 国広:近代出版, 2007					
参考書					
CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.1 婦人科」/椎名義雄・他:ユニバーサルコンピューター, 2004 細胞診用語解説集/日本臨床細胞学会:医学書院, 1996					
メッセージ					
細胞診とはどんなものかを知るために、とりあえず、やってみましょう。					
連絡先					
尾野 緑 E-mail:mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-85-2853					
オフィスアワー					
随時、可能です。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700107
開設科目名	情報科学			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	篠原 紀幸			区分	
授業の概要					
<p>コンピュータのしくみを講義する。</p> <p>医療現場では機器制御、データ処理などあらゆるところでコンピュータが使われていて、いまではコンピュータなしでは仕事ができなくなりつつある。「情報リテラシー演習」で操作技法を学び、「情報モラル・セキュリティー」で使用の上での心構えを学んだことを受けて、本講義ではコンピュータのしくみについて基礎的なことを学ぶ。</p>					
授業の一般目標					
<p>1.ハードウェアの種類や構成を理解する</p> <p>2.2進数の計算や2値論理を理解する</p> <p>3.OSの働きを理解する</p> <p>4.OSと応用ソフトウェアとの関係を理解する</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1. ハードウェア相互の関連を理解する</p> <p>2. 2進数や2値論理を使った演算ができる</p> <p>3. 自分のコンピュータの基本情報を読んで理解することができる</p> <p>4. OSの役目を理解し、機能を挙げるができる</p> <p>思考・判断の観点:1. コンピュータのトラブルが起こったとき、どこで起きたか、などを予想することができる</p>					
成績評価方法(総合)					
期末試験 100%					
教科書					
参考書					
<p>医療情報(情報処理技術編)／日本医療情報学会医療情報技師育成部会:篠原出版新社, 2006</p> <p>新版メディカルスタッフのためのコンピュータ入門／菊地眞、小林昭:秀潤社, 2002</p> <p>[わかったブック 1] 根本的理解/パソコンのどうなってるの?なんでだろう／唯野 司:技術評論社, 2004</p>					
メッセージ					
連絡先					
nshino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700108
開設科目名	英文多読			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	田中 経彦			区分	
授業の概要					
<p>自分が好きな本を色々読む小学校中学校での朝読書の英語版です。Extensive Readingと言います。多読と言うと義務的に読む感じがしますが、そうではなく色々自由に選んで読書しようというものです。楽しく読めれば結果的にたくさん読めます。その時点で非常に易しく読める英語の本から始め色々な本を読みます。訳さずに英語のまま読んで行きます。今日自分にとって楽しい本を読みます。読みたい本が今読めなければ、易しい本を読んで行くと読めるようになります。電気通信大学の酒井邦秀准教授がまとめた多読三原則「1. 英和辞書を引かない 2. わからなければ飛ばす 3. 進まなければ後回し」に従い、易しい本からたくさん読んでいくうちに2年くらい(毎日30分)すればPaperbacksが読めるようになり、ひいては英語の専門原書を読むのが楽になるはずで、専門原書には知識が必要ですが、ただし、卒業に必要な英語の単位にはなりません。帰国子女の方は、読み聞かせ等をしていただけると優遇します。インターネットで利用できる英語ニュース等のサイトも紹介します。気分転換に英語の音楽を聴いても構いません。1時間程度読んだら退出自由です。もともとTOEIC 高得点の人は1時間半読みますが。</p>					
授業の一般目標					
<p>専門書は別ですが、自分にとって面白い本を何ヶ月もかけて訳読しようとする、途中で興味が薄れてしまい止めてしまいかねません。「大草原の小さな家」等の原作を数日で読める自信をつけるのが目標です。</p> <p>訳読にこだわるのは、もうやめましょう。大学院入試、大学病院検査部の就職試験に辞書持込で英語の試験が出ることがありますが、直訳ではなく意訳をすればいいのです。英語をたくさん読めば分からなかった複雑な文もわかるようになります。訳すのは通常自分の頭を混乱させるだけです。むしろ日本語でかく小論文の方が大事でしょう。</p> <p>英語の本を訳読するとせいぜい毎分80語ですが、毎分100語以上で直読できればTOEICは600以上に相当します。毎日30分でも読んでいけば、誰でもできます。大学を出るまでにこの段階に到達しておけば、英語が楽しくなるはずで、大学入学時より英語力が必ず向上します。</p>					
授業の到達目標					
<p>思考・判断の観点: 英語話者の思考方法に興味を持つ</p> <p>関心・意欲の観点: 英語で直接情報を取り込む意欲</p> <p>態度の観点: 英語文化に親しむ。</p> <p>技能・表現の観点: 7割くらいしか分からずともいいから、英文を訳さずできるだけ早く読めるようになること。(TOEIC600点台の人は毎分100語以上だそうです。やさしい文章から始めればほとんどの人が毎分100語以上、200語以上の人も珍しくありません。)</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>英語への積極性を評価します。単位認定にはアンケートに必ずお答え下さい。皆勤であれば、誰も80点です。毎分100語で読むとすると、90分授業14回で、12万6千語です。中学高校6年間で読む英文は、熱心な人で10万語程度です。一方英米の小中高生は毎年100万語は読むそうです。記録手帳に語数を記録して10万語を越した分は、1万語の上積につき、1点加算します。TOEICの点数についても考慮します。</p>					
教科書					
参考書					
<p>さよなら英文法！多読が育てる英語力／酒井邦秀:筑摩書房, 2008</p> <p>100万語多読入門／古川昭夫、伊藤晶子:コスモビア, 2005</p> <p>英語候 50のメソッド／上川一秋、ジーナジョージ:三修社, 2007</p> <p>ロングマン ベーシック英英辞典／ロングマン社編集局:桐原書店, 2002</p>					
メッセージ					
<p>やさしい英語の本を訳さないで早く読読訓練はTOEIC創設者の一人、三枝幸夫元早大教授(個人)も薦めておられ、世界の常識です。</p> <p>英語を直読するのに慣れていないと、眠くなります。無意識に訳そうとすると眠くなるのでこんな易しい本と思う本から読んでください。また三コマ目の授業を受けるときは、少し昼ごはんを軽くしたらいいかもしれません。空腹気味だと眠くなりません。</p> <p>語数は、酒井先生、古川氏(SEG代表)らが多読の普及のために作ったSSSと言う団体の協力者が公開している語数です。教材の本に書き込んであります。</p>					
連絡先					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp					

オフィスアワー

授業時間がオフィスアワーです。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700109
開設科目名	英文多読			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	田中 経彦			区分	
授業の概要					
<p>自分が好きな本を色々読む小学校中学校での朝読書の英語版です。Extensive Readingと言います。多読と言うと義務的に読む感じがしますが、そうではなく色々自由に選んで読書しようというものです。楽しく読めれば結果的にたくさん読めます。その時点で非常に易しく読める英語の本から始め色々な本を読みます。訳さずに英語のまま読んで行きます。今日自分にとって楽しい本を読みます。読みたい本が今読めなければ、易しい本を読んで行くと読めるようになり。電気通信大学の酒井邦秀准教授がまとめた多読三原則「1. 英和辞書を引かない 2. わからなければ飛ばす 3. 進まなければ後回し」に従い、易しい本からたくさん読んでいくうちに2年くらい(毎日30分)すればPaperbacksが読めるようになり、ひいては英語の専門原書を読むのが楽になるはず。専門原書には知識が必要ですが、ただし、卒業に必要な英語の単位にはなりません。帰国子女の方は、読み聞かせ等をしていただけると優遇します。インターネットで利用できる英語ニュース等のサイトも紹介します。気分転換に英語の音楽を聴いても構いません。1時間程度読んだら退出自由です。もともとTOEIC 高得点の人は1時間半読みますが。</p>					
授業の一般目標					
<p>専門書は別ですが、自分にとって面白い本を何ヶ月もかけて訳読しようとする、途中で興味が薄れてしまい止めてしまいかねません。「大草原の小さな家」等の原作を数日で読める自信をつけるのが目標です。</p> <p>訳読にこだわるのは、もうやめましょう。大学院入試、大学病院検査部の就職試験に辞書持込で英語の試験が出ることがありますが、直訳ではなく意訳をすればいいのです。英語をたくさん読めば分からなかった複雑な文もわかるようになります。訳すのは通常自分の頭を混乱させるだけです。むしろ日本語でかく小論文の方が大事でしょう。</p> <p>英語の本を訳読するとせいぜい毎分80語ですが、毎分100語以上で直読できればTOEICは600以上に相当します。毎日30分でも読んでいけば、誰でもできます。大学を出るまでにこの段階に到達しておけば、英語が楽しくなるはず。大学入学時より英語力が必ず向上します。</p>					
授業の到達目標					
<p>思考・判断の観点: 英語話者の思考方法に興味を持つ</p> <p>関心・意欲の観点: 英語で直接情報を取り込む意欲</p> <p>態度の観点: 英語文化に親しむ。</p> <p>技能・表現の観点: 7割くらいしか分からずともいいから、英文を訳さずできるだけ早く読めるようになること。(TOEIC600点台の人は毎分100語以上だそう。やさしい文章から始めればほとんどの人が毎分100語以上、200語以上の人も珍しくありません。)</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>英語への積極性を評価します。単位認定にはアンケートに必ずお答え下さい。皆勤であれば、誰も80点です。毎分100語で読むとすると、90分授業14回で、12万6千語です。中学高校6年間で読む英文は、熱心な人で10万語程度です。一方英米の小中高生は毎年100万語は読むそうです。記録手帳に語数を記録して10万語を越した分は、1万語の上積につき、1点加算します。TOEICの点数についても考慮します。</p>					
教科書					
参考書					
<p>さよなら英文法！多読が育てる英語力／酒井邦秀:筑摩書房, 2008</p> <p>100万語多読入門／古川昭夫、伊藤晶子:コスモビア, 2005</p> <p>英語候 50のメソッド／上川一秋、ジーナジョージ:三修社, 2007</p> <p>ロングマン ベーシック英英辞典／ロングマン社編集局:桐原書店, 2002</p>					
メッセージ					
<p>やさしい英語の本を訳さないで早く読読訓練はTOEIC創設者の一人、三枝幸夫元早大教授(個人)も薦めておられ、世界の常識です。</p> <p>英語を直読するのに慣れていないと、眠くなります。無意識に訳そうとすると眠くなるのでこんな易しい本と思う本から読んでください。また三コマ目の授業を受けるときは、少し昼ごはんを軽くしたらいいかもしれません。空腹気味だと眠くなりません。</p> <p>語数は、酒井先生、古川氏(SEG代表)らが多読の普及のために作ったSSSと言う団体の協力者が公開している語数です。教材の本に書き込んであります。</p>					
連絡先					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp					

オフィスアワー

授業時間がオフィスアワーです。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700201
開設科目名	生理機能学			単位	2単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	松田 昌子			区分	
授業の概要					
形態学で学んだ人体の各臓器が生体の中で果たしている役割を系統的に講義し、生命維持の仕組み、その破綻から病気に至る基礎を解説する。					
授業の一般目標					
1.各臓器の正常機能を知る。 2.各臓器の調節機能を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 臓器の基本的構造と機能を説明できる。2)書く臓器の機能を調節する仕組みを説明できる。3)人体がホメオスタシスを維持する仕組みを理解する。					
思考・判断の観点: 臓器の機能が破綻するとどのような現象がおこり、病気につながっていくかという過程を考え、基礎的な症状の由来を理解できる。					
関心・意欲の観点: 自分の体内で起こる種々の現象のメカニズムについて感心を持つ。					
態度の観点: 講義テーマに対して、積極的に取り組む姿勢を持ち、疑問を提示し、また質問に対して考えて答える努力をする。					
成績評価方法(総合)					
各教員が担当分野の試験を行う。配点は担当時間数による。合計点の60%以上を合格とする。出欠は成績には影響しないが、規定の出席日数に足りない場合は期末試験の受験資格を失う。(学則)					
教科書					
目でみるからだのメカニズム/塚 章:医学書院, 2000					
参考書					
The Physiology Coloring Book/Kapit W 他:Addison Wesley Longman, Inc., 2000 シンプル生理学/貴邑富久子他:南江堂, 2008 医科生理学展望/星猛他訳:丸善					
メッセージ					
1年生で学んだ領域以外の人体の機能を学びます。担当教員は野垣、市原、松田、清水の各教員。					
連絡先					
松田:Tel&Fax:0836-22-2832 / E-mail [matsudam@yamaguchi-u.ac.jp] 野垣:0836-22-2858;市原:0836-22-2884					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700202
開設科目名	免疫学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	野島 順三			区分	
授業の概要					
免疫学は、医学の各分野に幅広く関わっており、免疫のエッセンスを学ぶことは、医学・医療の道を目指す全ての学生にとって大切である。本講義では、細胞レベルからみた免疫系や分子レベルからみた免疫系など様々な角度から免疫系のしくみを概説し、感染防御・アレルギー・自己免疫疾患・癌の制御と発生・輸血・臓器移植等に免疫系がどのように関連しているのか解説する。さらに、医療領域における免疫学的検査法の臨床的意義を講義する。					
授業の一般目標					
1) 免疫系のしくみ(自然免疫と適応免疫、体液性免疫と細胞性免疫)を理解させる。 2) 免疫に関わる細胞群の種類と役割を理解させる。 3) 免疫がもたらす有害な生体反応(アレルギー・移植拒絶・自己免疫・免疫不全等)を理解させる。 4) 感染症診断のための免疫学的検査法を理解させる。 5) 輸血の概要と輸血検査の実際を理解させる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1) [自然免疫と適応免疫]および[体液性免疫と細胞性免疫]の違いを説明できる。 2) 免疫担当細胞の種類と各細胞の役割を説明できる。 3) 免疫がもたらす有害な生体反応について、その病因を説明できる。 4) 感染症および輸血・移植関連の免疫学的検査法について説明できる。					
思考・判断の観点: 1) 生体の免疫反応を細胞レベルおよび分子レベルで論理的に説明することができ、免疫システムの異常によりどのような生体反応が現れるのか考察できる 2) 医療領域における各種免疫学的検査の臨床的意義を述べることが出来る。					
関心・意欲の観点: 授業での教員の質問に積極的に回答できる。さらに、自ら疑問点を見出し、その解決のために積極的に質問をすることができる。					
態度の観点: 予習を行って講義に望む積極的な態度を身につけ、講義でよく理解出来なかった箇所については復習をして知識を整理する。					
技能・表現の観点: 講義内容に関して、自分が理解できている部分と理解が不十分な部分を明確に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
学期末試験および小試験の成績で評価する。 (ただし期末試験受験には 2/3 以上の出席が必要)					
教科書					
一目でわかる免疫学 第4版 / 田中伸幸訳:メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2007 臨床検査技術学 13 免疫検査学 / 折笠道昭他:医学書院, 2003					
参考書					
免疫学イラストレイテッド 第5版/多田富雄 監訳:南江堂, 1999					
メッセージ					
講義に使用するスライドをシラバスの資料にアップしているので、予習・復習に活用してください。					
連絡先					
保健学科研究棟 407 号室 TEL:22-2824					
オフィスアワー					
前期 水曜日 8:40~10:10					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700203
開設科目名	病理学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	高橋 睦夫			区分	
授業の概要					
<p>病理学 pathology は病気の本態を解明するのが病理学であり、講義では基本的な病変について、その成り立ちや原因、臓器・組織の変化などを述べる。正常状態を知らなければ病気を理解することは出来ない。特に解剖学との関わりが最も深い。正常状態については質問しながら講義をすすめるので、関連する事項について十分復習して講義に臨むこと。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの正常状態(臓器の大きさ, 位置関係, 機能)が解る。 2. 基本的な病変の種類, 原因, 経過を理解する。 3. 病変の特徴と, 全身に及ぼす影響を理解する。 4. 免疫機構を理解し, 炎症の成り立ちを説明できる。 5. 腫瘍の発生, 種類, 予後などを理解し, 説明することが出来る。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 1. 基本的病変の種類をあげることができる。 2. 基本的病変の好発部位を説明できる。 3. 基本的病変の成り立ちを説明することができる。</p> <p>思考・判断の観点: 1. 基本的病変が何故起こるか説明できる。 2. 基本的病変が全身にどのような影響を及ぼすか, 推論できる。 3. 生体は病変にどのような様に対処するのか指摘できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 臨床検査技師としての役割を認識した上で, 新しい診断法の開発などに寄与できる。</p> <p>態度の観点: 知識のまる覚えではなく, 常に何故かと疑問を持ち, 理解しようとする意欲がある。</p>					
成績評価方法(総合)					
定期試験と小テスト					
教科書					
わかりやすい病理学 改訂第5版/岩田隆子監修, 恒吉正澄, 豊島里志, 高橋睦夫編:南江堂, 2008					
参考書					
メッセージ					
病理学を理解すれば, 他の専門科目の理解も容易になる。					
連絡先					
E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp, Tel/Fax: (0836) 22-2845, 研究室:保健学科第1研究棟2階, 208室					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700204
開設科目名	微生物学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	梅田 昭子			区分	
授業の概要					
我々の体内や環境においては非常に多くの微生物が生息している。これらの殆どは非病原性であり共存していると言ってよい。まず微生物にはどのようなものがあるのか、それらはどのような構造でどのように増殖していくかを理解し、病原微生物の概念、感染の意味、感染に対する防御法と治療法の概要、感染への微生物学的診断法等について基礎的知識を養うことを目的としている。					
授業の一般目標					
病原微生物の種類と構造を理解する。					
病原微生物の増殖・遺伝について理解し、培養法を学ぶ。					
感染症の概念を理解し、感染症の種類・対処法・治療法・予防法について学ぶ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 病原微生物の種類と構造を理解する。					
病原微生物の増殖・遺伝について理解し、培養法を学ぶ。					
病原微生物に対する検査法の概念を理解する。					
感染症の概念を理解し、感染症の種類・対処法・治療法・予防法について学ぶ。					
思考・判断の観点: 自分の所属する地域・社会で発生する感染症について適切な判断と対処ができる能力を養う。					
関心・意欲の観点: 自分の所属する地域・社会および国内や世界各地で発生する感染症について、新聞やテレビでの報道に深い関心を示し考察できる能力を養う。					
態度の観点: 自分の所属する地域・社会で発生する感染症に対し、適切な診断・判断と対処ができる能力を養い、地域貢献ができるようにする。					
技能・表現の観点: 自分の所属する地域・社会で発生する感染症の起因微生物を性格に診断する能力を養い、それに適切に対処でき、感染症の予防に地域貢献ができるようにする。					
成績評価方法(総合)					
期末テスト					
各項目終了時に小テスト実施予定					
教科書					
臨床検査学講座 微生物学/臨床微生物学/岡田淳他:医歯薬出版, 2008					
参考書					
戸田新細菌学/吉田真一、柳雄介:南山堂, 2007					
メッセージ					
予習・復習をしてください。特に復習を行なうこと。					
連絡先					
内線2805					
umeda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700205
開設科目名	臨床薬理学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	神谷 晃			区分	
授業の概要					
看護の立場から必須の医薬品に関する知識(薬物の作用、吸収と分布と排泄、効果と副作用、各種剤型とその特徴など)について講義する。					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
系統看護学講座 専門基礎5 薬理学:医学書院, 2008					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700207
開設科目名	基礎検査学 I			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	上田 順子			区分	
授業の概要					
基礎検査学 I では、現在、病院で行われている一般臨床検査の内容(尿・便)を中心に、各検査法の原理や臨床的意義について講義する。また、臨床検査用検体の採取法や保存法は検査精度に大きく影響するため、尿・便検査の目的にあった検査材料の取り扱い方を説明する。講義と実習を通して、臨床検査に関連する基本的事項を学び、医療従事者としての心構えを修得する。					
授業の一般目標					
尿検査法の原理・方法と意義を理解する。 便検査法の原理・方法と意義を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 尿・便検査項目の臨床的意義を説明できる。					
思考・判断の観点: 尿・便検査の検査結果より病態を推定できる。					
関心・意欲の観点: 尿・便検査項目以外の必要な検査項目を討議できる。					
態度の観点: 与えられた課題を発表(提出)できる。					
技能・表現の観点: 与えられた課題をわかりやすく発表できる。					
成績評価方法(総合)					
(1) 授業の中で予習課題を口頭で説明する。(2) 定期末試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たないものには単位を与えない。					
教科書					
臨床検査技術学(9) 臨床検査総論 / 伊藤機一: 医学書院, 2003 尿沈渣検査法 2000 / 伊藤機一: 社団法人 日本臨床衛生検査技師会, 2000					
参考書					
メッセージ					
基礎検査学実習と同時進行のため、講義内で実習内容を説明する。体調を整えて講義および実習に臨んでほしい。					
連絡先					
上田研究室: TEL 0836-22-2833, e-mail jueda@以下同じ					
オフィスアワー					
上田研究室: 随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700208
開設科目名	基礎検査学Ⅱ			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	岡野 こそえ			区分	
授業の概要					
<p>基礎検査学は臨床検査とはどんな仕事かそこで働く臨床検査技師とはどのような仕事内容を行うのか、また臨床検査技師としての心構えなどの基本的な項目を学ぶ。次に検体採取法・保存法や検体検査および採血方法などについて学ぶ。中でも、採血方法は、患者に直接接する医行為であり重要な項目であり、検体採取法や保存法は検査精度に大きく影響するため、各検査の目的にあった検査材料の取り扱い方を学ぶ必要がある。それら臨床検査に関連する検査の基本的事項を学ぶ。</p>					
授業の一般目標					
<p>①臨床検査の概念や検査に対する心構えなどを学ぶ。 ②血液や尿などの検査検体の適切な保存法を学ぶ。 ③診療検査で最も基本的な尿検査をはじめ、糞便、体液などの検体検査の原理とその意義を学ぶ。 ④採血方法や患者との接し方を学ぶ。 ⑤臨床検査関連項目について班単位で調べ、発表を行う。”</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 臨床検体および検査結果に影響を及ぼす因子を理解し、説明できる。採血について危険性や有効性を説明できる。 思考・判断の観点: 正しい検査結果を出すために対処すべきことを考察し適切な方法を実行できる 関心・意欲の観点: 採血・一般検査を含めた臨床検査全般に興味・関心をもち、実施できる 態度の観点: 臨床検査技師として精度の高い検査結果を出すことや、採血に及んで適切な態度をとることができる 技能・表現の観点: 正確な検査結果を出す技術を身に付け、検査について説明できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
期末試験の成績、出席、発表内容等を総合して評価した。					
教科書					
臨床検査技術学(9)臨床検査総論・放射線同位元素検査技術学／伊藤機一他：医学書院，2003					
参考書					
メッセージ					
臨床検査技師の役目や業務等を理解する					
連絡先					
電話は0836-22-2837、メールはk ozue@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
5時以降					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700209
開設科目名	基礎検査学実習 I			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	上田 順子			区分	
授業の概要					
臨床検査はその役割と使命からも、提出する検査成績には高い精密度と正確度が求められる。この実習は、臨床検査の基礎となる実習である。貴重な患者検体という意識を持つために、自己の尿・便や血液の他、臨床材料を用いて実習を進めて行く。基礎的検査実習を行うことにより、顕微鏡や分光光度計など臨床検査に必要な測定機器の原理と使用方法を学び、基本技術を体得する。また、検体の採取法、保存法、実技、結果解釈、それら全てに対して「知識と実技」が結びつくように実習を進めていく。					
授業の一般目標					
尿・便検体の採取法をはじめ、取り扱い方や保存法を理解する。顕微鏡や分光光度計、pH メーターなど臨床検査に必要な測定機器の原理と使用方法を理解し、基本技術を体得する。信頼できる実験結果を目指し、結果について十分考察する。薬品類の安全管理、医療廃棄物の処理法などを知る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.尿・便の取り扱い方や保存法を説明できる。					
2.各種測定機器の原理を説明できる。					
思考・判断の観点: 実験結果を考察できる。					
関心・意欲の観点: 実験で得られた結果から生じた疑問点について追加検討実験できる。					
態度の観点: 1.積極的に実習に参加できる。					
2.実習グループメンバーと強調できる。					
3.自分の意見を的確に口述できる。					
4.レポートを提出できる。					
技能・表現の観点: 1.測定機器を安全に使用できる。					
2.自分の意見を論述できる。					
成績評価方法(総合)					
(1)尿検査実習では、実習ノートを各実習終了後にチェックする。					
(2)尿沈渣実習の最後に試験を実施する。					
(3)4項目分析実習ではレポートを提出する。					
以上を下記の観点・割合で評価する。なお、レポート提出のないものには単位を与えない。					
教科書					
臨床検査技術学(9)臨床検査総論/伊藤機一:医学書院, 2003					
尿沈渣検査法 2000/伊藤機一:社団法人 日本臨床衛生検査技師会, 2000					
参考書					
メッセージ					
各実習項目は1回のみであるので、限られた時間の中で課題を終えられるよう予習をし、体調を整えて実習に臨んでほしい。やむを得ず出席できない場合は、なるべく当事者が担当教官へ連絡する(メール可)こと。					
連絡先					
上田研究室:TEL.0836-22-2833, e-mail:jueda@以下同じ					
オフィスアワー					
上田研究室:随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700210
開設科目名	検査機器学実習			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	岡野 こずえ			区分	
授業の概要					
臨床検査や広く化学分析で使われる器具・機器の原理・使用方法および試薬の種類・取扱い方等は検査機器学で学んでいるので、この実習では実際にそれら器具・機器や試薬を扱って実験結果を出す方法を学ぶ。					
授業の一般目標					
実験や実習では、機器の使用方法以外に基本的な知識や実験手技の熟達が要求される。プリントを使って実習するが、まず初めに、本校の全実習室に共通する基本的事項を学習する。次に主な機器の原理、使用方法を理解できるような実習を行い、実習に対する基本的な知識と実技とが身につくように実習を進める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 実験に使う器具や機器の原理および使用方法を学び、それらを説明できる					
思考・判断の観点: 実験結果に対して判断や考察を行ない、それらを実践できる					
関心・意欲の観点: 学習した手技を実際の実験に応用したり発展させることに興味を広げることができる					
態度の観点: 実験に対して取り組みかたを身につける					
技能・表現の観点: 信頼性のある実験結果を出せるようになる					
成績評価方法(総合)					
各項目ごとのレポート採点、実習試験、出席を総合して評価を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
実験者の心得を学ぶ					
連絡先					
電話は 0836-22-2837、メールは kozue@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
岡野は 5 時以降					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700211
開設科目名	医療工学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	石川 敏三			区分	
授業の概要					
<p>現代医療の進歩を支える各種検査,診断,治療機器や医用材料は,医用工学を基盤とする応用分野である.そこで,医用機器や医用材料の構成や性能を正しく理解し,これらの持つ有効性を十分に活用するため,(1)生体物性の理解,(2)電気・電子工学的観点,あるいは(3)機械・物性工学的観点(生体・流体力学を基盤とする機能補助装置の原理と実際など)から,実際の医用機器の動作原理,性能および安全管理を教授する.また,最新の知識や技術を取り入れ実際に役立つ内容とし,また機器の開発や展開についても深く理解させる.実習では,これらの知識を用いて電子回路の特性や記録,センサなどを用いる実験からさらに理解させる.又,自己開発で薬,課題をあたえた後ぐる'婦で自由に学び,まとめ,展開学習をさせる.その結果は,発表をさせる.</p>					
授業の一般目標					
臨床現場における医用機器や医用材料の原理・構成や性能が正しく理解でき,また,これら医療機器の持つ有効性を十分に活用でき,安全対策ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 各種検査,診断,治療機器や医用材料の構成や性能が正しく理解できる。					
思考・判断の観点: 生体の物理学的性質と検査機器の原理が多くてが関係することが分かる。					
関心・意欲の観点: 新しい理論や古典的な理論に基づく機器の開発の歴史をしりその発想が出来る。					
態度の観点: 機器の利用に関心がもてる。					
技能・表現の観点: 適切な機器の利用やエネルギーについて安全対策がとれる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験で評価。					
教科書					
医用工学概論／鳴津秀昭ほか: 医歯薬出版, 2005					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
22-2888					
オフィスアワー					
午後 4:00?7:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700212
開設科目名	環境衛生学実習			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	常岡 英弘			区分	
授業の概要					
<p>1 年前期に学んだ環境衛生学の実習である。環境衛生学実習に用いられる基本的な化学的測定方法は、すでに検査機器学で習得したものとする。したがってこの実習では、実習を通じて技術面で検査方法を習得するよりも、むしろすでに学んだ技術を用いて実習課題にアプローチするよう説明する。すなわち環境衛生学実習では、与えられた課題を十分に考慮し、調査対象を自ら選択して正確に測定し、さらに得た測定(調査)結果に対する公衆衛生的背景を含めて理解し考察するように説明する。なお実習は各人がグループで毎回異なった実習をするよう、実習項目全てをローテーションして実施し、最終の実習項目に関しては試験、あるいは発表させる予定である。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)水質環境の測定指標・測定意義を理解する。(2)空気環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定することができ、結果を評価できる。(3)物理的環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定することができ、結果を評価できる。(4)疲労の測定意義を説明できる。(5)見学により環境衛生の現状(検査現場およびごみ処理)を理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)水質環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定し、結果を評価する。(2)空気環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定し、結果を評価する。(3)物理的環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定し、結果を評価する。(4)疲労の測定意義を説明し、測定し、結果を評価する。(5)見学によりごみ処理法の現状を知る。(6)見学により環境汚染物質測定の現状を知る。</p> <p>思考・判断の観点:各種環境測定テーマにつき、問題点を指摘出来る。</p> <p>関心・意欲の観点:各種環境測定テーマにつき、討議できる。</p> <p>態度の観点:日常生活の中で、各種環境測定テーマについて主体的に考えることができる。</p> <p>技能・表現の観点:各測定項目の意義について説明できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
実習態度、レポート作成、筆記試験で評価する。					
教科書					
作成実習書を配布する。					
参考書					
, 1956					
メッセージ					
連絡先					
0836-22-2854					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700213
開設科目名	生化学実習			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	渡部 省二			区分	
授業の概要					
生化学は生物科学の基礎であり、その実験技術は生物科学のほとんどの分野において利用される。本実習においては、生化学の重要な、また応用の可能性が大きい実験技術を学び、これを習得する。また、非密封放射性同位元素取扱施設および核医学施設を見学し、放射性同位元素を用いた検査技術について学ぶ。					
授業の一般目標					
細胞分画、酵素の抽出、酵素活性の測定、電気泳動、およびブロッティングの技術を学び、これを習得する。実験データをパソコンで処理し、図式化する方法を習得する。放射性同位元素を用いた検体検査および生体内検査の方法を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 細胞分画の原理を理解する。					
酵素活性測定の方法を理解する。					
タンパク質の電気泳動およびブロッティングの原理を理解する。					
酵素反応の反応速度論を理解する。					
放射性同位元素の取り扱い方を理解する。					
ラジオイムノアッセイ原理を理解する。					
思考・判断の観点: 酵素活性の測定が最適の条件であるかどうかを判断する。					
実験結果の妥当性を判断する。					
期待される結果と異なる結果が出た場合、その原因を考察できる。					
態度の観点: 欠席せずに、実習内容を予習し、手際よく実験を行う。					
技能・表現の観点: 分画遠心による細胞分画の方法を習得する。					
酵素活性の測定の方法を習得する。					
酵素の Km および Vmax を実験により求める方法を習得する。					
ポリアクリルアミド電気泳動、およびブロッティングの技術を習得する。					
パソコンを使用してデータ解析できる。					
成績評価方法(総合)					
レポートによる(Excel のファイルを保健学科 WEB シラバスよりアップロードする)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
あらかじめ予習し、実習内容を理解しておくこと。					
実習の資料はホームページ(WEB シラバスからリンク)に掲載されているので参照すること。また、電気泳動の写真等のデータもホームページに掲載する。					
http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~shwatabe/po-login/menus/BCpractice.htm					
連絡先					
shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp					
0836-22-2830					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700214
開設科目名	分子生物学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	渡部 省二			区分	
授業の概要					
メンデルの法則の再発見から約一世紀、遺伝子がDNAであることが証明されてから約半世紀が経った。そして、20世紀の最後の四半世紀には遺伝子を中心とした生命科学は驚くべき発展を遂げた。この発展に最も大きく貢献したのは組換えDNA実験技術の開発であろう。本講義では組換えDNA実験技術を中心とした実験技術と実験的根拠を含めて、遺伝子の生化学を広く解説する。					
授業の一般目標					
生物がどのような形で自分自身の遺伝情報をもっていて、どのようにしてそれを発現させ、生命活動を営んでいるかを、分子レベルで理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: DNAの構造と複製の機構を理解する。 DNAからタンパク質への情報の流れの機構を理解する。 タンパク質の合成の機構を理解する。 遺伝子の発現調節の機構を理解する。 遺伝子は普遍ではないことを知り、遺伝子の変化の機構を理解する。 遺伝子の変化が進化の原動力であることを理解する。					
思考・判断の観点: 遺伝子の分子生物学の基礎を遺伝病、遺伝子治療等の理解に応用できる。					
態度の観点: 予習復習をして、まじめに授業に取り組む。					
成績評価方法(総合)					
授業の中で中間試験を行う。 期末試験を行う。 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
教科書					
Essential 細胞生物学、/B. Alberts 他:南江堂, 1999					
参考書					
メッセージ					
講義時間にすべてを網羅することは時間的に不可能であるので、各自テキストで予習、復習すること。 毎回の授業の概要をA4レポート用紙1～2枚程度にまとめ、次の授業時に提出すること。Wordで書いて、保健学科WEBシラバスから提出してもよい。					
連絡先					
研究室 Tel:0836-22-2830 メールアドレス: shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700215
開設科目名	細胞診断学講義Ⅱ-1			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	尾野 緑			区分	
授業の概要					
<p>山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年次に認定試験の受験が可能です。認定試験では全般的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要です。</p> <p>前期は泌尿器の細胞診について学びます。</p>					
授業の一般目標					
泌尿器の基礎知識を習得しましょう。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 泌尿器の基礎知識を習得する。					
思考・判断の観点: 泌尿器の基礎知識を活用することができる。					
成績評価方法(総合)					
筆記試験で総合評価を行います。					
教科書					
～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方 第2版/西 国広;近代出版, 2007					
参考書					
CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.3 泌尿器」/椎名義雄・他;ユニバーサルコンピューター, 2004					
細胞診用語解説集/日本臨床細胞学会;医学書院, 1996					
メッセージ					
連絡先					
高橋睦夫 E-mail:mutso@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-22-2845					
上田順子 E-mail:jueda@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-22-2833					
尾野 緑 E-mail:mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-85-2853					
オフィスアワー					
随時、可能です。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700216
開設科目名	細胞診断学実習Ⅱ-1			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	尾野 緑			区分	
授業の概要					
<p>山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年次に認定試験の受験が可能です。認定試験では全般的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要です。</p> <p>前期は子宮頸部扁平上皮領域および呼吸器を復習しながら、泌尿器の細胞診について学びます。</p>					
授業の一般目標					
<p>子宮頸部扁平上皮領域および呼吸器の復習をしましょう。</p> <p>泌尿器の基礎技術を習得しましょう。</p>					
授業の到達目標					
<p>技能・表現の観点: 子宮頸部扁平上皮領域および呼吸器の診断ができる。</p> <p>泌尿器の基礎技術を習得する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーニング法を身につけるために課題を行います。 ・子宮頸部扁平上皮領域・呼吸器・泌尿器に関して、スクリーニング試験を行います。 					
教科書					
～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方 第2版/西 国広;近代出版, 2007					
参考書					
<p>CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.3 泌尿器」/椎名義雄・他;ユニバーサルコンピューター, 2004</p> <p>細胞診用語解説集/日本臨床細胞学会;医学書院, 1996</p>					
メッセージ					
連絡先					
尾野 緑 E-mail:mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-85-2853					
オフィスアワー					
随時、可能です。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700217
開設科目名	組織病理学実習			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	高橋 睦夫			区分	
授業の概要					
病理検査学実習では病理学的検査に必要な病理組織学的検査法を実習し、病理組織学や細胞診の基礎を学習する。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な病理組織像が理解・把握できる。 2. 組織を切りだし、HE染色標本が作製できる。 3. 主要な特殊染色標本を作製し、その意義を説明できる。 4. 基本的な良性細胞と悪性細胞が鑑別できる。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 病理組織標本の意義を理解している。					
2. 病理組織標本の作製方法を理解している。					
3. 細胞診の意義と、観察方法を理解している。					
思考・判断の観点: 1. 病理組織標本がどのように臨床に応用されているかを考察できる。					
2. 細胞診が何故必要かを考察できる。					
関心・意欲の観点: 複雑な病理標本作製過程に関心が高く、意欲を持って取り組んでいる。					
細胞診に興味を持っている。					
態度の観点: 真面目に実習に取り組んでいる。					
技能・表現の観点: 観察に耐える標本が作製できる。					
基本的な細胞や組織が理解・認識できる。					
成績評価方法(総合)					
実習前試験、実習終了時試験および定期試験の総合評価。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp, 高橋研究室: (0836) 22-2845					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700218
開設科目名	臨床医学			単位	2単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	山田 治			区分	
授業の概要					
臨床医学の授業では、重要な医学用語、病名、医学の基礎的な知識を身につけるために、カラーラストや図版が多く使用されている「病気の地図帳」をテキストに指定して、わかりやすい病気の解説を行う予定である。病気の解説では、病気の病態生理、病理像、症状、予後、合併症、類似の病気との違いなども基本的な重要な面のみ取り上げて説明する。					
授業の一般目標					
重要な医学用語、病名、医学の基礎的な知識を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 主要な病気の原因と症状を説明できる。2. 主要な病気における検査の異常を説明できる。 3. 主要な病気の治療の基本を知っている。					
思考・判断の観点: 1. 主要な症状から病気の種類、病名を指摘できる。2. 検査値の異常から病気の種類を指摘できる。					
関心・意欲の観点: 1. 病気の病因・病態に関心を持ち、検査値の異常値とを考察する態度を身につける。					
成績評価方法(総合)					
【全体】最終評価は期末試験で行います。授業の出席日数が不足すると試験を受けられません。また、1～2コマ毎に小テストを行い、評価の一部に使用します。					
【観点別】知識の理解度および思考の判断力は期末試験の Paper test で評価します。関心・意欲は授業中の質問などの積極的な態度を評価します。					
教科書					
病気の地図帳／山口和克 監修:講談社, 2000					
参考書					
メッセージ					
解らないところは自宅に持ち帰らず教員に尋ねて下さい。 みんなの前で質問することは勇気がいりますが、同じことに疑問を持っている人も必ずいます。					
連絡先					
連絡用の E-mail は次の通りです 山田 治: osamuynd@yamaguchi-u.ac.jp 市原清志: ichihara@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
山田の研究室は保健学科第1研究棟の 305 号室です。いつでも訪室して下さい。必ず専攻、学年、氏名を名乗って下さい。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700219
開設科目名	英語聴解			単位	1 単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	服部 幸夫			区分	
授業の概要					
英語を実際に自分の口で喋ることにより、speaking および listening の能力の向上を図ります。 具体的には「shadowing」という技法で行います。 週に3回、各30分ずつ行いますが、継続が最も大切です。					
授業の一般目標					
英語を喋り、聴くことにより、異文化との触れ合いを実感する。 英語を喋る「羞恥心」を取り除く					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 言語は「コミュニケーション」のためにあるもので、決して「完璧」に喋る必要のないことを体得する。					
思考・判断の観点: 少しでも喋って、外国人と「コミュニケーション」が出来ると、楽しくなります。それは異文化との接触が心地よいからです。					
関心・意欲の観点: たとえ、自分の英語力がさほどでなくても、実際に自分で話してみると案外通じるものです。「使ってみよう」と心のバリアを越えると、関心と意欲が湧いてきます。					
態度の観点: 自分の文化と異なる異文化には、軽蔑でなく「尊敬」の心で接することにより、相互理解が深まることに気付く					
技能・表現の観点: このトレーニングを重ねればかさねるほど、語彙が豊富になり、より楽しくなることに気付く					
その他の観点: 英語は現在においては国際共通語です。寧ろ、第2の「日本語」と思って接するの如何？					
成績評価方法(総合)					
出席のみです。					
教科書					
NHK ラジオ講座「入門ビジネス英語」(H21 年度毎月発刊、¥380) / John K. Gillespie: 日本放送出版協会					
参考書					
メッセージ					
授業では 10 回程度しか shadowing が出来ませんので、是非残り 20 回ほどを自分で行って下さい。これは「ながら族」で結構です。shadowing はスキットの会話の後追いをすること、つまり、「聴きながら喋って」後追いすることです。遅れたら、中断をして追いついたらまた追いかけて下さい。文字を見ないようにすることがコツです。					
連絡先					
yhattori@yamaguchi-u.ac.jp tel & fax: 0836-22-2807					
オフィスアワー					
授業、会議、その他でオフィスにいないことが多いので、先に連絡(上記)をいただければ、幸いです。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700220
開設科目名	英語読解			単位	1単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	服部 幸夫			区分	
授業の概要					
<p>月～金の毎朝 8:05-8:35 の 30 分間に、英語で書かれた医学書を読みます。毎日英語に触れることにより、医学の専門英語が身につき、文献を読むのが楽になります。1文章ずつ、誰かが英語で読んで、別の者がその部分の日本語の訳本を読み上げ、最後に教員が「英語」で解説をつけます。したがって、30分間の大部分が英語で行われる授業です。内容は国試に関連のあるものを選んで読みます。つまり、医学書の読解、speaking、国試レベル以上の知識習得を知らずのうちに獲得するという欲張った企画です。</p>					
授業の一般目標					
<p>医学英語に慣れる 国試にも関係する医学知識をより深く獲得する 自分の speaking に寄与する</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:「Pathology」(病理学)の本を読んでいます。内容を理解すると同時にそこに使われている医学用語(英単語)に慣れる。(ここで得られた知識は国試にも役立ちます。)</p> <p>思考・判断の観点:授業で浅く習った内容を、もう少し深く学び、より楽しく知識を獲得する</p> <p>関心・意欲の観点:特に3、4年次生、編入生には基礎知識が幾分かあるだけに、一段と楽しめます。</p> <p>態度の観点:単に学習するだけでなく、毎日持続できる「人格」の養成が、最も得るところが大きいかもしれない</p>					
成績評価方法(総合)					
出席のみです。					
教科書					
Essential Pathology／Emanuel Rubin:Lippincott, 2001					
参考書					
メッセージ					
自分との戦いですが、得るものも少なくないプロジェクトです。					
連絡先					
yhattori@yamaguchi-u.ac.jp tel & fax 0836-22-2807					
オフィスアワー					
前もって、連絡して戴ければ幸いです。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700221
開設科目名	英文多読			単位	1 単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	田中 経彦			区分	
授業の概要					
<p>自分が好きな本を色々読む小学校中学校での朝読書の英語版です。Extensive Reading と言います。多読と言うと義務的に読む感じがしますが、そうではなく色々自由に選んで読書しようというものです。楽しく読めれば結果的にたくさん読めます。その時点で非常に易しく読める英語の本から始め色々な本を読みます。訳さずに英語のまま読んで行きます。今日自分にとって楽しい本を読みます。読みたい本が今読めなければ、易しい本を読んで行くと読めるようになります。電気通信大学の酒井邦秀准教授がまとめた多読三原則「1. 英和辞書を引かない 2. わからなければ飛ばす 3. 進まなければ後回し」に従い、易しい本からたくさん読んでいくうちに2年くらい(毎日30分)すればPaperbacksが読めるようになり、ひいては英語の専門原書を読むのが楽になるはず。専門原書には知識が必要ですが、ただし、卒業に必要な英語の単位にはなりません。帰国子女の方は、読み聞かせ等をしていただけると優遇します。インターネットで利用できる英語ニュース等のサイトも紹介します。気分転換に英語の音楽を聴いても構いません。1時間程度読んだら退出自由です。もともとTOEIC 高得点の人は1時間半読みますが。</p>					
授業の一般目標					
<p>専門書は別ですが、自分にとって面白い本を何ヶ月もかけて訳読しようとする、途中で興味が薄れてしまい止めてしまいかねません。「大草原の小さな家」等の原作を数日で読める自信をつけるのが目標です。</p> <p>訳読にこだわるのは、もうやめましょう。大学院入試、大病院検査部の就職試験に辞書持込で英語の試験が出るがありますが、直訳ではなく意識をすれればいいのです。英語をたくさん読めば分からなかった複雑な文もわかるようになります。</p> <p>英語の本を訳読するとせいぜい毎分80語ですが、毎分100語以上で直読できればTOEICは600以上に相当します。毎日30分でも読んでいけば、誰でもできます。大学を出るまでにこの段階に到達しておけば、英語が楽しくなるはず。大学入学時より英語力が必ず向上します。</p>					
授業の到達目標					
<p>思考・判断の観点: 英語話者の思考方法に興味を持つ</p> <p>関心・意欲の観点: 英語で直接情報を取り込む意欲</p> <p>態度の観点: 英語文化に親しむ。</p> <p>技能・表現の観点: 7割くらいしか分からずともいっから、英文を訳さずできるだけ早く読めるようになること。(TOEIC600点台の人は毎分100語以上だそう。やさしい文章から始めればほとんどの人が毎分100語以上、200語以上の人も珍しくありません。)</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>英語への積極性を評価します。単位認定にはアンケートに必ずお答え下さい。皆勤であれば、誰も80点です。毎分100語で読むとすると、90分授業14回で、12万6千語です。中学高校6年間で読む英文は、熱心な人で10万語程度です。一方英米の小中高生は毎年100万語は読むそうです。記録手帳に語数を記録して10万語を越した分は、1万語の上積につき、1点加算します。TOEICの点数についても考慮します。</p>					
教科書					
参考書					
<p>さよなら英文法！多読が育てる英語力／酒井邦秀：筑摩書房、2008</p> <p>100万語多読入門／古川昭夫、伊藤晶子：コスモピア、2005</p> <p>英語喉 50のメソッド／上川一秋、ジーナジョージ：三修社、2007</p> <p>ロングマン ベーシック英英辞典／ロングマン社編集部：桐原書店、2002</p>					
メッセージ					
<p>やさしい英語の本を訳さないで早く読む訓練はTOEIC創設者の一人、三枝幸夫元早大教授(個人)も薦めておられ、世界の常識です。</p> <p>英語を直読するのに慣れていないと、眠くなります。無意識に訳そうとすると眠くなるのでこんな易しい本と思っ本から読んでください。また三コマ目の授業を受けるときは、少し昼ごはんを軽くしたらいいかもしれません。空腹気味だと眠くなりません。</p> <p>語数は、酒井先生、古川氏(SEG代表)らが多読の普及のために作ったSSSと言う団体の協力者が公開している語数です。教材の本に書き込んであります。</p>					
連絡先					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

授業時間がオフィスアワーです。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700301
開設科目名	医療工学			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	石川 敏三			区分	
授業の概要					
<p>現代医療の進歩を支える各種検査、診断、治療機器や医用材料は、医用工学を基盤とする応用分野である。そこで、医用機器や医用材料の構成や性能を正しく理解し、これらの持つ有効性を十分に活用するため、(1)生体物性の理解、(2)電気・電子工学的観点、あるいは(3)機械・物性工学的観点(生体・流体力学を基盤とする機能補助装置の原理と実際など)から、実際の医用機器の動作原理、性能および安全管理を教授する。また、最新の知識や技術を取り入れ実際に役立つ内容とし、また機器の開発や展開についても深く理解させる。実習では、これらの知識を用いて電子回路の特性や記録、センサなどを用いる実験からさらに理解させる。又、自己開発で葉、課題をあたえた後ぐる婦で自由に学び、まとめ、展開学習をさせる。その結果は、発表をさせる。現代医療の進歩を支える各種検査、診断、治療機器や医用材料は、医用工学を基盤とする応用分野である。そこで、医用機器や医用材料の構成や性能を正しく理解し、これらの持つ有効性を十分に活用するため、(1)生体物性の理解、(2)電気・電子工学的観点、あるいは(3)機械・物性工学的観点(生体・流体力学を基盤とする機能補助装置の原理と実際など)から、実際の医用機器の動作原理、性能および安全管理を教授する。また、最新の知識や技術を取り入れ実際に役立つ内容とし、また機器の開発や展開についても深く理解させる。実習では、これらの知識を用いて電子回路の特性や記録、センサなどを用いる実験からさらに理解させる。又、自己開発で葉、課題をあたえた後ぐる婦で自由に学び、まとめ、展開学習をさせる。その結果は、発表をさせる。</p>					
授業の一般目標					
臨床現場における医用機器や医用材料の原理・構成や性能が正しく理解できし、また、これら医療機器の持つ有効性を十分に活用でき、安全対策ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 各種検査、診断、治療機器や医用材料の構成や性能が正しく理解できる。					
思考・判断の観点: 生体の物理学的性質と検査機器の原理が多くてが関係することが分かる。					
関心・意欲の観点: 新しい理論や古典的な理論に基づく機器の開発の歴史をしりその発想が出来る。					
態度の観点: 機器の利用に関心がもてる。					
技能・表現の観点: 適切な機器の利用やエネルギーについて安全対策がとれる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験で評価。					
教科書					
医用工学概論／嶋津秀昭ほか：医歯薬出版、2005					
参考書					
医用工学概論／嶋村秀昭、石川敏三、ほか：医歯薬出版、2005					
メッセージ					
連絡先					
22-2888					
オフィスアワー					
午後 4:00?7:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700302
開設科目名	医療工学実習			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	石川 敏三			区分	
授業の概要					
<p>現代医療の進歩を支える各種検査、診断、治療機器や医用材料は、医用工学を基盤とする応用分野である。そこで、医用機器や医用材料の構成や性能を正しく理解し、これらの持つ有効性を十分に活用するため、(1)生体物性の理解、(2)電気・電子工学的観点、あるいは(3)機械・物性工学的観点(生体・流体力学を基盤とする機能補助装置の原理と実際など)から、実際の医用機器の動作原理、性能および安全管理を教授する。また、最新の知識や技術を取り入れ実際に役立つ内容とし、また機器の開発や展開についても深く理解させる。実習では、これらの知識を用いて電子回路の特性や記録、センサなどを用いる実験からさらに理解させる。又、自己開発で薬、課題をあたえた後ぐる婦で自由に学び、まとめ、展開学習をさせる。その結果は、発表をさせる。</p>					
授業の一般目標					
臨床現場における医用機器や医用材料の原理・構成や性能が正しく理解できし、また、これら医療機器の持つ有効性を十分に活用でき、安全対策ができる。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:検査に用いる様々な機器の原理およびその利用法が理解できる。テスタ、オシロコープによる計測、電子回路の特性、安全対策、センサの原理など、幅広く生体医用工学の知識が身に付く。</p> <p>思考・判断の観点:古典的および新しい理論で実用的になった機器の歴史や利用法が分かる。自己開発では課題に対する適切な情報収集や分析が出来る。</p> <p>関心・意欲の観点:電子回路などの実験では、電気現象の観察から機器の動作原理を知ることが出来る。</p> <p>態度の観点:物理学的現収などを多く観察、体験することで、知識として重要な学習となる。</p> <p>技能・表現の観点:脳波計や心電図家など、各機器の原理に基づく正しい利用が身に付く。</p>					
成績評価方法(総合)					
期末試験を実施。その他小テスト+口頭試問 課題レポートを加える。特に実習では、実験内容についてその場で口頭試問をし、又、自己開発では開発能力を問う。					
教科書					
医用工学概論:医歯薬出版、2005					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
22-2888					
オフィスアワー					
午後 4:00?7:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700303
開設科目名	病理検査学			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	上田 順子			区分	
授業の概要					
<p>病理検査学では、臨床検査の重要部門の一つ、病理組織学的検査(病理検査)について学ぶ。患者の組織や細胞を対象とした組織診と細胞診は病理診断の重要な柱となっている。診断は適正な標本においてなされなければならない。病理組織標本による診断が治療の基盤となっていることを理解する。光学および電子顕微鏡的に、各種目的に応じた適切な標本作製法と病理診断的意義を学ぶ。また、病理検査の安全管理についても学習する。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 光学顕微鏡や電子顕微鏡による病理組織学的検査の意義を理解できる。 2. 細胞診の意義を理解できる。 3. 病理解剖の意義について説明できる。 4. 検査の安全管理について学ぶ。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1. どのような疾患に病理学的検査が必要なのか説明できる。 2. 具体的にHE標本や電顕標本の作製法を説明できる。 3. 細胞診の有用性を説明できる。 4. Papanicolaou 染色法について説明できる。 5. 病理解剖に関する法律や、病理解剖の概要を理解している。 6. 病理検査の安全管理を理解している。 					
思考・判断の観点:					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学的検査と生化学的検査の長所と短所を判断できる。 2. 特殊染色の必要性を考察できる。 3. 組織診と細胞診の長所と短所を考察できる。 4. 悪性細胞の特徴を理解できる。 					
関心・意欲の観点:					
教科書以外の情報をわかりやすく説明できる。					
技能・表現の観点:					
与えられた課題をわかりやすく発表できる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験で知識および理解力を評価する。					
教科書					
病理検査学のすべて／大西俊造:文光堂, 2002					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
上田研究室:TEL 0836-22-2833, e-mail jueda@以下同じ					
オフィスアワー					
上田研究室:随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700304
開設科目名	微生物学実習			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	梅田 昭子			区分	
授業の概要					
病原細菌の取扱を基礎から学ぶ。 細菌の染色法と観察法、培地作製法、滅菌・消毒法、病原細菌の培地への接種法、化学療法剤の検定法等について実習を行なう。					
授業の一般目標					
病原細菌を安全に正しく取り扱えるようになることを目的とする。 将来病院で行なう検査のための染色観察法、培地作製や化学療法剤の検定法の基礎を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 「微生物学」「微生物検査学」で学んだ知識を活かして、実習を通して理解度を深め、病原菌の取扱の重要な点を理解する。					
思考・判断の観点: 実習において染色標本を観察したり、培地上での菌の集落を観察することにより、感染症における起因菌のイメージを高め、病原菌に接する時の適格な判断ができる能力を養う。					
関心・意欲の観点: 実習において実際に病原菌を観察することにより、自分の周囲や世界中で発生する感染症に対して、より具体的に関心を深め、さらに理解を深める努力をする能力を養う。					
態度の観点: 感染症の起因菌の取扱を習得し、感染症に対して適切な判断と迅速な対応がおこなえる能力を身に付ける。					
技能・表現の観点: 感染症に対応したとき、適切な判断と対応ができ、説明ができる能力を養う。					
成績評価方法(総合)					
実習レポート、実習態度、課題レポートおよび期末試験により総合評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
実習レポートは必ず提出すること。実習で観察した顕微鏡像やコロニー像を必ず描写すること。 実習前には必ず当日扱う菌について予習をしておくこと。 また、課題レポート作成のための予習・復習を行なうこと。					
連絡先					
内線2805 umeda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700305
開設科目名	微生物検査学実習			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	梅田 昭子			区分	
授業の概要					
「微生物学実習」では病原細菌の基礎的取扱の習熟を行なうが、「微生物検査学実習」では各病原菌の同定法について習得する。					
授業の一般目標					
病原細菌の同定法の基礎について習得する。実習で取り上げる菌はブドウ球菌・レンサ球菌、緑膿菌、腸内細菌科の菌、ビブリオ、抗酸菌、ヘモフィルス、真菌等であるが、これらの菌の同定法を習得することで、細菌の同定法の一般的方法の全体の流れを学ぶことを目的とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 微生物学「微生物検査学」で学んだ知識を活かして、実習を通して理解度を深め、病原菌の取扱の重要な点を理解する。また、実際に病原菌を同定することにより病原菌の特徴をより具体的に理解する。					
思考・判断の観点: 実習において染色標本を観察したり、培地上での菌の集落を観察、生化学的性状を観察し同定することにより、感染症における起因菌のイメージを高め、病原菌に接する時の適切な判断ができる能力を養う。					
関心・意欲の観点: 実習において実際に病原菌を観察・同定することにより、自分の周囲や世界中で発生する感染症に対して、より具体的に関心を深め、さらに理解を深める努力をする能力を養う。					
態度の観点: 感染症の起因菌の取扱を習得し、感染症に対して適切な判断と迅速な対応がおこなえる能力を身に付ける。					
技能・表現の観点: 感染症に対応したとき、適切な判断と対応ができ、説明ができる能力を養う。					
成績評価方法(総合)					
実習レポート、実習態度、課題レポートおよび期末試験により総合評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
実習レポートは必ず提出すること。実習で観察した顕微鏡像やコロニー像、生化学的性状像を必ず描写すること。 実習前にかかわらず当日扱う菌についての予習を行なうこと。 また、課題レポート作成のための予習・復習を行なうこと。					
連絡先					
内線2805 umeda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700306
開設科目名	臨床細胞診断学実習 I-1			単位	2 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	尾野 緑			区分	
授業の概要					
<p>山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年次に認定試験の受験が可能です。認定試験では全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要です。</p> <p>前期は1～2年生で学んだ領域を復習しながら、消化器および体腔液の細胞診について学びます。</p>					
授業の一般目標					
<p>婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺、甲状腺の復習しましょう。</p> <p>消化器および体腔液の基礎知識と基礎技術を習得しましょう。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 消化器および体腔液の基礎知識を習得する。</p> <p>思考・判断の観点: 消化器および体腔液の基礎知識を活用することができる。</p> <p>技能・表現の観点: 婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺、甲状腺の診断ができる。</p> <p>消化器および体腔液の基礎技術を習得する。</p>					
成績評価方法(総合)					
スクリーニング試験、同定試験で総合評価を行います。					
教科書					
～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方 第2版/西 国広:近代出版, 2007					
参考書					
<p>CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.2 消化器」/椎名義雄・他:ユニバーサルコンピューター, 2004</p> <p>CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.3 体腔液」/椎名義雄・他:ユニバーサルコンピューター, 2004</p> <p>細胞診用語解説集/日本臨床細胞学会:医学書院, 1996</p>					
メッセージ					
連絡先					
<p>高橋睦夫 E-mail:mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-22-2845</p> <p>上田順子 E-mail:jueda@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-22-2833</p> <p>尾野 緑 E-mail:mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-85-2853</p> <p>山本美佐 E-mail:yamamoms@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-22-2848</p>					
オフィスアワー					
随時、可能です。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700307
開設科目名	免疫化学実習			単位	2 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	山城 安啓			区分	
授業の概要					
<p>臨床化学分野で測定される代表的項目として、酵素測定、電解質測定、電気泳動法による分析に項目を絞って測定技術と原理を習得する。酵素はアルカフォファターゼを Bessey-Lowry 法で測定する。電解質はカルシウムを o-CPC 法で測定する。電気泳動法はセルロースアセート膜による血清蛋白分画を学習する。また、化学分野で測定が多くなってきた免疫学分野の代表的項目の測定技術と原理を習得する。ここでは、免疫比濁法として、血中 IgG の測定を習得する。さらに、その技術をもとに測定法における問題点、疑問点を検討項目とし、問題解決を試みる。</p>					
授業の一般目標					
<p>臨床検査における化学免疫検査項目を網羅して実習し理解することは不可能である。そこで、代表的な項目を4種類あげるるのでその項目の測定を通じて以下の習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 測定原理を理解し技術を修得する 2) 色々な疑問点を見つけ解決する為の手段を考察する 3) 結果を考察し、まとめる力を身に付ける 4) 他人に分かりやすい説明の為の手法を修得する 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 測定する項目の生体内での機能を説明できる。また、基準値、生化学、免疫等を説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: なぜだろう? こうしたらどうだろう? という積極的な疑問、問題点を指摘できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 納得いかないデータは何度でもやり直す。その原因は何かを考える。</p> <p>態度の観点: 積極的に試薬作りから始まる実習を行う。</p> <p>また、自分たちが扱う実習器具の洗浄・準備を責任を持って行う。</p> <p>共同作業においては強調した作業が行える。</p> <p>技能・表現の観点: 各項目を設定したレベルで正確に測定できる。</p> <p>2重測定、個人間の統一性、日差再現性など正確な操作が行える。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>出席し実習を経験することを最重視する。2 日間のショートコースではあるが各実習項目ごとに実習結果をまとめレポート化し、提出させ、理解力を判断する。その後、数人単位での検討実験・発表により、問題発見能力、解決能力、まとめる力、表現力、質問に答えられるだけの理解力を獲得しているかを評価している。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>実習は検査の基本です。楽しみながら技術・知識を獲得して下さい。</p>					
連絡先					
<p>山城:メールアドレス yamasiro@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 2863</p> <p>田中:メールアドレス tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 2857</p> <p>松井:メールアドレス giants-ygc@umin.ac.jp, 電話 2865</p>					
オフィスアワー					
<p>講義/実習や会議なければいつでも OK</p>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700308
開設科目名	呼吸循環機能検査学			単位	2 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	松田 昌子			区分	
授業の概要					
心電図、心音・脈波、超音波検査など、循環器の機能を測定する方法について、それぞれの原理と目的について説明し、検査データの解析方法、正常と異常の差、循環器疾患の診断に至るプロセスを統合して講義する。また、呼吸機能検査の原理と応用についても講義する。					
授業の一般目標					
1) 循環器疾患の診断における心電図や超音波検査の原理や役割を理解し、それらの情報を関連つけて正常と異常を判別することができる。2) 呼吸機能測定方法の原理を理解し、正常と異常を判別できる。3) 使用機器の原理を理解し、必要な保守点検を列挙できる。4) 人を対象とする検査における患者への配慮の重要性を説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 循環器および呼吸器機能検査法の意義と方法を理解し、代表的な疾患における特徴を説明できる。					
思考・判断の観点: 検査データの異常を勉強する時、なぜそうなるのかという点を常に考える。					
関心・意欲の観点: 検査データをもとに症例検討ができる。					
成績評価方法(総合)					
小テストおよび期末試験の結果で評価する。各担当教員それぞれが試験を行い、担当時間数によって点数配分する。					
教科書					
生理機能検査学／大久保善朗他: 医歯薬出版, 2003					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
松田: 0836-22-2832[matsudam@yamaguchi-u.ac.jp]; 未永: 0836-22-2133					
オフィスアワー					
随時 OK です。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700309
開設科目名	神経機能検査学			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	野垣 宏			区分	
授業の概要					
<p>中枢神経疾患の機能評価に用いられる脳波の意義とその検査法について教授する。</p> <p>脳波計の構造・特性、電極の装着方法について教授する。</p> <p>末梢神経および運動器疾患の機能評価に用いられる筋電図検査について教授する。</p>					
授業の一般目標					
脳波検査、筋電図検査、末梢神経伝導検査について、その意義、測定方法、結果の解釈について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 脳波検査、筋電図検査、末梢神経伝導検査について、その意義、測定方法、結果の解釈を説明できる。					
思考・判断の観点: 検査結果の正常所見や異常所見を指摘できる。					
成績評価方法(総合)					
学期末試験、脳波判読演習での発表で評価する。					
教科書					
生理機能検査学／大久保善朗・他；医歯薬出版，2003					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
nogaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700310
開設科目名	画像検査学			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	松田 昌子			区分	
授業の概要					
体内の臓器を画像により診断する検査法のうち、核磁気共鳴現象を利用した画像診断法である MRI (核磁気共鳴画像)、超音波を用いて行なう超音波検査(腹腔内臓器、産婦人科臓器、表在臓)について、原理、目的、正常像、異常像について講義する。					
授業の一般目標					
検査の原理、異常画像、臨床診断への応用を学ぶ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1) MRI 画像の基本原理を理解し、正常像と代表的な異常画像を判別できる。 2) 腹部超音波検査の正常画像と代表的疾患について説明できる。 3) 産婦人科領域での超音波検査の意義と代表的異常像を説明できる。 4) 甲状腺と乳腺疾患の正常と代表的異常画像を説明できる。					
思考・判断の観点: 平面像である超音波画像から立体的な構造を想像できる。					
関心・意欲の観点: 非侵襲的画像検査の利点と限界を認識し、他の検査・治療との関連に関心を持つ。					
成績評価方法(総合)					
各担当教員が試験を行い、担当時間数に応じて配点し、合計点の 60%以上を合格とする。規定の出席日数に満たない者は定期試験の受験資格を失う。					
教科書					
生理機能検査学／大久保善朗他:医歯薬出版, 2003					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
松田:0836-22-2832、[matsudam@yamaguchi-u.ac.jp]; 末永:0836-22-2133					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700311
開設科目名	血液検査学			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	岡野 こずえ			区分	
授業の概要					
血液や造血臓器の基礎的知識と血液疾患は、すでに血液学で学んでいる。この講義では、それらの知識を基に、血液疾患を検出・診断するための種々の検査法の原理および方法論を学び、疾患とその検査の関連及び検査成績の解釈等を学習する。					
授業の一般目標					
血液疾患を診断するための検査法①血球計測検査、②細胞形態鑑別検査、③凝固・線溶系検査、④その他の検査の原理及び結果との疾患への関連性について学習をすすめていく。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 血液疾患と血液検査方法および測定値の関連性を説明できる					
思考・判断の観点: 血液疾患について血液学的検査以外の検査方法との関連性を説明できる					
関心・意欲の観点: 血液疾患について新しい血液学的検査方法の発展性を思考することができる					
態度の観点: 採血など患者を対象にすることの多い検査法なので真摯な態度で臨む					
技能・表現の観点: 確実な知識と技術を身につけ、それらを適切に表現できる					
成績評価方法(総合)					
毎回のミニテスト、期末試験、出席点を総合して評価する					
教科書					
臨床検査技術学(11)血液検査学、第3版／古澤新平、磯部淳一:医学書院、2004					
血液細胞アトラス、三輪史郎編／三輪史郎、渡辺陽之輔:文光堂、2005					
スタンダード検査血液学／日本検査血液学会編:医歯薬出版、2008					
参考書					
メッセージ					
血液検査学に興味を持って、身近な検査に感じて欲しい。					
連絡先					
電話は 0836-22-2837、メールは kozue@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
5 時以降					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700312
開設科目名	検査精度管理学			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	市原 清志			区分	
授業の概要					
臨床検査値の信頼性を高めるための要件と、それを達成するために必要な一連の方法論を系統的に講義する。ここで検査の信頼性、測定値の再現性(精度)を高め、偏りの少ない(正確な)値を出し、人為的なミス(検査過誤)の防止に依存している。測定精度・正確度の評価については、新測定法導入時の技術的評価法、管理図を用いた精度のモニターング法を中心に講義を行う。一方、外部精度管理調査結果から、臨床検査の標準化がどのように推進され、現在の検査の精度がどのような状況にあるのかを学ぶ。さらに臨床検査の臨床的有効性を客観的に評価するための指標とその解釈についても解説する。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> 臨床検査の標準化・精度の現状を理解し、将来の方向性がわかる 検査の現場で、日常検査の精度管理を実践できる 検査の技術的評価法を理解し、実際の基礎検討のデータを用いてその評価を行える 検査の臨床的有用性の評価法を理解し、その計算・作図ができる 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 臨床検査の精度を定量的に評価できる(分散分析法の利用と管理図の作成)。					
臨床検査の変動要因を熟知している。					
思考・判断の観点: 臨床検査の精度に影響する要因を列挙できる。外部精度管理調査結果を正しく評価できる。基準範囲と臨床判断値の違いを列挙できる。					
成績評価方法(総合)					
・出席・小テスト(30%)、定期試験(70%)……受験には2/3以上の出席が必要					
教科書					
参考書					
メッセージ					
3年後期で検査精度管理学の実際を学びますが、その基礎知識を整理します					
連絡先					
0836-22-2884					
オフィスアワー					
9:00-18:30					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700313
開設科目名	検査情報管理学			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	市原 清志			区分	
授業の概要					
<p>近年の急激な技術革新により臨床検査(検体検査)のほとんどが自動化され、手操作で測定される検査項目は激減した。これに伴い、臨床検査技師に現在もっと要求されている能力は、検査の依頼から報告までの情報をどう管理するかであり、検査情報システムに蓄積された膨大な情報を、検査業務や診療支援にどう活用するか、また自動分析装置から出力される測定値をどう管理するかである。</p> <p>本講義では、検査情報のデータベースの構築法、SQL文という汎用データベース言語を使った、診療支援システムからの情報の抽出法、エクセルなどを使ったデータ解析法を中心に、実際の検査情報に奏さしながら、演習形式で講義を進めます。</p> <p>また、日常検査情報を精度管理業務にまた、診療支援にどう活用するかについて、具体的な事例を挙げ、演習も交えて、それに必要な情報技術を解説します。</p> <p>なお、3回目以降の授業では、新たに構築したバーチャルラボ(実業務と同じモデルデータを格納した検査情報システム)を使って、実働している検査室のサーバーにアクセスしている感覚で、データベースを操作できるようにしています。このため、実務で即生かせる、検査情報を管理する技術が身に付くことを目標としています。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査情報システムの基礎をなすデータベースの構成を理解できる 2. 簡単なデータベースを構築し、利用できる 3. データベース操作言語である、SQL 文を理解し、その基本的コマンドを使える 4. データベースから抽出したデータの検査業務への活用法を理解している 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 医療情報データベースの仕組みが分かる					
思考・判断の観点: 検査システムから抽出した情報の検査業務への活用法を想起できる					
関心・意欲の観点: コンピュータの可能性について関心を持ち、それを活用する技術の習得に意欲を持っている					
態度の観点: 技能・表現の観点 SQL 文を使って、データベースの基本的な制御法、特にデータの抽出法に習熟している					
技能・表現の観点: 汎用的なソフトを使ってデータベースの基本構造を構築できる。データベースから、目的に応じて自在にクロス集計を行える。					
成績評価方法(総合)					
出席点 50% 定期試験(実技試験) 50% (受験には 2/3 の出席が必要)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>マイクロソフトのエクセルおよびアクセス(Access)を必要とします。</p> <p>また、バーチャルラボのサーバーに働きかけてデータベースを制御するためのソフト(CSE)をインストールしていただきます。</p>					
連絡先					
0836-22-2884					
オフィスアワー					
9:00-18:30					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700314
開設科目名	労働衛生法規			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	常岡 英弘			区分	
授業の概要					
第一種衛生管理者取得のために必要な労働衛生法規について講義を行う。					
授業の一般目標					
安全衛生管理の専門家であり、スペシャリストである第一種衛生管理者が熟知すべき法令である労働基準法、労働安全衛生法、その他関係法規の内容を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 労働基準法、労働安全衛生法の関係法令、労働安全衛生法関係の諸規則、労働の管理体制、健康障害防止のための必要措置、有害物質に関する規制、健康保持増進関係、過重労働対策・メンタルヘルス対策等について説明できる。					
思考・判断の観点: 労働を労働衛生法および健康保持増進関係より考えるようになる。					
関心・意欲の観点: 労働基準法、労働安全衛生法また健康管理について幅広く関心を抱くようになる。					
態度の観点: 日常生活の中で労働衛生について主体的に考えることができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験が主であるがレポート内容や出席態度も加味する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
0836-22-2854					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700315
開設科目名	バイオサイエンス			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	石川 敏三			区分	
授業の概要					
近年の生命科学の発展はめざましく、生命の細胞から個体レベル間での調節機構を解説する。一方、先端医療における各種バイオセンサー、マテリアル、ミクロチップの現状と課題を解説する。臨床検査に限らず、広い視野で医と工学を関連させた生体の調節機構の解析、模倣やセンサー原理の理解や発想を考える。					
授業の一般目標					
細胞レベルから個体レベルまでのさまざまなホメオスタシス調節機構が統合して理解出来る。細胞の障害過程と修復機構、細胞再生の話題に追従や理解が出来る。生体機能の模倣センサー開発などの現状課題が理解できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 先端のバイオサイエンスの現況と課題が理解できる。					
思考・判断の観点: 生命科学研究の進め方、展開が分かる。					
関心・意欲の観点: バイオサイエンスの現状認識から新しい発想が可能となる。					
態度の観点: バイオ関連の情報収集、分析、活用して、一部では、研究プランが組める。					
技能・表現の観点: 先端の情報収集法、実験戦略を持つことなどが身に付く。					
成績評価方法(総合)					
レポート課題で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
著しい医療の進歩中で、バイオサイエンスに関する話題を取り上げ解説し、その基礎と応用に対する興味もてるようにしたい。また3回は、オムニバス形式で先端研究者により解説する。					
連絡先					
22-2888					
オフィスアワー					
17:30~20:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700316
開設科目名	健康食品学			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	服部 幸夫			区分	
授業の概要					
健康食品管理士指定研修会テキストを中心に、健康食品、保健機能食品、医薬品との違い、健康食品のとりかた、NST、医薬品への影響、健康食品各論、食品添加物、関係法規などを学ぶ。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・健康食品として販売されているもののカテゴリーを理解する ・健康食品の法的拘束を理解する ・各食品の効能、副作用、医薬品との相互作用が分かる ・現在問題となっている事象が何であるか、その問題点と対策が分かる 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:健康食品総論および各論を学び、最近問題となっている健康食品に関する理解を深める。そして、最終的には「健康食品管理士」の認定取得を目指す。</p> <p>思考・判断の観点:「健康食品」の基礎知識を学ぶことによって、市中に出回っている健康食品の位置づけや問題点を自分で考察する。</p> <p>関心・意欲の観点:架空の内容ではないので、市販の食品にも関心を持って臨む</p> <p>態度の観点:必要とされる知識を的確に確保し、それを認定試験で証明する。</p> <p>技能・表現の観点:少なくとも店頭にならんでいる健康食品の意味を判別できる技能が求められる。</p>					
成績評価方法(総合)					
出席と試験(あるいはレポート)					
教科書					
健康食品学/健康食品管理士認定協会:健康食品管理士認定協会, 2007					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yhattori@yamaguchi-u.ac.jp te & fax 0836-22-2807					
オフィスアワー					
前もって連絡を戴ければ幸いです。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700401
開設科目名	病理検査学病院実習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	高橋 睦夫			区分	
授業の概要					
構造制御病態学講座(病理学第一講座)で病理組織標本作製法と病理組織診断について学び、病理部で細胞診標本の作製法と細胞診断法について学習する。					
授業の一般目標					
病理組織標本の作製、細胞診標本の作製、各臓器の組織診断、代表的な病理組織診断と細胞診断ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 病理組織標本や細胞診標本の作製法などを説明できる。					
思考・判断の観点: 代表的な疾患を病理組織標本や細胞診標本から判断でき、知識として習得できる。					
関心・意欲の観点: 病理組織標本の作製と細胞診標本の作製ができる。					
成績評価方法(総合)					
<ul style="list-style-type: none"> ・作製した病理組織・細胞診標本の評価・採点 ・臓器診断、病理組織・細胞診診断についての評価・採点 ・出席率は評価の対象としないが、欠格条件 					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
E-mail: mtsuo@yamaguchi-u.ac.jp, Tel/Fax: (0836) 22-2845					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700402
開設科目名	微生物検査学病院実習			単位	1 単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	梅田 昭子			区分	
授業の概要					
「微生物学」「微生物検査学」「微生物学実習」「微生物検査学実習」で大学での授業で学んだことへの応用として、大学病院内検査室で実際に検査手順について習得する。					
授業の一般目標					
大学内の授業として講義・実習で病原微生物の取扱と同定法を学んだが、実際の臨床検査では直接患者からの検体を取り扱うので、多くの常在菌のなかから感染症起因菌を区別し同定する手順と方法を習得する。また、学内実習ではクラシックな方法で同定したが、実際の臨床検査では簡易キットや機械による自動化が進んでいるので、実際の臨床検査を実体験して方法を習得する。 また、検査室での現場の技師の方々に接触し、人間関係を学び、社会性を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 病原微生物の同定法で、特に臨床検査で応用されている迅速法を習得すること、実際の臨床検体からの同定の手順を習得し、臨床検体の取扱法を理解する。					
思考・判断の観点: 多くの常在菌が混入する臨床検体から起因菌をどのように判断して同定していくのかを習得する。					
関心・意欲の観点: 臨床検査について、実際の現場で体験することにより、関心と理解をさらに深め、現実に自分の周りでは現在どのような感染症が広がっているのか関心を深める。					
態度の観点: 臨床検体の取扱についての注意点を習得する。 臨床検査現場での人間関係を理解し、社会性を養う。					
技能・表現の観点: 臨床検体の取扱の注意点と同定法の技術を習得するとともに、検査室での人間関係について学び、社会性を身につける					
成績評価方法(総合)					
検査室での評価と卒業試験により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
将来病院に勤務することを考えて、実際の現場をしっかりと学ぶこと。 遅刻や勝手な個人行動を慎むこと。					
連絡先					
内線2805 umeda@yamaguchi-u.ac.jp 病院内微生物検査室内線2592					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700403
開設科目名	臨床細胞診断学実習Ⅱ			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	尾野 緑			区分	
授業の概要					
<p>山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年次に認定試験の受験が可能です。認定試験では全般的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要です。</p> <p>細胞検査士資格認定試験合格を目指して、試験対策を行います。</p>					
授業の一般目標					
細胞検査士資格認定試験合格					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 細胞検査士資格認定試験合格					
思考・判断の観点: 細胞検査士資格認定試験合格					
技能・表現の観点: 細胞検査士資格認定試験合格					
成績評価方法(総合)					
教員による模擬試験で総合評価を行います。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
細胞検査士資格認定試験合格に向けて、頑張りましょう。					
連絡先					
高橋睦夫 E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-22-2845					
上田順子 E-mail: jueda@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-22-2833					
尾野 緑 E-mail: mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-85-2853					
山本美佐 E-mail: yamamoms@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-22-2848					
オフィスアワー					
随時、可能です。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700404
開設科目名	免疫化学病院実習			単位	1 単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	服部 幸夫			区分	
授業の概要					
一般検査では、検尿定性の他、尿糖、尿蛋白の定量を行う。また多くの尿沈渣を実習する。免疫・化学では分析法を理解し、自動分析機の機構を把握する。遺伝子検査部門では簡単な演習で、遺伝子に関する知識を深める。臨床検査システム実習では検査オーダーから検査結果参照までの実際を供覧する。					
授業の一般目標					
講義、学内実習で学んだことが、どのように現場で生かされているかを理解し、更に実戦的な知識を獲得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 免疫化学に関する実践的な知識を獲得する					
思考・判断の観点: 講義で学習したことが現場でどのように用いられているかを理解し、分析の流れを把握する。					
関心・意欲の観点: 漠然と臨むのではなく、積極的に知識を「獲得する」意欲を持って臨む。					
態度の観点: 挨拶を心がけ、常に謙虚に振る舞う。検査部にも大勢の患者さんが採血などで来られるので、親切に対応する。医療はサービス業であることを銘記しておく。					
技能・表現の観点: 疑問は先ず成書やインターネットで調べる。それでも分からない時は、担当技師に質問する。					
その他の観点: 白衣で臨むこと。					
成績評価方法(総合)					
自習ですから、出席が最も大切です。臨地実習ノートは定期的にチェックします。できるだけ、感想も書いて下さい。					
教科書					
臨地実習ノート／北村清吉:医歯薬出版, 2006					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yhattori@yamaguchi-u.ac.jp tel & fax 0936-22-2807					
オフィスアワー					
出来れば、予め連絡をして頂ければ幸いです。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700405
開設科目名	機能検査学病院実習			単位	2単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	松田 昌子			区分	
授業の概要					
臨床生理学検査の実際を病院の検査部署でグループごとに見学実習させ、また学内で手技の修練を行う。					
授業の一般目標					
病院で、人を対象に行う検査が実際に行われる状況を見学し、					
1) 講義で学んだことがいかに臨床現場で応用されているか知る					
2) 検査手技の向上(特に超音波検査法)					
3) 患者対応の方法					
を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1) 臨床生理学検査の基本的原理と正常像を説明できる					
2) 代表的な異常所見を説明できる					
思考・判断の観点: 各疾患の病態生理と検査結果の関係を説明できる。					
関心・意欲の観点: 実習期間中に、学部の実習室で、自主実習を行い、					
技能・表現の観点: 臨床生理学検査の基本的な手技を習得する。					
成績評価方法(総合)					
ペーパー試験、口頭試問、レポート、実習態度等により総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
病院実習マニュアルを参照すること。					
連絡先					
松田 (0836-22-2832; matsudam@yamaguchi-u.ac.jp)					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1051700406
開設科目名	血液検査学病院実習			単位	1単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	岡野 こそえ			区分	
授業の概要					
<p>学内で臨床血液学、血液検査学の知識と技術を習得した後に、様々な血液疾患患者の検体を用いて実習を行う。</p> <p>病院での血液検査学実習は、直接患者に接することがあるので、技術のみならず患者の疾患に対する心理的状況も学ぶ。更に、病院での血液検査室の運営の仕方を理解する。</p>					
授業の一般目標					
<p>臨床血液学と血液検査学の講義で理解した血液学について、実際に各種血液疾患患者血液検体を使用して学習を行う。検査室のオートアナライザーによる血球の算定法や分類法、凝固線溶系検査法の原理や操作法を学ぶ。また、実際に患者の出血時間等の検査を行い、患者への対応法も学ぶ。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1. 各実習内容の原理を説明できる。2. 各測定機器の原理と使用方法を説明できる。3. 各検査項目間の関連性を説明できる。</p> <p>思考・判断の観点:1. 検査結果を判断できる。</p> <p>2. 様々な疾患における各検査項目の異常発生メカニズムを指摘できる。</p> <p>関心・意欲の観点:1. 状況に応じて適切な検査を行えるように心がける。</p> <p>2. 検査の手技に関心をもち実施できる。</p> <p>態度の観点:1. 問題意識を持ち積極的に取り組むことができる。</p> <p>2. 精度の高い検査が実施できる態度を身につける。</p> <p>技能・表現の観点:1. 検査結果を考察し、文章や口答で適切に表現できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
岡野こそえ:電話0836-22-2837、メールは k-ozue@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp					
教科書					
<p>臨床検査技術学(11)血液検査学、第3版／古澤新平、磯部淳一:医学書院、2004</p> <p>血液細胞アトラス、三輪史郎編 / 三輪史郎、渡辺陽之輔:文光堂、2005</p>					
参考書					
メッセージ					
<p>血液学、血液形態学、CBC、血球計測、血小板機能検査、止血凝固検査</p> <p>検査を受ける患者の気持ちを考えながら検査を行って欲しい。</p> <p>血液検査全般の仕事の流れや配分を学んで欲しい。</p>					
連絡先					
<p>岡野こそえ:0836-22-2837</p> <p>kozue@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
5時以降					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500101
開設科目名	生化学			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	田中 経彦			区分	
授業の概要					
医学の基本である生化学を学習する。					
授業の一般目標					
医学の基本である生化学知識を理解する					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生化学の知識を理解する					
成績評価方法(総合)					
本試験 80 点、出席点 20 点です。小試験は公正さを担保できないので、評価に加えません。					
教科書					
新体系看護学 第 2 巻 栄養生化学／脊山洋右他:メヂカルフレンド社, 2002					
参考書					
メッセージ					
ややこしいですが、生化学は医学の基本の一つなのでしっかり勉強してください。					
連絡先					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日1～6時限目 共通教育棟3階ラウンジ付近 この日だけ山口にいます。 事前に連絡のこと。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500102
開設科目名	形態機能学Ⅱ			単位	1単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	野垣 宏			区分	
授業の概要					
人の生命システムの構造基盤について広く具体的知識を獲得できるよう、実際の体や臓器の観察を通じて形態学の講義を行う(実習は医学部解剖学実習室で行う。)					
授業の一般目標					
実際の人体や臓器に接し、講義と観察を通じて、病態の基盤となる解剖生理学的知識を獲得し、人体の構造と機能について有機的に説明できる。また献体の意義や死生観について自分の考えを述べることができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 人体を理解するため必要な解剖学的構造の名称を述べ、機能を説明できる。					
思考・判断の観点: 主たる構造についてその障害が起こる原因や臨床症状について説明できる。					
関心・意欲の観点: 人体の構造のルールや発生・進化、臨床的意義について自分で調べ、整理できる。					
態度の観点: 積極的に講義や実習に参加し、他者と議論し、自分の知識や考えを整理できる。					
技能・表現の観点: 積極的に解剖実習に参加し、観察法を体得し、自分の考えをまとめて表現できる。					
その他の観点: 実際のご遺体を観察し、献体の意義や死生観について自分の考えを説明できる。					
成績評価方法(総合)					
レポート、小テストで評価する。					
教科書					
トートラ人体解剖生理学(原書7版)／佐伯由香・他 翻訳:丸善, 2007					
参考書					
メッセージ					
ご遺体や臓器の保存のために、ホルムアルデヒドによる防腐措置が施されています。化学物質に過敏な体質をおもちの方は申し出てください。					
連絡先					
nogaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500103
開設科目名	看護学概論Ⅱ			単位	1単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	藤澤 怜子			区分	
授業の概要					
看護の専門職としての責務、看護業務に伴う法的責任と看護倫理、看護活動と保健医療福祉、看護活動と管理、看護実践の思考過程など、看護の機能と役割を法的側面、医療チームの中での役割を中心に教授する。					
授業の一般目標					
看護概論Ⅰで学んだことを基に、看護の専門職者としての資格、期待される役割、看護の機能と実践について学習し、看護学の基盤となる知識・態度を深める					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 看護職とその資格について述べることができる。					
2. 内的規範である看護倫理と外的規範である法的側面について説明できる。					
3. 看護行為の成り立ちについて概要が説明できる。					
思考・判断の観点: 1. 習得した情報から自分考える大枠でのナース像を伝えることができる。					
2. 看護の専門職になるために個々が必要と考える学びについて説明できる。					
関心・意欲の観点: 1. 課題に積極的に取り組み報告できる。					
態度の観点: 1. 人と人との関わりについて、自己の役割を考えながら行動できる。					
技能・表現の観点: 1. グループワークで自分の意見を述べるができる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験 80%、課題レポート+小テスト 20%で評価する。出席数が規定に満たないものは期末試験の受験資格が与えられないので注意する。					
教科書					
医療安全とリスクマネジメント／嶋森好子、任和子編集:ヌーヴルヒロカワ, 2008					
参考書					
看護理論－理論と実践のリンケージ／松木光子他編集:ヌーヴルヒロカワ, 2007					
メッセージ					
前期で学んだ「看護学概論Ⅰ」の知識を基に授業を進めますので、復習をしておいて下さい。					
連絡先					
研究室 0836-22-2814 reiko@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水、金の 17 時～ 電話で在室を確認して下さい					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500104
開設科目名	英文多読			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	田中 経彦			区分	
授業の概要					
<p>自分が好きな本を色々読む小学校中学校での朝読書の英語版です。Extensive Readingと言います。多読と言うと義務的に読む感じがしますが、そうではなく色々自由に選んで読書しようというものです。楽しく読めれば結果的にたくさん読めます。その時点で非常に易しく読める英語の本から始め色々な本を読みます。訳さずに英語のまま読んで行きます。今日自分にとって楽しい本を読みます。読みたい本が今読めなければ、易しい本を読んで行くと読めるようになり。電気通信大学の酒井邦秀准教授がまとめた多読三原則「1. 英和辞書を引かない 2. わからなければ飛ばす 3. 進まなければ後回し」に従い、易しい本からたくさん読んでいくうちに2年くらい(毎日30分)すればPaperbacksが読めるようになり、ひいては英語の専門原書を読むのが楽になるはず。専門原書には知識が必要ですが、ただし、卒業に必要な英語の単位にはなりません。帰国子女の方は、読み聞かせ等をしていただけると優遇します。インターネットで利用できる英語ニュース等のサイトも紹介します。気分転換に英語の音楽を聴いても構いません。1時間程度読んだら退出自由です。もともとTOEIC 高得点の人は1時間半読みますが。</p>					
授業の一般目標					
<p>専門書は別ですが、自分にとって面白い本を何ヶ月もかけて訳読しようとする、途中で興味が薄れてしまい止めてしまいかねません。「大草原の小さな家」等の原作を数日で読める自信をつけるのが目標です。</p> <p>訳読にこだわるのは、もうやめましょう。大学院入試、大学病院検査部の就職試験に辞書持込で英語の試験が出ることがありますが、直訳ではなく意識をすべしなのです。英語をたくさん読めば分からなかった複雑な文もわかるようになります。訳すのは通常自分の頭を混乱させるだけです。むしろ日本語でかく小論文の方が大事でしょう。</p> <p>英語の本を訳読するとせいぜい毎分80語ですが、毎分100語以上で直読できればTOEICは600以上に相当します。毎日30分でも読んでいけば、誰でもできます。大学を出るまでにこの段階に到達しておけば、英語が楽しくなるはず。大学入学時より英語力が必ず向上します。</p>					
授業の到達目標					
<p>思考・判断の観点: 英語話者の思考方法に興味を持つ</p> <p>関心・意欲の観点: 英語で直接情報を取り込む意欲</p> <p>態度の観点: 英語文化に親しむ。</p> <p>技能・表現の観点: 7割くらいしか分からずともいから、英文を訳さずできるだけ早く読めるようになること。(TOEIC600点台の人は毎分100語以上だそう。やさしい文章から始めればほとんどの人が毎分100語以上、200語以上の人も珍しくありません。)</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>英語への積極性を評価します。単位認定にはアンケートに必ずお答え下さい。皆勤であれば、誰も80点です。毎分100語で読むとすると、90分授業14回で、12万6千語です。中学高校6年間で読む英文は、熱心な人で10万語程度です。一方英米の小中高生は毎年100万語は読むそうです。記録手帳に語数を記録して10万語を越した分は、1万語の上積につき、1点加算します。TOEICの点数についても考慮します。</p>					
教科書					
参考書					
<p>さよなら英文法！多読が育てる英語力／酒井邦秀:筑摩書房, 2008</p> <p>100万語多読入門／古川昭夫、伊藤晶子:コスモビア, 2005</p> <p>英語候 50のメソッド／上川一秋、ジーナジョージ:三修社, 2007</p> <p>ロングマン ベーシック英英辞典／ロングマン社編集局:桐原書店, 2002</p>					
メッセージ					
<p>やさしい英語の本を訳さないで早く読読訓練はTOEIC創設者の一人、三枝幸夫元早大教授(個人)も薦めておられ、世界の常識です。</p> <p>英語を直読するのに慣れていないと、眠くなります。無意識に訳そうとすると眠くなるのでこんな易しい本と思う本から読んでください。また三コマ目の授業を受けるときは、少し昼ごはんを軽くしたらいいかもしれません。空腹気味だと眠くなりません。</p> <p>語数は、酒井先生、古川氏(SEG代表)らが多読の普及のために作ったSSSと言う団体の協力者が公開している語数です。教材の本に書き込んであります。</p>					
連絡先					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp					

オフィスアワー

授業時間がオフィスアワーです。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500105
開設科目名	英文多読			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	田中 経彦			区分	
授業の概要					
<p>自分が好きな本を色々読む小学校中学校での朝読書の英語版です。Extensive Readingと言います。多読と言うと義務的に読む感じがしますが、そうではなく色々自由に選んで読書しようというものです。楽しく読めれば結果的にたくさん読めます。その時点で非常に易しく読める英語の本から始め色々な本を読みます。訳さずに英語のまま読んで行きます。今日自分にとって楽しい本を読みます。読みたい本が今読めなければ、易しい本を読んで行くと読めるようになります。電気通信大学の酒井邦秀准教授がまとめた多読三原則「1. 英和辞書を引かない 2. わからなければ飛ばす 3. 進まなければ後回し」に従い、易しい本からたくさん読んでいくうちに2年くらい(毎日30分)すればPaperbacksが読めるようになり、ひいては英語の専門原書を読むのが楽になるはずですが、専門原書には知識が必要ですが、ただし、卒業に必要な英語の単位にはなりません。帰国子女の方は、読み聞かせ等をしていただけると優遇します。インターネットで利用できる英語ニュース等のサイトも紹介します。気分転換に英語の音楽を聴いても構いません。1時間程度読んだら退出自由です。もともとTOEIC 高得点の人は1時間半読みますが。</p>					
授業の一般目標					
<p>専門書は別ですが、自分にとって面白い本を何ヶ月もかけて訳読しようとする、途中で興味が薄れてしまい止めてしまいかねません。「大草原の小さな家」等の原作を数日で読める自信をつけるのが目標です。</p> <p>訳読にこだわるのは、もうやめましょう。大学院入試、大学病院検査部の就職試験に辞書持込で英語の試験が出ることがありますが、直訳ではなく意訳をすればいいのです。英語をたくさん読めば分からなかった複雑な文もわかるようになります。訳すのは通常自分の頭を混乱させるだけです。むしろ日本語でかく小論文の方が大事でしょう。</p> <p>英語の本を訳読するとせいぜい毎分80語ですが、毎分100語以上で直読できればTOEICは600以上に相当します。毎日30分でも読んでいけば、誰でもできます。大学を出るまでにこの段階に到達しておけば、英語が楽しくなるはずですが、大学入学時より英語力が必ず向上します。</p>					
授業の到達目標					
<p>思考・判断の観点: 英語話者の思考方法に興味を持つ</p> <p>関心・意欲の観点: 英語で直接情報を取り込む意欲</p> <p>態度の観点: 英語文化に親しむ。</p> <p>技能・表現の観点: 7割くらいしか分からずともいいから、英文を訳さずできるだけ早く読めるようになること。(TOEIC600点台の人は毎分100語以上だそうです。やさしい文章から始めればほとんどの人が毎分100語以上、200語以上の人も珍しくありません。)</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>英語への積極性を評価します。単位認定にはアンケートに必ずお答え下さい。皆勤であれば、誰も80点です。毎分100語で読むとすると、90分授業14回で、12万6千語です。中学高校6年間で読む英文は、熱心な人で10万語程度です。一方英米の小中高生は毎年100万語は読むそうです。記録手帳に語数を記録して10万語を越した分は、1万語の上積につき、1点加算します。TOEICの点数についても考慮します。</p>					
教科書					
参考書					
<p>さよなら英文法！多読が育てる英語力／酒井邦秀:筑摩書房, 2008</p> <p>100万語多読入門／古川昭夫、伊藤晶子:コスモビア, 2005</p> <p>英語候 50のメソッド／上川一秋、ジーナジョージ:三修社, 2007</p> <p>ロングマン ベーシック英英辞典／ロングマン社編集局:桐原書店, 2002</p>					
メッセージ					
<p>やさしい英語の本を訳さないで早く読読訓練はTOEIC創設者の一人、三枝幸夫元早大教授(個人)も薦めておられ、世界の常識です。</p> <p>英語を直読するのに慣れていないと、眠くなります。無意識に訳そうとすると眠くなるのでこんな易しい本と思う本から読んでください。また三コマ目の授業を受けるときは、少し昼ごはんを軽くしたらいいかもしれません。空腹気味だと眠くなりません。</p> <p>語数は、酒井先生、古川氏(SEG代表)らが多読の普及のために作ったSSSと言う団体の協力者が公開している語数です。教材の本に書き込んであります。</p>					
連絡先					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp					

オフィスアワー

授業時間がオフィスアワーです。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500106
開設科目名	人間関係論			単位	1単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	清 俊夫			区分	
授業の概要					
援助者に必要なコミュニケーションと対人関係の持ち方について、心理学、社会学、社会心理学の基礎知識を元に学ぶ。その場合、援助的態度、コミュニケーション技法、コミュニケーションと対人関係の関連性を知ることが大切である。					
授業の一般目標					
援助的コミュニケーションとそのために必要な人間関係のあり方を学び、援助の技法についての基礎的知識を獲得し、援助への構えを形成する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 援助のための人間関係とコミュニケーションについて、その原理と技法の基礎知識を獲得する。					
思考・判断の観点: 援助が必要な人に、どのような援助が必要かを判断できる。					
関心・意欲の観点: 援助の必要性を持った人と適切な関係を作り、コミュニケーションの技法を用いて援助をしようということに積極的な関心を持つ。医療心理学をさらに深く学びたいという関心を持つ。					
態度の観点: 援助の必要性を持つ人に暖かい共感的な構えを身につける。					
技能・表現の観点: 援助が必要な人に、コミュニケーション技法の初歩的な部分を用いて、話をよく聞くことができる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験 50%、小テスト 40%、出席 10%(ただし 2 回以上欠席したものは出席点はない。遅刻は 1 回につき-1 点)。出席を確認してから、断りなく、教室を抜け出したものは、1回であっても、出席点はなくなくなる。					
教科書					
援助者のためのコミュニケーションと対人関係／,諏訪茂樹:建ぱく社, 1997					
参考書					
メッセージ					
心理学、社会学を履修していることが望ましい。遠慮なく、メールで連絡、質問をして欲しい。再試験は行わない。					
連絡先					
e-mail: toshisei@yamaguchi-u.ac.jp office phone: 0836-22-2802					
オフィスアワー					
月曜から金曜まで、8:30-5:00 まで随時(ただし授業、会議等で不在のときを除く)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500201
開設科目名	基礎看護方法論Ⅱ			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	正村 啓子			区分	
授業の概要					
看護実践の基盤となり各看護学に通ずる看護基本技術について、基礎看護学方法論Ⅱでは、診療に関連する看護技術、療養生活の安全確保やリスクマネジメント、及び、看護における教育的なかわりの技術、入院から退院までの看護やターミナルにおける患者の看護について教授する。なお、教育効果を考慮し、「基礎看護学方法論Ⅱ」では講義を実施し、その技術の演習を「基礎看護学方法演習Ⅱ」で行う。従って、「基礎看護学方法論Ⅱ」及び「基礎看護学方法演習Ⅱ」は同時進行する。					
授業の一般目標					
感染予防の技術、治療・処置・検査など診療に関連する看護技術に必要な知識を理解し、療養生活の安全確保やリスクマネジメントなどの安全管理や教育的視点を持ち、患者のおかれている状況と状態に適した看護の技術を創造し提供する基礎的能力を培う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.各単元の学習内容に関する基礎的知識を理解し説明できる。					
思考・判断の観点: 1.技術を行う際の危険因子、及び、安楽・自立・能率を高める因子について説明できる。 2.技術を行う際、行為の意味付けを説明できる。3.患者への影響を観察しながらケアを評価できる。4.教育的視点をもって技術を提供できる。					
関心・意欲の観点: 1.その患者に最も有効な技術となるよう患者への影響を観察しながら工夫する姿勢をもつことができる。					
態度の観点: 1.実際の看護場面を想定し、真摯な態度で臨むことができる。					
技能・表現の観点: 1.患者に有効な技術を提供することができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験(ペーパーテスト)、レポート、授業態度・授業への参加の状況。					
教科書					
ナーシング・グラフィカ 18、基礎看護技術／志自岐康子他:メディカ出版、2007					
参考書					
メッセージ					
単元毎に講義内容の予告をします。その日の授業の内容のテキストの該当箇所を必ず読んでください。					
連絡先					
正村啓子:E-mail masamura@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2860 藤澤怜子:E-mail reiko@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2814 稲垣順子:E-mail jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2851 加瀬田暢子:E-mail nobk@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2815 生田奈美可:E-mail ikuta@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2822					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500202
開設科目名	基礎看護方法演習Ⅱ			単位	2単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	正村 啓子			区分	
授業の概要					
看護実践の基盤となり各看護学に共通する看護基本技術について、基礎看護学方法論Ⅱでは、診療に関連する看護技術、療養生活の安全確保やリスクマネジメント、及び、看護における教育的なかわりの技術、入院から退院までの看護やターミナルにおける患者の看護について教授する。なお、教育効果を考慮し、「基礎看護学方法論Ⅱ」では講義を実施し、その技術の演習を「基礎看護方法演習Ⅱ」で行う。従って、「基礎看護学方法論Ⅱ」及び「基礎看護方法演習Ⅱ」は同時進行する。					
授業の一般目標					
感染予防の技術、治療・処置・検査など診療に関連する看護技術に必要な知識を理解し、療養生活の安全確保やリスクマネジメントなどの安全管理や教育的視点を持ち、患者のおかれている状況と状態に適した看護の技術を創造し提供する基礎的能力を培う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.各単元の学習内容に関する基礎的知識を理解し説明できる。					
思考・判断の観点: 1.技術を行う際の危険因子、及び、安楽・自立・能率を高める因子について説明できる。 2.技術を行う際、行為の意味付けを説明できる。3.患者への影響を観察しながら技術を工夫できる。4.教育的視点をもって技術を提供できる。					
関心・意欲の観点: 1.その患者に最も有効な技術となるよう患者への影響を観察しながら技術を工夫できる。					
態度の観点: 1.実際の看護場面を想定し、真摯な態度で臨むことができる。					
技能・表現の観点: 1.患者に有効な技術を提供することができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験(ペーパーテスト)、レポート、授業態度・授業への参加の状況。					
教科書					
ナーシング・グラフィカ 18、基礎看護技術／志自岐康子他:メディカ出版、2007					
参考書					
メッセージ					
単元毎に講義内容の予告をします。その日の授業の内容のテキストの該当箇所を必ず読んできてください。					
連絡先					
正村啓子:E-mail masamura@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2860 藤澤伶子:E-mail reiko@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2814 稲垣順子:E-mail jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2851 加瀬田暢子:E-mail nobk@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2815 生田奈美可:E-mail ikuta@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2822					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500203
開設科目名	英文多読			単位	1 単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	田中 経彦			区分	
授業の概要					
<p>自分が好きな本を色々読む小学校中学校での朝読書の英語版です。Extensive Reading と言います。多読と言うと義務的に読む感じがしますが、そうではなく色々自由に選んで読書しようというものです。楽しく読めれば結果的にたくさん読めます。その時点で非常に易しく読める英語の本から始め色々な本を読みます。訳さずに英語のまま読んで行きます。今日自分にとって楽しい本を読みます。読みたい本が今読めなければ、易しい本を読んで行くと読めるようになります。電気通信大学の酒井邦秀准教授がまとめた多読三原則「1. 英和辞書を引かない 2. わからなければ飛ばす 3. 進まなければ後回し」に従い、易しい本からたくさん読んでいくうちに2年くらい(毎日30分)すればPaperbacksが読めるようになり、ひいては英語の専門原書を読むのが楽になるはず。専門原書には知識が必要ですが、ただし、卒業に必要な英語の単位にはなりません。帰国子女の方は、読み聞かせ等をしていただけると優遇します。インターネットで利用できる英語ニュース等のサイトも紹介します。気分転換に英語の音楽を聴いても構いません。1時間程度読んだら退出自由です。もともとTOEIC 高得点の人は1時間半読みますが。</p>					
授業の一般目標					
<p>専門書は別ですが、自分にとって面白い本を何ヶ月もかけて訳読しようとする、途中で興味が薄れてしまい止めてしまいかねません。「大草原の小さな家」等の原作を数日で読める自信をつけるのが目標です。</p> <p>訳読にこだわるのは、もうやめましょう。大学院入試、大病院検査部の就職試験に辞書持込で英語の試験が出ることはありますが、直訳ではなく意識をすべしなのです。英語をたくさん読めば分からなかった複雑な文もわかるようになります。</p> <p>英語の本を訳読するとせいぜい毎分80語ですが、毎分100語以上で直読できればTOEICは600以上に相当します。毎日30分でも読んでいけば、誰でもできます。大学を出るまでにこの段階に到達しておけば、英語が楽しくなるはず。大学入学時より英語力が必ず向上します。</p>					
授業の到達目標					
<p>思考・判断の観点: 英語話者の思考方法に興味を持つ</p> <p>関心・意欲の観点: 英語で直接情報を取り込む意欲</p> <p>態度の観点: 英語文化に親しむ。</p> <p>技能・表現の観点: 7割くらいしか分からずともいっから、英文を訳さずできるだけ早く読めるようになること。(TOEIC600点台の人は毎分100語以上だそう。やさしい文章から始めればほとんどの人が毎分100語以上、200語以上の人も珍しくありません。)</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>英語への積極性を評価します。単位認定にはアンケートに必ずお答え下さい。皆勤であれば、誰も80点です。毎分100語で読むとすると、90分授業14回で、12万6千語です。中学高校6年間で読む英文は、熱心な人で10万語程度です。一方英米の小中高生は毎年100万語は読むそうです。記録手帳に語数を記録して10万語を越した分は、1万語の上積につき、1点加算します。TOEICの点数についても考慮します。</p>					
教科書					
参考書					
<p>さよなら英文法！多読が育てる英語力／酒井邦秀：筑摩書房、2008</p> <p>100万語多読入門／古川昭夫、伊藤晶子：コスモピア、2005</p> <p>英語喉 50のメソッド／上川一秋、ジーナジョージ：三修社、2007</p> <p>ロングマン ベーシック英英辞典／ロングマン社編集局：桐原書店、2002</p>					
メッセージ					
<p>やさしい英語の本を訳さないで早く読む訓練はTOEIC創設者の一人、三枝幸夫元早大教授(個人)も薦めておられ、世界の常識です。</p> <p>英語を直読するのに慣れていないと、眠くなります。無意識に訳そうとすると眠くなるのでこんな易しい本と思っ本から読んでください。また三コマ目の授業を受けるときは、少し昼ごはんを軽くしたらいいかもしれません。空腹気味だと眠くなりません。</p> <p>語数は、酒井先生、古川氏(SEG代表)らが多読の普及のために作ったSSSと言う団体の協力者が公開している語数です。教材の本に書き込んであります。</p>					
連絡先					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

授業時間がオフィスアワーです。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500204
開設科目名	英語聴解			単位	1 単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	服部 幸夫			区分	
授業の概要					
英語を実際に自分の口で喋ることにより、speaking および listening の能力の向上を図ります。 具体的には「shadowing」という技法で行います。 週に3回、各30分ずつ行いますが、継続が最も大切です。					
授業の一般目標					
英語を喋り、聴くことにより、異文化との触れ合いを実感する。 英語を喋る「羞恥心」を取り除く					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 言語は「コミュニケーション」のためにあるもので、決して「完璧」に喋る必要のないことを体得する。					
思考・判断の観点: 少しでも喋って、外国人と「コミュニケーション」が出来ると、楽しくなります。それは異文化との接触が心地よいからです。					
関心・意欲の観点: たとえ、自分の英語力がさほどでなくても、実際に自分で話してみると案外通じるものです。「使ってみよう」と心のバリアを越えると、関心と意欲が湧いてきます。					
態度の観点: 自分の文化と異なる異文化には、軽蔑でなく「尊敬」の心で接することにより、相互理解が深まることに気付く					
技能・表現の観点: このトレーニングを重ねればかさねるほど、語彙が豊富になり、より楽しくなることに気付く					
その他の観点: 英語は現在においては国際共通語です。寧ろ、第2の「日本語」と思って接するの如何？					
成績評価方法(総合)					
出席のみです。					
教科書					
NHK ラジオ講座「入門ビジネス英語」(H21 年度毎月発刊、¥380) / John K. Gillespie: 日本放送出版協会					
参考書					
メッセージ					
授業では 10 回程度しか shadowing が出来ませんので、是非残り 20 回ほどを自分で行って下さい。これは「ながら族」で結構です。shadowing はスキットの会話の後追いをすること、つまり、「聴きながら喋って」後追いすることです。遅れたら、中断をして追いついたらまた追いかけて下さい。文字を見ないようにすることがコツです。					
連絡先					
yhattori@yamaguchi-u.ac.jp tel & fax: 0836-22-2807					
オフィスアワー					
授業、会議、その他でオフィスにいないことが多いので、先に連絡(上記)をいただければ、幸いです。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500205
開設科目名	英語読解			単位	1 単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	服部 幸夫			区分	
授業の概要					
<p>月～金の毎朝 8:05-8:35 の 30 分間に、英語で書かれた医学書を読みます。毎日英語に触れることにより、医学の専門英語が身につき、文献を読むのが楽になります。1 文章ずつ、誰かが英語で読んで、別の者がその部分の日本語の訳本を読み上げ、最後に教員が「英語」で解説をつけます。したがって、30 分間の大部分が英語で行われる授業です。内容は国試に関連のあるものを選んで読みます。つまり、医学書の読解、speaking、国試レベル以上の知識習得を知らずのうちに獲得するという欲張った企画です。</p>					
授業の一般目標					
<p>医学英語に慣れる 国試にも関係する医学知識をより深く獲得する 自分の speaking に寄与する</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:「Pathology」(病理学)の本を読んでいます。内容を理解すると同時にそこに使われている医学用語(英単語)に慣れる。(ここで得られた知識は国試にも役立ちます。)</p> <p>思考・判断の観点:授業で浅く習った内容を、もう少し深く学び、より楽しく知識を獲得する</p> <p>関心・意欲の観点:特に3、4年次生、編入生には基礎知識が幾分かあるだけに、一段と楽しめます。</p> <p>態度の観点:単に学習するだけでなく、毎日持続できる「人格」の養成が、最も得るところが大きいかもしれない</p>					
成績評価方法(総合)					
出席のみです。					
教科書					
Essential Pathology／Emanuel Rubin:Lippincott, 2001					
参考書					
メッセージ					
自分との戦いですが、得るものも少なくないプロジェクトです。					
連絡先					
yhattori@yamaguchi-u.ac.jp tel & fax 0836-22-2807					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500206
開設科目名	フィジカルアセスメント			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
看護師の行うフィジカルアセスメントを学ぶ					
授業の一般目標					
フィジカルアセスメントの知識と技術を身につける					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
期末テストと演習中の技術テストによる					
教科書					
やりなおしのフィジカルアセスメント/山勢博彰:メディカ出版, 2008					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500207
開設科目名	保健学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	山崎 秀夫			区分	
授業の概要					
保健医療従事者として必要な公衆衛生的視点を培うため、公衆衛生の学問的特徴、公衆衛生と人口・環境・食・健康問題・保健統計・疾病・疫学等の関わりから、公衆衛生の内容・方法を説明する。					
授業の一般目標					
保健学の基盤となる公衆衛生の理解、人口と公衆衛生、環境と公衆衛生、食と公衆衛生、国民の健康と保健統計、疾病の疫学と予防等について理解し、保健学とは何かを考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 保健学とは何かを、公衆衛生的視点から捉え説明できる。					
2. 人口と公衆衛生について、その動向・関連指標等を整理し説明できる。					
3. 環境と公衆衛生について、生活環境、環境問題等を整理し説明できる。					
4. 食と公衆衛生について、健康づくり、食品保健等の視点から説明できる。					
5. 国民の健康と保健統計について、保健統計の意義・種類、健康指標、傷病統計、社会資源等の観点から説明できる。					
6. 疾病の疫学と予防について、疾病成立条件、具体指標、感染性・非感染性疾患の予防等から整理し説明できる。					
思考・判断の観点: 1. 保健学の存在理由を指摘できる。					
2. 保健学の内容について、公衆衛生的視点から整理できる。					
関心・意欲の観点: 保健学に対する関心を広げ、公衆衛生への問題意識を高めることができる。					
態度の観点: 具体的な公衆衛生問題について主体的に考えることができる。					
成績評価方法(総合)					
授業内容についての理解度を、定期試験により評価する。加えて、授業内で実施するレポート等も加点して総合評価を行う。出席は欠格条件となるので注意すること。					
教科書					
公衆衛生学(新体系看護学全集7 社会保障制度と生活者の健康②)／小野寺伸夫:メヂカルフレンド社, 最新					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500208
開設科目名	医療放射線学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	松永 尚文			区分	
授業の概要					
<p>医療放射線学では、放射線および放射性同位元素の基礎物理学、放射線測定法、放射性同位元素を用いた検査方法、放射性同位元素の安全な取扱い方、および放射性同位元素に関する法規制について概説する。また、放射線診療の歴史、放射線診断技術とその治療的応用、核医学的診断、放射線治療の適応と有効性、放射線の人体に及ぼす影響などについて教授する。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 放射線医学の歴史と発達を理解する。 2) X 線の性質や X 線装置の種類を理解する。 3) 造影剤と造影検査を理解する。 4) 読影診断の成り立ちと各臓器の X 線検査を理解する。 5) CT の原理、適切な施行方法、その意義と臨床的有用性を理解する。 6) 血管造影の利点、手技、主要な血管造影所見、臨床的有用性と合併症およびその対策を理解する。 7) Interventional Radiology の概念、種類、臨床的有用性と限界、合併症とその対策を理解する。 8) MR の原理、実際の実際、臨床的有用性などを理解する。 9) 超音波診断の原理、実際の実際、臨床的有用性などを理解する。 10) 放射線および主な放射性同位元素の種類について説明できる。 11) 各種脳疾患におけるシンチグラフィ所見を理解する。 12) 放射線の測定原理、測定機器、および単位について説明する。 13) 放射線の単位および測定法について説明できる。 14) 放射性同位元素に関する法令について説明できる。 15) ラジオイムノアッセイおよびエンザイムイムノアッセイ法による検体検査について説明できる。 16) 放射線治療に必要な放射線物理学、生物学的基礎、放射線治療の適応、照射技術、放射線治療の副作用を理解する。 17) 放射線治療の適応疾患、その有効性、放射線治療手技、放射線治療の副作用と対策を理解する。 18) 高精度定位放射線治療の適応疾患、放射線治療手技、有効性を理解する。 19) 放射線被曝を定量的に理解する。 20) 被曝低減策、放射線防護、健康管理についても理解する。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験 70%、小テスト・授業内レポート 10%、授業態度・授業への参加度 10%、出席 10%					
教科書					
臨床放射線医学／大澤 忠、他：医学書院、2009 標準放射線医学第 6 版(CD 付)					
参考書					
メッセージ					
臨床放射線医学を教科書とし、教科書に沿って講義をするので、必ず予習、復習してください。					
連絡先					
松永尚文: matsuna@yamaguchi-u.ac.jp、電話 22-2282					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500209
開設科目名	緩和ケア論			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	齊田 菜穂子			区分	
授業の概要					
健康レベルが終末期にある人々とその家族を理解し、終末期患者及び家族のニーズ・健康問題を解決するために必要な考え方、理論及び具体的な方法を学ぶ。また、医療現場で患者や家族を取り巻く倫理的課題や終末期患者及び家族に対する看護者の役割・姿勢、他職者との連携の重要性を学ぶ。					
授業の一般目標					
1.緩和ケア、終末期ケアの概念とその歴史的背景を理解する。 2.終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 3.健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・問題に対して、その人らしさを重視して質の高い生活を送れるような方向で援助する方法を理解する。 4.終末期患者や家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、他者職との連携の重要性を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.緩和ケア・終末期ケアの概念とその歴史的背景を述べることができる。 2.終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴を述べることができる。(進行がんの一般的な病態整理、告知・病状進行・死別による生理的・心理的反応) 3.健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を述べることができる。4.健康レベル低下に伴い生じるニーズ・健康問題を解決するための具体的な方法を述べる ことができる。5.終末期患者の生活の質に関わる要因とその測定方法を述べる ことができる。					
思考・判断の観点: 1.対象の生活・生命の質を維持・向上させるような方向で援助することの意味を述べる ことができる。2.健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題をアセスメントできる。 3.健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を解決するための具体的な方法を選択できる。					
関心・意欲の観点: レポート、グループ討議に際して人間の生と死の意味、生命・人間の尊厳、終末医療現場の現状と課題、終末期患者の生活の質(QOL)に関わる要 因等の情報収集・活用ができる。					
態度の観点: 1.終末期患者や家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、他職者との連携の重要性を述べる ことができる。 2.グループ討議に積極的に参加している。					
技能・表現の観点: グループ討議時の発表、レポートの表現が倫理的である。明快な表現ができる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験:80%、授業レポート:10%、授業態度・グループワーク参加度 10%					
教科書					
系統看護学講座別巻10 緩和ケア /恒藤暁、内布敦子編集:医学書院, 2007					
参考書					
系統看護学講座専門5 成人看護学総論 成人看護学(1)/小松浩子、井上智子他編集:医学書院, 2007 初心者も活用できるがん医療・がん看護/阿蘇品スミ子編集:南山堂, 2002					
メッセージ					
連絡先					
齊田菜穂子:22-2855					
オフィスアワー					
齊田菜穂子:研究室に存否を確認してから訪室してください。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500210
開設科目名	臨床栄養学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	非常勤 講師			区分	
授業の概要					
適切な栄養管理は、患者の生命維持に必須であるばかりでなく、疾病の治療・予防や周手術期の管理を効果的に実施する上で基本となる治療である。また、患者のQOLを向上させる重要な要因である。この講義では病態の改善に食事療法が重要な位置を占める代表的疾患を取り上げ、その概念、病態、診断、治療(食事療法を中心に)の原則について概説する。					
授業の一般目標					
1. 栄養素の種類と機能に関する基礎知識をもとに栄養所要量、栄養法の種類と適応、栄養障害の評価方法、治療方法を理解する。					
2. 腸疾患、肝臓病、腎臓病の病態と栄養サポートに関する知識を習得する。					
3. 生活習慣病の考え方を理解し、肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧の病態と食事療法を中心とした治療法を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 栄養素の種類と機能を列挙できる。					
2. 日本人の食事摂取基準がそのように設定されたか説明できる。					
3. 栄養法の種類と適応を列挙できる。					
4. 栄養障害の評価方法と治療法を説明できる。					
5. 肝臓病・腎臓病の食事療法の基本を説明できる。					
6. 肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧についてその病態と食事療法の意義について説明できる。					
7. 病態に応じて必要なエネルギー量、栄養素の配分を算出できる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験、小テスト・授業内レポート、授業態度・授業への参加度、出席により評価する。					
教科書					
系統看護学講座専門基礎③ 栄養学 人体の構造と機能[3] / 小野章史、杉山みち子、鈴木志保子他: 医学書院					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500211
開設科目名	基礎看護学実習Ⅱ			単位	2単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	正村 啓子			区分	
授業の概要					
本実習においては、実際に一人の患者を受け持ち、総合的に理解し、その人の必要としているニーズを適切に判断し、そのひとを大切に看護することの基盤を学ぶ。医療チームの一員としての自覚を持つとともに自己の看護観を養う。					
授業の一般目標					
健康上の問題を持つ患者と直接かかわり、患者を総合的に理解し、健康問題を解決するための思考過程を明確にしていく。実際に看護過程を展開し、実践した看護から看護活動の理解を深めさせるとともに、ヒューマンケアの基盤的能力を培う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 実習要項参照。					
思考・判断の観点: 実習要項参照。					
関心・意欲の観点: 実習要項参照。					
態度の観点: 実習要項参照。					
技能・表現の観点: 実習要項参照。					
成績評価方法(総合)					
客観評価として、人間関係・看護過程の展開・看護の深まり・態度及びマナー、出席点、記録物やレポートの側面から総合して評価する。看護過程の展開は、情報収集とアセスメント、患者の問題と優先順位、期待される成果と計画立案、実施、経過記録と評価、看護要約の側面から行う。					
教科書					
参考書					
基本から学ぶ看護過程と看護診断／R.アルファロールワイヴァ:医学書院, 2004					
看護診断ハンドブック／新道幸恵監訳:医学書院, 2002					
基礎看護技術／川村佐和子他編:メディカ出版, 2005					
実践的看護マニュアル 共通技術編／川島みどり著:看護の科学社, 2003					
基準値ハンドブック 第二版／巽典之著:南江堂, 2003					
メッセージ					
連絡先					
正村啓子:E-mail masamura@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2860 藤澤怜子:E-mail reiko@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2814 稲垣順子:E-mail jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2851 加瀬田暢子:E-mail nobk@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2815 生田奈美可:E-mail ikuta@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2841 河村敦子:E-mail atsuko@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2839					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500212
開設科目名	成人看護学 I			単位	2 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
既習の基礎看護学および周辺諸科学の知識を基盤として、成人急性期・回復期・周手術期にある対象に看護を提供するために必要な基礎的理論・概念および援助技術について教授する。臨床看護技術の一部を演習する。					
授業の一般目標					
1、急性期、回復期、周手術期にある患者の特徴を理解する 2、急性期、回復期、周手術期の看護問題を解決する方法を学ぶ 3、急性期、回復期、周手術期の臨床看護技術について学ぶ					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験 60%、授業内小テスト 20%、技術テスト 10%、レポート 10%					
出席が 2/3 に満たない場合は、定期試験が受けられない。					
教科書					
周手術期看護1外来／病棟における術前看護／竹内登美子:医歯薬出版					
周手術期看護2術中／術後の生体反応と急性期看護／竹内登美子:医歯薬出版					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500213
開設科目名	成人看護学Ⅱ			単位	2単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	齊田 菜穂子			区分	
授業の概要					
本授業では成人期(青年期、壮年期、中年期)で、病期が慢性期・終末期にある人々を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、看護の対象となる健康問題を明らかにし、その健康問題を解決するための知識、理論、技術を教授する。					
授業の一般目標					
1.成人期に生じやすい健康問題を説明できる。 2.慢性期・終末期看護の特徴及び概要を説明できる。 3.慢性期・終末期病態にある人やその家族を理解し、看護を行っていくために必要な諸理論を理解できる。 4.成人期にある人が、活用可能な医療、保健、福祉サービスを説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.成人期の身体・心理・社会的特徴を説明できる。 2.成人期に生じやすい健康問題を説明できる。3.慢性期・終末期看護の特徴及び概要を説明できる。4.慢性期・終末期病態にある人やその家族を理解し、看護を行っていくために必要な諸理論を理解できる。 5.成人期にある人が、活用可能な医療、保健、福祉サービスを説明できる。					
思考・判断の観点: 1.各系の機能障害をもつ人は、いかなる健康問題及び生活上の困難を抱えるのか説明できる。 2.機能障害をもった慢性期・終末期病態にある成人患者の健康問題を解決するための看護を根拠とともに説明できる。 3.慢性期・終末期看護で求められる看護師の能力について、自らの考えを記述・口述できる。					
関心・意欲の観点: 病を持つ成人患者や家族の体験に関心を持つ。					
態度の観点: 機能障害と健康問題および生活上の困難との関連を理解しようと自己学習する。					
技能・表現の観点: レポートおよびプレゼンテーション課題に対し、Technical termsを適切に用いて、自らの意見・考えを論理的に記述・口述できる。					
成績評価方法(総合)					
レポートおよびプレゼンテーション課題、中間試験、本試験から評価する。					
教科書					
系統看護学講座専門分野 5-12.15(成人看護学 1-8.11):医学書院 放射線治療を受けるがん患者の看護ケア:日本看護協会出版会, 2008					
参考書					
臨床看護学セミナー 1-7.9:メジカルフレンド社, 1997 図解知っておきたい病態生理/西崎統:医学書院, 2002 初心者も活用できるがん医療・がん看護/阿蘇品スミ子:南山堂, 2002					
メッセージ					
機能障害を持つ人の看護については、いずれの講義も、病態整理を含め関連箇所をテキスト・参考書で予習・復習しておく。					
連絡先					
齊田菜穂子:22-2855 正司亜矢子:22-2861					
オフィスアワー					
齊田菜穂子・正司亜矢子:研究室に在否を確認して訪室して下さい。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500215
開設科目名	母性看護学			単位	2 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	田中 満由美			区分	

授業の概要

本授業では、妊娠期、分娩期、産褥期にある女性と新生児期にある乳児、および家族の看護課題と看護援助に必要な基本的知識・技術や各期に起こりうる健康の逸脱と回復にむけての看護援助に必要な基本的知識について教授する。

授業の一般目標

1. 妊産婦および新生児の身体的、心理・社会的特徴および正常な胎児の発育について理解する。
2. 妊産婦および新生児の正常な経過を理解し、母子とその家族が健康を保持増進し、正常からの逸脱を予防するための看護援助方法を習得する。
3. 親と子のきずな、家族関係の基盤づくり、育児、親の成長について考えることができる。
4. 対象の看護援助に必要な看護技術を習得する。
5. 母子の健康状態をアセスメントし、適切な看護援助方法を考えることができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1.生殖に関する形態・機能・生理を述べることができる。

- 2.妊娠の生理を述べることができる。
- 3.妊娠に伴う母体の身体的変化を述べることができる。
- 4.正常な胎児の発育について述べることができる。
- 5.胎児付属物の形態・機能・生理について述べることができる。
- 6.正常妊娠経過を説明できる。
- 7.胎児―胎盤系の生理を理解し、モニタリングの結果を解釈できる。
- 8.主な異常妊娠(流早産、子宮外妊娠、胎状奇胎、妊娠中毒症、多胎妊娠、胎位異常)について概説できる。
- 9.妊娠中の合併症(糖尿病、心疾患、内分泌異常、自己免疫性疾患、血液疾患、感染症)について概説できる。
- 10.妊娠期の心理的特徴を述べることができる。
- 11.妊娠各期の日常生活適応に対する援助方法を述べることができる。
- 12.妊娠中のマイナートラブルへの対処方法を述べることができる。
- 13.母親役割獲得にむけての援助方法を述べることができる。
- 14.正常からの逸脱予防の援助方法および逸脱時の回復にむけての援助方法を説明できる。(妊娠悪阻、妊娠中毒症、妊娠貧血、切迫流・早産、出血、胎位異常、)
- 15.正常分娩経過を述べることができる。
- 16.主な異常分娩(遷延分娩、回旋異常、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、弛緩出血、分娩損傷)について概説できる。
- 17.産科手術、産科救急について概説できる。
- 18.分娩にむけての援助方法を述べることができる。
- 19.分娩期の安全・安楽にむけての援助方法を述べることができる。
- 20.産科合併症を有する産婦に対する援助方法を述べることができる。(前期破水、軟産道裂傷、産科出血、陣痛異常、胎盤異常)
- 21.帝王切開術時の援助方法を述べることができる。
- 22.正常産褥経過を述べることができる。
- 23.主な異常産褥(復古不全、産褥熱、乳腺炎)について概説できる。
- 24.産褥期の退行性変化を促進させるための援助方法を述べることができる。
- 25.母乳栄養の確立にむけての援助方法を述べることができる。
- 26.母子(親子)相互作用の確立にむけての援助方法を述べることができる。
- 27.母親の育児技術習得にむけての援助方法を述べることができる。
- 28.産褥期における健康の逸脱からの回復にむけての援助方法を述べることができる。
- 29.家族関係の調整、社会的資源の活用方法についての援助方法を述べることができる。
- 30.新生児の生理的特徴を述べることができる。
- 31.新生児期特有の生理的变化について述べることができる。
- 32.異常新生児(新生児仮死、分娩外傷)について概説できる。
- 33.新生児の胎外生活適応促進にむけての援助方法を述べることができる。

34.健康から逸脱した新生児の回復にむけての援助方法を説明できる。

35.ハイリスク新生児に対する基本的な援助方法を述べることができる。

思考・判断の観点:1.妊娠各期における妊婦の正常な母体の変化と順調な胎児の発育がアセスメントできる。

2.妊娠各期における妊婦の日常生活適応とセルフケア能力をアセスメントできる。

3.FHRモニタリングの結果を分析・解釈し、母体―胎児間の状態をアセスメントすることができる。

4.分娩の順調な進行と産婦のセルフケア能力をアセスメントすることができる。

5.産褥期の退行性変化および進行性変化の経過をアセスメントできる。

6.産褥期における産婦のセルフケア能力をアセスメントできる。

7.母子(父子)相互作用、母親の養育・育児能力をアセスメントできる。

8.新生児の胎外生活適応の状態をアセスメントできる。

関心・意欲の観点:1.演習項目における技術能力を自己評価し、不足部分は自己学習によって能力を向上できる。

2.妊婦の生活適応に対して日常生活の中で関心を高める。

態度の観点:1.演習は欠席および遅刻をせず、積極的な態度で参加する。

2.日常生活の中で妊産婦や新生児にかかわる出来事や問題点について主体的に考えることができる。

技能・表現の観点:1.妊婦健康診査に必要な技術を実践できる。

1-1.腹囲、子宮底が正しく測定できる。

1-2.浮腫の程度が判断できる。

1-3.尿検査項目を正しく判定できる。

1-4.胎児心拍が聴取できる。

1-5.FHRモニタリングが正しく装着できる。

1-6.レオポルト診断法が実践できる。

2.分娩時の産痛緩和法を実践できる。

2-1.呼吸法・補助動作を分娩進行状態に応じて実践できる。

2-2.弛緩法、マッサージ法、圧迫法を実践できる。

3.悪露交換ができる。

3-1.外陰部、悪露の観察項目を適切に述べることができる。

3-1.外陰部の洗浄を正しく実践できる。

4.産褥体操を実践できる。

5.乳房ケアを実践できる。

5-1.乳頭マッサージ、乳管開通法を実践できる。

5-2.SMC式乳房マッサージを正しく実践できる。

6.新生児の看護に必要な技術ができる。

6-1.全身状態の観察を正しく実践できる。

6-2.新生児を正しく抱くことができる。

6-3.新生児の衣服の着脱ができる。

6-4.新生児のおむつ交換ができる。

6-5.新生児の沐浴ができる。

成績評価方法(総合)

出席は欠格条件である。出席が3分の2以上でないとき期末試験を受けることができない。期末試験100%、授業外レポートは定期テストの評価には加えないが、再試受験をした時の評価には考慮する。演習の沐浴技術チェックはテストの評価には加えないが、沐浴技術チェックで合格点に達しない場合は母性看護学実習で沐浴までできない。

教科書

系統看護学講座 専門25 母性看護学各論2/森恵美他:医学書院,2008

病気がみえる vol.10/医療情報科学研究所:MEDIC MEDIA,2007

参考書

看護のための最新医学講座[第2版]第15巻産科疾患/日野原重明監修:中山書店,2005

メッセージ

教科書は全員必ず購入すること

連絡先

田中満由美:22-2821、E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp

戸部郁代:22-2825

田中奈美:22-2840

亀崎明子:22-2829

山元公美子:22-2819

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500216
開設科目名	リハビリテーション学			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	野垣 宏			区分	
授業の概要					
障害を持つ人が、一般社会の中で自立した生活を営むことができるように援助するために、医療従事者の連携のあり方や、看護師の立場でのリハビリテーション活動について教授する。					
授業の一般目標					
リハビリテーションの理念や目的、健康障害をもつ人の機能回復について理解し、リハビリテーションチームアプローチの特徴と看護師の役割や機能について考える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: リハビリテーションの理念や目的、健康障害をもつ人の機能回復について説明できる。					
思考・判断の観点: リハビリテーションチームアプローチの特徴と看護師の役割や機能について指摘できる。					
成績評価方法(総合)					
学期末試験で評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
nogaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500301
開設科目名	看護研究概論			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	正村 啓子			区分	
授業の概要					
看護における研究の意義、看護研究の課題、研究過程と方法について概説する。更に研究過程における文献検索の方法、看護に関連する研究論文の検討と活用、研究計画等の演習を行う。					
授業の一般目標					
看護研究における基礎を理解し、興味を持って看護問題を研究的に取り組む姿勢を培うとともに、看護研究における自己の興味を探る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1)学問とは・研究とは・科学とはについて、その関連をおさえて説明できる。 2)「看護研究とは何か」を説明できる。 3)研究のプロセス、文献検索・検討、研究デザイン、研究計画書についての基本事項について説明できる。 4)看護研究における倫理について説明できる。					
思考・判断の観点: 1)代表的な研究デザインを用いた研究論文を読み比較検討し、その特徴を説明できる。					
関心・意欲の観点: 1)自己の興味ある研究テーマを探り、関連する文献を読み、研究計画書の作成を試みる。					
態度の観点: 1)看護研究の基礎的知識の学習、自己の研究テーマの設定、研究計画書作成に主体的に取り組むことができる。					
技能・表現の観点: 1)Small Group Learning(S.G.L)における、学習成果を効果的に Presentation することができる。 2)研究計画書をわかりやすく表現できる。					
成績評価方法(総合)					
筆記試験は実施せず、研究計画書、レポート、プレゼンテーション等を評価の対象とする。					
教科書					
看護学大系 10「看護における研究」／井上幸子:日本看護協会出版会, 2008					
参考書					
看護研究 原理と方法／D.F.ポーリット, B.P.ハングレー:医学書院, 1994					
メッセージ					
連絡先					
正村啓子 masamura@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2860 研究室:医学部保健学科第一研究棟 4 階 403,辻野久美子 tsujino@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2806 研究室:医学部保健学科第一研究棟 2 階 201					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500302
開設科目名	救急看護学			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
緊急に対応を迫られる救急医療の概要と救急医療システムを解説し、救急状況にある患者とその家族の総合的理解と医療職者の医療および看護活動について、必要な知識と方法を教授する。また、救急医療で遭遇する事の多い疾患・外傷等について解説する。					
授業の一般目標					
1、救急医療の概要と救急医療システムを理解できる。2、救急状況にある患者とその家族の総合的理解と医療職者の医療および看護活動(災害医療を含む)について理解できる。3、救急医療で遭遇する事の多い疾患・外傷などの病態とケアについて理解できる。4、基本となる救命技術を身に付ける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1、救急医療の概要と救急医療システムについて説明できる。2、救急状況にある患者とその家族について説明できる。3、救急医療にかかわる医療職者および看護活動(災害医療を含む)について説明できる。4、救急医療で遭遇する事の多い疾患・外傷などの病態とケアについて説明できる。5、心肺蘇生法について説明できる。					
思考・判断の観点: 1、救急患者のアセスメント能力を高めることができる。2、救急医療に関する諸問題を考えることができる。					
関心・意欲の観点: 1、救急医療の理解を通して、救命への関心を高めることができる。					
技能・表現の観点: 心肺蘇生法を実施することができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験、レポート、出席状況					
教科書					
系統看護学:救急看護学/山勢博彰:医学書院, 2006					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500303
開設科目名	小児看護学			単位	2単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	辻野 久美子			区分	
授業の概要					
<p>小児は成長・発達の途上にありやがて成人するが、小児は幼なれば幼い程、誰かに世話をされなければ生きていけない。小児看護は出生前期から学童・思春期頃までの小児とその家族を対象とし、健康・不健康を問わず広く小児を理解し、小児の健康に関するあらゆる問題に対応する。</p> <p>ここでは小児期各期の特性、小児の成長発達促進および健康の保持・増進・回復を支援するために必要な、小児看護の知識と技術について教示する。さらに疾病や障害、入院が、小児とその家族に及ぼす影響について概説し、子どもを看護するときの看護職者の態度や心構え、ケアの工夫等について共に考える。授業は出来るだけ小児疾病学の学習内容に対応させながら進める。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1) 小児看護の理念と目的、役割を理解する。</p> <p>(2) 健康な小児の成長・発達を理解する。</p> <p>(3) 小児期各期の特徴と生活について学び、小児に必要な生活の援助技術を習得する。</p> <p>(4) 小児に特有な疾患や症状・障害の看護について、知識と技術を習得する。</p> <p>(5) 小児とその家族への適切な看護ケア・支援について、考察する。</p>					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 子どもの心身の未熟性(やがて成熟する!)を理解できる。					
子どもの成長・発達について理解できる。					
小児期各期の特徴と生活について理解できる。					
子どもに特有な疾患や症状・障害の看護について理解できる。					
思考・判断の観点: 疾病や障害、入院が、子どもとその家族に及ぼす影響について考察できる。					
子どもとその家族への適切な看護ケア・支援について、考察できる。					
子どもを看護するときの看護職者の態度や心構えについて考察できる。					
子どもに特有な疾患や症状・障害について、適切な判断ができる。					
関心・意欲の観点: 子どもの誕生から成人するまでのプロセスに、関心を持つことができる。					
その過程で求められる看護職者の役割を考えることができる。					
態度の観点: 子どもに関心を持ち、子どもの視点や気持ち・行動を理解しようと努力する。					
子どもの看護に必要な知識と技術の習得を目指して、努力する。					
技能・表現の観点: 設定された演習の知識と技術を習得できる。					
その他の観点: グループワークを通して自分自身と仲間を知り、共同作業の成果と喜びを経験することができる。					
成績評価方法(総合)					
試験、レポート、出席率などによる(単位認定の最低条件:総授業数の2/3以上の出席およびレポート提出)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>子どもは宇宙人?あなたにも私にも子ども時代があったのに...</p> <p>この機会に子どもについて共に学びましょう!!</p>					
連絡先					
辻野久美子 tsujino@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2806) 村上京子 k.mura@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2820)					
沓脱小枝子 saeko@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2847) に連絡してください。					
オフィスアワー					
辻野久美子 tsujino@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2806) 村上京子 k.mura@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2820)					
沓脱小枝子 saeko@yamaguchi-u.ac.jp (0836-22-2847) に連絡してください。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500304
開設科目名	助産学			単位	2単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	田中 満由美			区分	
授業の概要					
<p>(1) 産学における基本的概念、基盤となる理論、助産師の責務と役割について教授する。</p> <p>(2) 助産業務の展開に必要な性・生殖系の仕組みについて教授する。</p> <p>(3) ライフサイクルおよびマタニティサイクルにおける母性・父性の心理について教授する。</p> <p>(4) 助産実践に必要な文化的要因、家族および家族関係について教授する。</p> <p>(5) 助産所の運営および助産業務の管理に必要な法律及び知識について概説する。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1) 助産学における基本的概念、基盤となる理論、助産師の責務と役割について理解する。</p> <p>(2) 助産業務の展開に必要な性・生殖系の仕組みを理解する。</p> <p>(3) ライフサイクルおよびマタニティサイクルにおける母性・父性の心理について理解する。</p> <p>(4) 助産実践に必要な文化的要因、家族および家族関係について理解する。</p> <p>(5) 助産所の運営および助産業務の管理に必要な基本的能力を身につける。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: (1)助産学における基本的概念、基盤となる理論、助産師の責務と役割について説明できる。</p> <p>(2)助産業務の展開に必要な性・生殖系の仕組みについて説明できる。</p> <p>(3)ライフサイクルおよびマタニティサイクルにおける母性・父性の心理について説明できる。</p> <p>(4)助産実践に必要な文化的要因、家族および家族関係について説明できる。</p> <p>(5)助産所の運営および助産業務の管理に必要な基本的法律の条文について説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 物事をクリティカルに考えることができ、エビデンスに基づき判断できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 看護に必要な社会の情勢に関する新しい情報を得ることができる。</p> <p>態度の観点: 専門職としての責任、役割を認識し、キャリア形成の基盤をつくることができる。</p> <p>専門職としての職業アイデンティティの形成ができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
出席は必須。期末テスト(80%)とレポート(20%)にて評価。					
教科書					
助産学講座 1～10/我部山キヨ子:医学書院					
母性の心理社会的側面と看護ケア/新道幸恵:医学書院, 2001					
参考書					
メッセージ					
助産コースを選択した人のみ履修可能。毎回プリントを配布します。					
連絡先					
田中満由美:22-2821、E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp					
戸部郁代:22-2825					
田中奈美:22-2840					
亀崎明子:22-2829					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500305
開設科目名	助産診断技術学			単位	3単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	田中 満由美			区分	
授業の概要					
助産師として必要な診断学と基本的な助産技術(分娩介助、乳房マッサージ、助産計画、モニター半読、保健指導の技術、異常時における第一次救急医療への対応技術、新生児蘇生術、異常分娩介補、避妊法の指導)を講義と演習にて教授する。					
授業の一般目標					
(1)助産師が行う妊産婦、褥婦、新生児の助産診断を行う上で、その基礎となる診断能力を習得する。 (2)助産の実践に必要な基本的技術が習得できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: (1)妊娠の診断に必要な項目が説明できる。 (2)正常な分娩の原理・経過が説明できる。 (3)分娩経過の予測が説明できる。 (4)分娩時間の予測が説明できる。 (3)正常な産褥の経過が説明できる。 (4)正常な新生児の経過が説明できる。					
思考・判断の観点: 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象の助産診断ができる。					
関心・意欲の観点: 助産診断・助産技術に関心を持ち、他者とディスカッションする。 助産診断・助産技術に関心を持ち、関連文献に興味を持つ。 積極的に課題に取り組む。					
態度の観点: 積極的に分娩介助術の練習、乳房マッサージの練習、骨盤位率出術の練習を行う。					
技能・表現の観点: 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象の助産診断ができる。対象にあった助産過程の展開ができる。分娩介助ができる。骨盤位率出術ができる。異常分娩の介補ができる。乳房マッサージができる。乳房自己マッサージの指導ができる。健康教育(母親学級・家庭訪問)の企画運営ができる。避妊法の指導ができる。新生児蘇生ができる。					
成績評価方法(総合)					
期末テスト(50%)、小テスト(10%)、宿題・レポート(10%)、授業態度・参加度(5%)、プレゼン(5%)、演習・技術チェック(20%)。出席は欠格条件					
教科書					
助産学講座 1～10 / 我部山キヨ子: 医学書院 今日の助産 / 北川真理子: 南江堂, 2004					
参考書					
メッセージ					
助産師コース選択の学生のみ受講可能					
連絡先					
田中満由美:22-2821、E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp 戸部郁代:22-2825 田中奈美:22-2840 亀崎明子:22-2829 山元公美子:22-2819					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500306
開設科目名	周産期看護学			単位	2単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	田中 満由美			区分	
授業の概要					
(1)妊娠、分娩、産褥及び乳汁分泌、胎児、胎児付属物の異常、及び治療について教授する(医師担当分)。 (2)妊娠、分娩、産褥期の対象者のセルフケア能力とケア及び新生児・乳幼児のケアについて教授する(看護教員担当分)。					
授業の一般目標					
(1)周産期医療現場における必須の知識を高め、異常に対する診断及び治療方法を理する。 (2)助産の実践に必要な基本的ケアの習得をする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: (1)周産期の疾患について定義・臨床症状・病態生理・診断・治療の説明ができる。 (2)妊娠、分娩、産褥期の対象者のセルフケア能力とケア及び新生児・乳児のケアについて説明できる。					
思考・判断の観点: (1)妊産褥婦及び新生児、乳児の状態について、正常と異常疾患の判断ができる。 (2)妊産褥婦及び新生児、乳児の状態についてアセスメントすることができる。(助産コースの方は対象に対して、助産診断ができる。)					
関心・意欲の観点: 妊産褥婦並びに新生児看護に関心を持ち、他者と討議する。					
技能・表現の観点: 助産コースの方は、対象に対して、助産診断ができる。 助産コースの方は、対象に対して、保健指導ができる。 助産コース以外の方は、対象に対して、看護診断ができる。					
成績評価方法(総合)					
出席は必須。期末テスト(80%)、レポート(20%)					
教科書					
看護のための最新医学講座[第2版]第15巻産科疾患/日野原重明監修:中山書店, 2005 助産学講座 1～10/我部山キヨ子:医学書院					
参考書					
メッセージ					
毎回プリント配布 1, 1～12 と 13～27 が同時進行であるため、講義日及び曜日に注意すること。助産師コースを選択している人は必修。					
連絡先					
田中満由美:22-2821、E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp 戸部郁代:22-2825					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500307
開設科目名	在宅看護学			単位	2単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	堤 雅恵			区分	
授業の概要					
在宅看護は、疾患や障害をもちながら居宅で暮らすことを望む人々に対し、本人および家族の健康レベルが保たれ、QOL が維持・向上するために行う看護活動である。この科目では、在宅看護の歴史、社会における在宅看護へのニーズ、在宅看護のありかたや具体的方法について学ぶ。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護が必要とされる社会的背景を理解する。 2. 在宅看護において訪問看護師が果たす役割について理解する。 3. 在宅療養者とその家族の特性に応じた看護のありかたと一般的方法について理解する。 4. 在宅療養者とその家族に対し、その人らしい生活の実現を支援する看護のありかたと具体的方法について考える。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 在宅看護を必要とする社会的背景、在宅看護の目的と機能、看護者の役割について説明できる。					
2. 在宅療養を支援する保健・医療・福祉システムの目的・機能について、また、それらが個々の在宅療養者に対してどのように機能しているかを例をあげて述べることができる。					
思考・判断の観点: 1. 在宅療養者の健康上の課題および適切な対処方法について考えることができる。					
2. 在宅療養者とその家族に対し、その人らしい生活の実現を支援する看護のありかたと具体的方法について考えることができる。					
関心・意欲の観点: 1. 在宅看護に関連する情報を意欲的に収集することができる。					
2. 在宅看護における課題について学生間で、もしくは教員をまじえてディスカッションするなどの行動がみられる。					
態度の観点: 1. 出席状況が良好である。					
2. 熱意をもって講義を聴くとともに、演習において積極的な発言がみられるなど、意欲的な態度が認められる。					
技能・表現の観点: 1. エビデンスに基づいて判断したことを、発言・レポート等で表現できる。					
2. 演習では、適切な判断に基づき、安全・安楽な技術を行うことができる。					
3. 在宅看護を行うにあたって、対象者に応じた看護の工夫ができる。					
成績評価方法(総合)					
【全体】定期試験、演習、グループワークの経過・発表内容・取り組みなどを総合的に評価する。授業への出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験資格を失う。					
【観点別】知識・技術・態度の観点から総合的に評価する。					
教科書					
ナーシング・グラフィカ21 地域療養を支えるケア／櫻井尚子ほか 編:メディカ出版, 2007					
参考書					
メッセージ					
在宅看護を行うには、対象者の理解とともに、自分自身の生活体験を多くしておくことが大切です。看護者である前に、よき生活者となりましょう。					
連絡先					
堤雅恵 22-2818、tututmi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
木曜日 13:00～15:40(後期)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500308
開設科目名	地域看護活動論			単位	2 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	守田 孝恵			区分	
授業の概要					
地域保健活動の活動方法について解説する。また、地域保健における健康教育について講義と演習を行う。					
授業の一般目標					
1.地域で生活している看護の対象を理解する。					
2.地域を対象とした保健活動の展開を理解する。					
3.地域保健活動に用いられる基本的な方法論を理解する。					
4.地域特性に応じた健康教育を実施できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 地域看護活動の方法を理解できる。					
思考・判断の観点: 地域看護の展開を健康教育の演習で考える					
関心・意欲の観点: 主体的に演習に取り組む					
態度の観点: 主体的に学習に取り組む					
技能・表現の観点: 地域看護の方法について適格に説明できる。 健康教育を実施できる。					
成績評価方法(総合)					
講義やグループ演習への参加態度、演習、試験、出席状況により判定する。					
教科書					
地域看護学.jp / 荒賀直子: インターメディカル, 最新版					
保健師国家試験問題集 / 医学書院看護出版部: 医学書院, 2009					
TACS シリーズ 10 地域看護学 / 中西睦子: 建帛社, 2003					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500309
開設科目名	疫学・保健統計学			単位	2単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	山崎 秀夫			区分	
授業の概要					
疫学は、人間集団の健康事象に関する学問であり「原因追究の科学」といわれる。看護学領域で扱われる健康問題について、科学的な問題解明の手続き・方法を説明する。保健統計学では、「統計を知る」(統計理論等に基づく統計学的理解)と「統計を読む」(看護学領域に関わる健康問題の解釈学的理解)の両側面から、健康事象の本質を科学的に探る手法等を説明する。					
授業の一般目標					
1. 疫学概念、疾病頻度・曝露効果指標、疫学調査法、集団検診、感染症、主要疾患等について理解し、疫学とは何かを考察する。 2. 保健統計学について、統計学の基礎・人口統計・保健統計調査・情報処理等の内容から理解し、保健統計学とは何かを考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 疫学とは何かを、語源・キーワード・アプローチ・人間集団・健康事象等を踏まえながら説明できる。 2. 疾病頻度・曝露効果の指標について、その意味することを比・率・割合を区別しながら説明できる。 3. 疫学調査法について、種類・特徴等を説明できる。 4. 集団検診の原理と方法をスクリーニングの視点から説明できる。 5. 感染症・主要疾患の疫学について、発症条件・予防対策等の観点から説明できる。 6. 統計学の基礎について、理論・方法を説明できる。 7. 人口統計について、健康指標を通して説明できる。 8. 保健統計調査の実際を説明できる。					
思考・判断の観点: 1. 疫学の存在理由を指摘できる。 2. 「統計を知る」と「統計を読む」ことの違いを識別できる。					
関心・意欲の観点: 疫学・保健統計学に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。					
態度の観点: 具体的な健康問題について主体的に考えることができる。					
成績評価方法(総合)					
授業内容についての理解度を、定期試験により評価する。加えて、授業内で実施するレポート等も加算して総合評価を行う。出席は欠格条件となるので注意すること。					
教科書					
疫学／保健統計／丸井英二:メヂカルフレンド社, 最新					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500310
開設科目名	保健福祉行政論			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	檀原 三七子			区分	
授業の概要					
保健・医療・福祉制度の概要とこれらの根幹をなしている財政制度と世界の公衆衛生について論じ、保健医療福祉行政の発展過程、保健医療福祉の各制度について詳述しながら、保健師活動と制度の活用を事例的に扱う。保健福祉行政計画の基本的考え方、計画策定過程、計画推進と評価等について論及する。					
授業の一般目標					
1. 保健福祉行政論の歴史の変遷を理解する。 2. 保健福祉行政論の理念と制度・仕組みを理解することができる。 3. 地方公共団体の保健医療福祉計画と評価を理解することができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 保健医療福祉行政の施策と中心となる法規の概要を説明できる。 2. 国、都道府県、市区町村の行政の仕組みと役割が説明できる。 3. 一般衛生行政として保健所、市町村保健センターの機能が説明できる。					
思考・判断の観点: 1. 保健医療福祉行政における医療職としての役割が考えられる。 2. 保健医療福祉行政における今日的課題を指摘できる。					
関心・意欲の観点: 1. 保健医療福祉行政が医療従事者として学習する意義を具体的に述べる。 2. 保健医療福祉行政がめざしていることを具体的に述べる。					
成績評価方法(総合)					
(1) 授業の中で学んだことを 200 字以内で作成し、提出する。 (2) 授業の中で小テストを複数回行う。 (2) 試験を期末の1回実施する。以上を総合して評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。					
教科書					
保健医療福祉行政論／藤内修二 他:医学書院, 2008 平成 21 年版 実務衛生行政六法:新日本法規, 2009 国民衛生の動向:財団法人厚生統計協会, 2009					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500311
開設科目名	家族看護学			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	高橋 郁子			区分	
授業の概要					
家族を理解するために必要な家族の概念や諸理論・アセスメントモデルについて講義する。					
授業の一般目標					
1.家族の概念を理解できる。					
2.家族看護の諸理論やモデルを理解できる。					
3.家族看護過程の展開を理解できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 家族とは何か、家族への援助について説明できる。					
思考・判断の観点: 家族看護過程のアセスメントが適切にできる。					
関心・意欲の観点: 積極的に学習に取り組み、自分の意見を述べられる。					
態度の観点: 主体的に講義、演習に参加する。					
技能・表現の観点: 家族看護の実践方法がわかる。					
成績評価方法(総合)					
課題レポート(50%)授業内レポート(40%)、出席・授業態度(10%)					
教科書					
家族看護学 理論と実践／鈴木和子、渡辺裕子:日本看護協会出版会、2006					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
216 研究室 内線 2852					
オフィスアワー					
要アポイントメント					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500312
開設科目名	産業看護学			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	守田 孝恵			区分	
授業の概要					
産業(職種)における看護活動の基本、職場環境・労働内容と労働者の健康度との関係、健康学習、健康相談の特性・方法・評価及び産業看護の役割について教授する。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 労働の意味、労働負荷と職業性疾患、労働衛生管理の基礎について学習する。 2. 産業保健の変遷と産業看護の役割の変遷、歴史について概観する。 3. 働く人々の健康管理についての基礎的な知識を得る。 4. 産業看護職の役割、職務、活動の実際について学習する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 産業保健の基礎知識を習得し産業看護職の役割を理解する。					
思考・判断の観点: 労働者の健康状態について、労働環境を含めたアセスメントができる					
関心・意欲の観点: 授業内容を予習し積極的な姿勢で授業にのぞむ。与えられた課題を期限内に達成できる。					
成績評価方法(総合)					
出席、レポート、テスト					
教科書					
産業保健産業看護論/河野啓子: 日本看護協会出版会, 最新版 労働衛生のしおり: 中央労働災害防止協会, 2009					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500401
開設科目名	医療システム概論			単位	1 単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	清水 昭彦			区分	
授業の概要					
医療情報に関する知識と医療統計学を学ぶ					
授業の一般目標					
医療情報に関する知識と医療統計学を学び理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 医療情報に関する知識と医療統計学を理解する。					
思考・判断の観点: 医療情報に関する知識と医療統計学を思考し、使いこなせる。					
関心・意欲の観点: 医療情報に関する知識と医療統計学に関心・意欲を持つ					
態度の観点: 医療情報に関する知識と医療統計学を学ぼうする態度を身につける。					
技能・表現の観点: 医療情報を利用して、医療統計学を使いこなす機能を身につけそれをみんなに説明できる。					
成績評価方法(総合)					
レポートと統計学の筆記テスト					
教科書					
参考書					
系統看護学講座: 医学書院, 2008					
メッセージ					
ハードウェア、基本ソフトウェア、応用ソフトウェア、ネットワーク、情報システム					
連絡先					
清水研究室 EX 2856、 E-mail: ashimizu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500402
開設科目名	看護管理学			単位	1 単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	藤澤 怜子			区分	
授業の概要					
看護管理は、看護の機能を効果的に発揮できるように、看護職個人ではなく組織を確立し、運営を適切にしていく管理技法であり、看護の対象である人間が基盤にある。管理的立場にないものにとっても、看護管理の基礎を理解することは、看護の効果をあげるのに役立つものである。本授業では、保健医療システムとそ の中での看護管理の位置づけ、看護管理の基礎となる理論や基礎知識、看護制度や法的問題、病院看護管理の実際について解説する。					
授業の一般目標					
1.看護管理の基礎となる理論を理解する。 2.看護管理のプロセスを学び、看護ケアの提供者として必要な看護の提供システムを理解する。 3.人材育成の制度や実際に学び、将来看護職となる者として自己能力を向上させる必要性を理解する。 4.看護職が行政や政策にどのように関わっていくかを学び、看護職の社会性の向上や社会システムとして看護をとらえる視点を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.看護管理の基礎となる理論をあげることができる。 2.看護管理のプロセスが説明できる。 3.日本の看護制度・行政について説明できる。					
思考・判断の観点: 1.看護をとりまく環境の変化を指摘できる。 2.看護職員の能力を発揮できるような組織・運営について自分の意見を述べるができる。 3.看護専門職としての責務について述べるができる					
関心・意欲の観点: 1.看護管理に関する課題に関心を持つ。 2.看護職の社会性の向上や社会システムとして看護をとらえる視点を養う。 3.看護の専門職として自己能力を向上させる必要性に気づく。					
成績評価方法(総合)					
定期試験を実施する。評価割合は定期試験 80%、授業への参加度 20%とするが、出席は欠格条件とし、出席が 2/3 以上に満たない者には単位を与えない。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
看護管理に興味がある学生さんは履修して下さい					
連絡先					
研究室:22-2814 reiko@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水、金 17 時～ 電話で在室を確認して下さい					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500403
開設科目名	看護教育学			単位	1単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	藤澤 怜子			区分	
授業の概要					
看護教育の歴史と看護師養成教育の変遷、看護教育の現状を学習し、そこから問題点や今後の課題を考える。また、カリキュラムの構成、授業展開、教育評価の基礎を学び、自分が受けた教育について確認し、キャリア発達に関連する看護継続教育の必要性を理解する。					
授業の一般目標					
看護教育の歴史と看護師養成教育の変遷を法的基盤、制度を学習することで、看護教育の現状と今後の課題を理解する。また、現行の看護教育制度から、自分が受けた教育について確認し、キャリア発達に関連する看護継続教育の必要性を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 日本における看護教育制度の変遷について説明できる。 2. 現行の看護教育制度と社会が看護職に求める能力との関係が説明できる。 3. キャリア発達に関連する看護継続教育の必要性を述べることが出来る。					
思考・判断の観点: 1. 課題についてのグループ討議で自分の意見を伝えることが出来る。					
関心・意欲の観点: 1. 課題についての事前学習を行い、積極的なグループ討議への参加ができる。 2. 教員との質疑応答の時間を積極的に活用できる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験 80%と課題レポート他 20%で評価する。2/3以上の授業への出席を欠格条件とする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
連絡先:22-2814 reiko@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水～金 17 時以降 在室を確認後訪問して下さい。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500404
開設科目名	看護経済学			単位	1 単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	非常勤 講師			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500405
開設科目名	国際看護学			単位	1 単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	TURALE SUSAN			区分	
授業の概要					
This subject consists of seven classes held in the Research and Education building. They are 90 minutes each.					
授業の一般目標					
The goal of this subject is to enable Japanese students of nursing to learn about international nursing. This is help to improve nursing practice and the health of people through better understanding of the international community of nursing and health care, and its implications for Japanese nursing.					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: Provide a definition of international nursing, its purposes and challenges as globalization increases its effects					
Demonstrate an understanding of selected international nursing and health organizations, their structures and goals including Japan's nursing structure, organization, education and issues in the context of a global workplace					
思考・判断の観点: Critically analyze specific international nursing issues such as the global shortage of registered nurses; the education and training of nurses to ensure a competent workforce; and the development of nursing standards and competencies					
態度の観点: Demonstrate a willingness to learn by actively participating in seminars, directed readings, internet searches, classroom discussion and group work					
技能・表現の観点: Demonstrate new knowledge and critical thinking skills by passing brief papers, and a final examination					
成績評価方法(総合)					
ASSESSMENT					
Final gradings will be assessed by one individual and one group assignment.					
Gradings: S: 90-100%; A: 80-89%, B: 70-79%, C: 60-69%, and D: Fail Grade Below 60%					
If you fail either of your assignments the decision to give a compensatory rewrite of any assignments rests with the Professor taking the subject. It is not automatic that this is given. You must pass both your assignments to pass International nursing.					
Assignment 1 (40 marks):					
Working with another person, make a poster about a topic that is related to international nursing practice. Choose from: The effects on nursing practice of technology: socio-economic; political influences; ageing; AIDS; or multi-cultural populations of a country					
1. Your poster must contain words describing the main points about the issue, and some pictures/design to make it interesting.					
2. You have 5 minutes to present your poster.					
3. You must also hand in one double space page about your poster and give at least 5 different references from journals or reliable sites on the internet.					
Assignment 2 International Perspectives on nursing or education INDIVIDUAL work (60 marks)					
Do some research on the internet and in journal articles. Write your assignment and present it to the class on a powerpoint presentation					
1. Choose a country (not Japan). All students must do a powerpoint presentation on a different country.					
2. Please include					
a. A map of the country					
b. The most accurate number of registered nurses, registered midwives and any other types of nurses that are regulated (like LPNs Licensed Practical Nurses)? find the most up to date information.					
c. Draw a diagram to show the different ways a nurse can be educated in that country so that they can become a registered nurse (eg nursing school, college, university, hospital course, etc. and the level of education for registration, eg. Certificate, diploma, degree)					
d. Give Information about registered nurse practicing certificate in that country: Are there practicing certificates? How often does it have to be renewed?					

What are the important facts about registration that a nurse has to be aware of in that country?

- e. Include any other important facts in the history or development of nursing in that country that you think are really interesting or different to your experience in Japan.
- f. List the major health problems in the country.

Your referencing in both assignments has to be accurate. Give the author and year on the individual slide and the full reference on the last slide. Write the references of author and year on poster and the full reference on the handout sheet.

Journal Article:

Jones, K. (2007) The nursing profession today. Nursing Outlook, 28: 233-256.

Internet:

National Union of Nurses Associations., 2007. Nurses' statistics. Retrieved May 1, 2008 from:
<http://www.nurse.org.tw/km-master/ezcatfiles/cust/img/img/9702.xls>.

Text Book:

Maxwell, N., 1984. From Knowledge to Wisdom. Blackwell, New York

教科書

参考書

メッセージ

The responsibilities of students:

1. Every student is expected to undertake required readings/work on the class topic before each class (see schedule).
2. Students are expected to attend all classes: Absences of three (3) or more classes will result in an automatic Fail Grade (D); Absences for any class requires emergency or medical doctor certificate of sickness.
3. Students should never copy of someone else's work as this may result in a Fail Grade. The only exception to this is papers developed in group assignment work but direct quotes or ideas from other authors must always be referenced.

連絡先

Professor Susan Turale,
Subdivision of Fundamental Nursing,
Room 304, Faculty of Health Sciences Building.
Telephone (0836) 22-2138.
Email: sturale@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500406
開設科目名	学際的看護論			単位	1 単位
対象学生				学年	4~4
担当教員	TURALE SUSAN			区分	
授業の概要					
Classes are 90 minutes each held on 7 Fridays from 08:40 – 10:10 during Semester 2, in a classroom in the Research & Education Building.					
授業の一般目標					
Students will be helped to understand the development of nursing as a science. They will learn about the knowledge base of disciplines in the natural, liberal and social sciences. The goal is to enable students to form a better appreciation of interdisciplinary scientific knowledge development and efforts to provide interdisciplinary and holistic health care. Interdisciplinary health disciplines in local, national and international settings are examined.					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: Appreciate the development of nursing science based on interdisciplinary knowledge from the natural, liberal and social sciences					
思考・判断の観点: Consider the purpose and nature of interdisciplinary knowledge development and care delivery in local, national and international arenas Consider how disciplines can work together with government to help shape and implement health policy.					
関心・意欲の観点: Critically analyze specific issues in interdisciplinary care, such as professional boundaries and interdisciplinary education					
技能・表現の観点: Demonstrate a willingness to learn by actively participating in class, directed readings, literature searches and group work					
Demonstrate new knowledge and critical thinking skills by actively passing brief papers, a group role play and a final examination.					
成績評価方法(総合)					
The responsibilities of students: Students are expected to attend all classes: Absences of three (3) or more classes will result in an automatic Fail Grade (D). Absence in any class requires a medical certificate or an emergency reason. Please email Professor Turale if you cannot attend class.					
Gradings: S: 90–100%; A: 80–89%, B: 70–79%, C: 60–69%, and D: Fail Grade Below 60%					
You must pass both the role play and the student presentations to pass this subject. The decision to give a compensatory assignment rests with the Professor taking the subject. It is not automatic that this is given.					
Final Gradings will be assessed by: Power-point presentation 50% Role Play due on 40% Participation and attendance in classroom exercises 10%					
教科書					
参考書					
メッセージ					
Guidelines for Assignments: Class room presentation Work in groups of 2 or 3 according to direction of lecturer. Search for articles in international journals (written in English) that describe in depth some aspects of how interdisciplinary health teams work together in practice or research. Try to find articles where a least one of the authors is a nurse or a laboratory scientist in Japan. Make a creative Power-point presentation using pictures and English words that explains the current roles and responsibilities of nurses and/or laboratory scientists in interdisciplinary teams in Japan compared to another country. How do they contribute to health care? Who leads the teams? You might choose to focus on one area of health care (for example, aged care, mental health, community health, or acute medical or surgical wards). Each group should focus on a different area. Make sure your presentation:					

1. Clearly explains your topic in words and pictures. You can download images from the internet but this must be fully referenced.
2. Makes some recommendations for the future. How can interdisciplinary approaches to health be developed better. For example, if you think health care teams could work better together in some areas in Japan, what do you think needs to happen?
3. Is accurately referenced. Your power-point presentation should have references with the author(s) name and the year of publication (for information or images that you have used) on each slide.,
4. Write a reference list too e.g. Author's last name, initial. Title of paper. Journal name; Volume: page numbers. Further information on referencing will be given to students.
5. Includes the title of the Power-point, the date, "Yamaguchi University Faculty of Health Sciences", your names and student numbers on the first slide of the powerpoint presentation; and
6. Is at least 15 minutes in length ? not including questions.

Get your Power-point or poster checked by Prof. Turale before the class

ASSIGNMENT GRADINGS:

Presentation: (50 marks) Marks will be given for

1. Overall presentation of the Power-point ? clear, interesting, accurate English
2. Relevance of material given to the topic
3. Depth of analysis of answers
4. Good referencing of material
5. Clear recommendations for the future.

Role Play (40 marks) Role play topics and guidelines will be given to Groups in class. Marks will be given for:

1. Understanding the potential problems in the situation
2. Demonstration of good leadership
3. Good communication and interdisciplinary collaboration
4. Good conflict resolution
5. A creative approach to researching and solving the problems

Attendance and Participation in Class (10 marks)

Students can gain up to 10 marks if they actively participate and attend classes. You will be expected to participate fully in classroom exercises and share resources from your studies. While students are encouraged to speak English, marks are not awarded for English ability. There will be a translator in each class who will help you to ask questions or give answers.

連絡先

Professor Susan Turale,
 Subdivision of Fundamental Nursing,
 Room 304, Health Sciences Building,
 Telephone (0836) 22-2132.
 Email: sturale@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500407
開設科目名	危機管理看護学			単位	1単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
本授業では、「危機」をキーワードに、危機的状況にある患者や家族に対する看護の役割について探求する。また、危機管理に関する理解を深めるために基本的な事項について概説する。					
授業の一般目標					
1.看護の対象が体験する様々な危機を認識する。2.危機理論について理解を深める。3.危機管理について関心を深め主体的に考えることができる					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 看護における危機の状況・背景について説明できる					
思考・判断の観点: 危機の背景や危機回避、対処について自分の考えを述べることができる					
関心・意欲の観点: 危機に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる					
技能・表現の観点: 事前学習により討議の準備ができ、他人の意見を尊重し、協調的・建設的な議論が行える					
成績評価方法(総合)					
小テスト、レポート評価を行う。 定期試験はなし。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052500408
開設科目名	リエゾン精神看護学			単位	1単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	山根 俊恵			区分	
授業の概要					
精神疾患を持つ人だけでなく、さまざまな精神的な問題を持つ人を対象に精神的なアプローチを行うリエゾン精神看護学についての概要を講義し、その役割や精神的なケアの重要性に対する理解を深める。					
授業の一般目標					
1. リエゾン精神看護の役割および機能について理解する。					
2. 身体を病む人への精神的ケアの重要性を理解する。					
3. リエゾン精神看護活動に用いる看護ケア技術の基礎を理解できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: リエゾン精神看護について、その機能および看護者の役割を理解できる。					
患者のニーズに応じた適切なケアが理解できる。					
思考・判断の観点: 患者の精神的な局面を理解し、その人のニーズに沿った看護ケアを考えることができる。					
関心・意欲の観点: 身体を病む人の精神看護の必要性とその方法について関心を持つことができる。					
態度の観点: 演習を通じて学生個人の意見を述べることができ、また他の学生とのディスカッションを通じて患者の持つ精神的な問題とその看護について考えることができる。					
技能・表現の観点: 適切な方法でプレゼンテーションができる。					
成績評価方法(総合)					
講義終了後、試験を行う。(資料持ち込み可)試験結果、授業態度、プレゼンテーションを総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700101
開設科目名	形態機能学Ⅱ			単位	1単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	野垣 宏			区分	
授業の概要					
人の生命システムの構造基盤について広く具体的知識を獲得できるよう、実際の体や臓器の観察を通じて形態学の講義を行う(実習は医学部解剖学実習室で行う。)					
授業の一般目標					
実際の人体や臓器に接し、講義と観察を通じて、病態の基盤となる解剖生理学的知識を獲得し、人体の構造と機能について有機的に説明できる。また献体の意義や死生観について自分の考えを述べることができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 人体を理解するため必要な解剖学的構造の名称を述べ、機能を説明できる。					
思考・判断の観点: 主たる構造についてその障害が起こる原因や臨床症状について説明できる。					
関心・意欲の観点: 人体の構造のルールや発生・進化、臨床的意義について自分で調べ、整理できる。					
態度の観点: 積極的に講義や実習に参加し、他者と議論し、自分の知識や考えを整理できる。					
技能・表現の観点: 積極的に解剖実習に参加し、観察法を体得し、自分の考えをまとめて表現できる。					
その他の観点: 実際のご遺体を観察し、献体の意義や死生観について自分の考えを説明できる。					
成績評価方法(総合)					
レポート、小テストで評価する。					
教科書					
トートラ人体解剖生理学(原書7版)／佐伯由香・他 翻訳:丸善, 2007					
参考書					
メッセージ					
ご遺体や臓器の保存のために、ホルムアルデヒドによる防腐措置が施されています。化学物質に過敏な体質をおもちの方は申し出てください。					
連絡先					
nogaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700102
開設科目名	検査機器学			単位	1単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	石川 敏三			区分	
授業の概要					
<p>医療の進歩は著しく、中でも新しい検査方法の原理や機器の使用法を理解することは、病気の診断や治療効果の評価に極めて重要である。ここでは、臨床検査にもちられている、物理学的知識から、共通機器といわれる基本的な検査機器の原理とその適切な使用法を教授する。その後、展開では、新しい機器の実際を把握させ、開発におけるノウハウを教授する。</p>					
授業の一般目標					
<p>検査方法の原理や機器の使用法を理解させる。</p> <p>1) 臨床検査技法の原理を物理学的知識から理解させる。</p> <p>2) 共通機器の原理とその適切な使用法を教授する。</p> <p>3) 新しい機器の実際・開発の現状を教授する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 臨床検査機器に応用されている様々な法則や原理が理解できる。</p> <p>思考・判断の観点: 機器の使用において、原理が分かって適切に使用できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 様々な物理学的原理を応用して新しい機器の開発が考えられる。</p> <p>現行品の問題点が分かり、その改善をどのようにするか分かる。</p> <p>態度の観点: 様々な物理学的現象をその原理から説明ができる。</p> <p>技能・表現の観点: 検査機器の正しく使用できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
期末試験					
教科書					
検査機器総論／三村邦彦ほか：医歯薬出版，医歯薬出					
参考書					
検査機器学総論／三村邦彦ほか、：医歯薬出版					
メッセージ					
連絡先					
22-2888					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700103
開設科目名	細胞診断学講義 I -2			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	尾野 緑			区分	
授業の概要					
<p>山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年次に認定試験の受験が可能です。認定試験では全般的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要です。</p> <p>後期は呼吸器の細胞診について学びます。</p>					
授業の一般目標					
呼吸器の基礎知識を習得しましょう。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 呼吸器の基礎知識を習得する。					
思考・判断の観点: 呼吸器の基礎知識を活用することができる。					
成績評価方法(総合)					
<ul style="list-style-type: none"> ・講義項目について予習レポートを提出してください。 ・講義した内容について小テストを行います。 ・小テストで基準を満たさない場合、定期試験を行います。 					
教科書					
～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方 第2版/西 国広:近代出版, 2007					
参考書					
CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.2 呼吸器」/椎名義雄・他:ユニバーサルコンピューター, 2004					
細胞診用語解説集/日本臨床細胞学会:医学書院, 1996					
メッセージ					
連絡先					
尾野 緑 E-mail:mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-85-2853					
オフィスアワー					
随時、可能です。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700104
開設科目名	細胞診断学実習 I			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	尾野 緑			区分	
授業の概要					
<p>山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年次に認定試験の受験が可能です。認定試験では全般的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要です。</p> <p>後期は呼吸器の細胞診について学びます。</p>					
授業の一般目標					
呼吸器の基礎技術を習得しましょう。					
授業の到達目標					
技能・表現の観点: 呼吸器の基礎技術を習得する。					
成績評価方法(総合)					
<ul style="list-style-type: none"> ・講義項目に関して、実際にスクリーニングして、スケッチしましょう。 ・スケッチした疾患に関して、スクリーニング試験を行います。 					
教科書					
～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方 第2版/西 国広:近代出版, 2007					
参考書					
CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.2 呼吸器」/椎名義雄・他:ユニバーサルコンピューター, 2004					
細胞診用語解説集/日本臨床細胞学会:医学書院, 1996					
メッセージ					
連絡先					
尾野 緑 E-mail:mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-85-2853					
オフィスアワー					
随時、可能です。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700105
開設科目名	細胞生物学			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	渡部 省二			区分	
授業の概要					
<p>本講義では生物の基本単位である細胞に焦点をあてて、その構造と機能について解説する。同時に開講されている「生化学」と密接に関連させて講義を進めるが、「細胞生物学」では分子レベルのことにはあまり深くは立ち入らないで、「細胞レベル」に重きを置く。基本的には生化学、分子生物学の十分な知識がなくても、理解できるような内容にするように努めるつもりである。教科書は分子細胞生物学をひろく解説した本であるが、本講義では主に、その第 11 章以降を説明する。真核生物の細胞の構造を理解し、オルガネラの機能、タンパク質のソーティング、ホルモンの情報伝達、細胞分裂等の細胞の機能について基本的理解を得る。</p>					
授業の一般目標					
<p>生物のメカニズムの精巧さに触れ、それに驚きを感じることで、生命に対する探究心を養う。</p> <p>生物の細小単位である細胞を中心に、構成分子について物理や化学の視点を踏まえて生命への理解を深める。</p> <p>真核生物の細胞の構造を理解し、オルガネラの機能、タンパク質のソーティング、ホルモンの情報伝達、細胞分裂等の細胞の機能について基本的理解を得る。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 真核生物の細胞内器官についてその構造と主な機能を説明できる。</p> <p>細胞内におけるタンパク質の輸送の機構を理解する。</p> <p>細胞内のシグナル伝達の機構を理解する。</p> <p>細胞の形、および運動をつかさどっている細胞骨格の構造と機能を理解する。</p> <p>細胞分裂のプロセスを知り、その調節機構の概要を理解する。</p> <p>体細胞分裂と減数分裂の違いを理解し、減数分裂の意味を説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 生物学の基礎知識を関連する専門科目に応用できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 多様な構造・機能をもった多細胞生物がたった一つの受精卵から分化・発生してくることを理解することにより、生命の神秘を感じ取る。</p> <p>態度の観点: 予習、復習をし、まじめに授業に取り組む。</p>					
成績評価方法(総合)					
試験(中間・期末)およびレポートによる					
教科書					
Essential 細胞生物学, 第二版 / B. Alberts 他: 南江堂, 2004					
参考書					
メッセージ					
<p>わからないことをわからないままにしておかず、すぐに質問すること。</p> <p>メールによる質問も可。</p> <p>講義の資料はホームページに掲載されているので参照すること。</p> <p>http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~shwatabe/po-login/menus/cellbiol.htm</p> <p>毎回の授業の概要を A4 レポート用紙 1～2 枚程度にまとめ、次の授業時に提出すること。Word で書いて、保健学科 WEB シラバスから提出してもよい。</p>					
連絡先					
<p>shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>0836-22-0830</p>					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700106
開設科目名	生理機能学 I			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	松田 昌子			区分	
授業の概要					
形態学で学んだ人体の各臓器が生体の中で果たしている役割を系統的に講義し、生命維持の仕組みとその破綻から病気にかかる過程の基礎を解説する。生理機能学 I では消化器系、血液系、免疫系、腎・泌尿器系臓器について講義する。生理機能学 II では神経系、循環器系、呼吸器系、内分泌系臓器について講義する。					
授業の一般目標					
1.各臓器の正常機能を知る。 2.各臓器の調節制御機能を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.臓器の基本的構造と機能を説明できる。 2.各臓器の機能を調節する仕組みを説明できる。 3.人体がホメオスタシスを維持する仕組みを理解する。					
思考・判断の観点: 臓器の機能が破綻するとどのような現象がおこり、病気つながっていくかという過程を考え、基礎的な症状の由来を理解できる。					
関心・意欲の観点: 自分の体内で起こる種々の現象のメカニズムについて関心を持つ。					
成績評価方法(総合)					
それぞれの教員による試験により評価する。 出席は評価には加えないが、規定の出席日数に足りない人は定期試験の受験資格を失う。					
教科書					
目でみるからだのメカニズム／堺 章:医学書院, 2000					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
松田:836-22-2832(研究室); matsudam@yamaguchi-u.ac.jp; 山田:0836-22-2803; 市原:0836-22-2884					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700107
開設科目名	英文多読			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	田中 経彦			区分	
授業の概要					
<p>自分が好きな本を色々読む小学校中学校での朝読書の英語版です。Extensive Readingと言います。多読と言うと義務的に読む感じがしますが、そうではなく色々自由に選んで読書しようというものです。楽しく読めれば結果的にたくさん読めます。その時点で非常に易しく読める英語の本から始め色々な本を読みます。訳さずに英語のまま読んで行きます。今日自分にとって楽しい本を読みます。読みたい本が今読めなければ、易しい本を読んで行くと読めるようになります。電気通信大学の酒井邦秀准教授がまとめた多読三原則「1. 英和辞書を引かない 2. わからなければ飛ばす 3. 進まなければ後回し」に従い、易しい本からたくさん読んでいくうちに2年くらい(毎日30分)すればPaperbacksが読めるようになり、ひいては英語の専門原書を読むのが楽になるはずで、専門原書には知識が必要ですが、ただし、卒業に必要な英語の単位にはなりません。帰国子女の方は、読み聞かせ等をしていただけると優遇します。インターネットで利用できる英語ニュース等のサイトも紹介します。気分転換に英語の音楽を聴いても構いません。1時間程度読んだら退出自由です。もともとTOEIC 高得点の人は1時間半読みますが。</p>					
授業の一般目標					
<p>専門書は別ですが、自分にとって面白い本を何ヶ月もかけて訳読しようとする、途中で興味が薄れてしまい止めてしまいかねません。「大草原の小さな家」等の原作を数日で読める自信をつけるのが目標です。</p> <p>訳読にこだわるのは、もうやめましょう。大学院入試、大学病院検査部の就職試験に辞書持込で英語の試験が出ることがありますが、直訳ではなく意訳をすればいいのです。英語をたくさん読めば分からなかった複雑な文もわかるようになります。訳すのは通常自分の頭を混乱させるだけです。むしろ日本語でかく小論文の方が大事でしょう。</p> <p>英語の本を訳読するとせいぜい毎分80語ですが、毎分100語以上で直読できればTOEICは600以上に相当します。毎日30分でも読んでいけば、誰でもできます。大学を出るまでにこの段階に到達しておけば、英語が楽しくなるはずで、大学入学時より英語力が必ず向上します。</p>					
授業の到達目標					
<p>思考・判断の観点: 英語話者の思考方法に興味を持つ</p> <p>関心・意欲の観点: 英語で直接情報を取り込む意欲</p> <p>態度の観点: 英語文化に親しむ。</p> <p>技能・表現の観点: 7割くらいしか分からずともいいから、英文を訳さずできるだけ早く読めるようになること。(TOEIC600点台の人は毎分100語以上だそうです。やさしい文章から始めればほとんどの人が毎分100語以上、200語以上の人も珍しくありません。)</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>英語への積極性を評価します。単位認定にはアンケートに必ずお答え下さい。皆勤であれば、誰も80点です。毎分100語で読むとすると、90分授業14回で、12万6千語です。中学高校6年間で読む英文は、熱心な人で10万語程度です。一方英米の小中高生は毎年100万語は読むそうです。記録手帳に語数を記録して10万語を越した分は、1万語の上積につき、1点加算します。TOEICの点数についても考慮します。</p>					
教科書					
参考書					
<p>さよなら英文法！多読が育てる英語力／酒井邦秀:筑摩書房, 2008</p> <p>100万語多読入門／古川昭夫、伊藤晶子:コスモビア, 2005</p> <p>英語候 50のメソッド／上川一秋、ジーナジョージ:三修社, 2007</p> <p>ロングマン ベーシック英英辞典／ロングマン社編集局:桐原書店, 2002</p>					
メッセージ					
<p>やさしい英語の本を訳さないで早く読読訓練はTOEIC創設者の一人、三枝幸夫元早大教授(個人)も薦めておられ、世界の常識です。</p> <p>英語を直読するのに慣れていないと、眠くなります。無意識に訳そうとすると眠くなるのでこんな易しい本と思う本から読んでください。また三コマ目の授業を受けるときは、少し昼ごはんを軽くしたらいいかもしれません。空腹気味だと眠くなりません。</p> <p>語数は、酒井先生、古川氏(SEG代表)らが多読の普及のために作ったSSSと言う団体の協力者が公開している語数です。教材の本に書き込んであります。</p>					
連絡先					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp					

オフィスアワー

授業時間がオフィスアワーです。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700108
開設科目名	英文多読			単位	1 単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	田中 経彦			区分	
授業の概要					
<p>自分が好きな本を色々読む小学校中学校での朝読書の英語版です。Extensive Readingと言います。多読と言うと義務的に読む感じがしますが、そうではなく色々自由に選んで読書しようというものです。楽しく読めれば結果的にたくさん読めます。その時点で非常に易しく読める英語の本から始め色々な本を読みます。訳さずに英語のまま読んで行きます。今日自分にとって楽しい本を読みます。読みたい本が今読めなければ、易しい本を読んで行くと読めるようになり。電気通信大学の酒井邦秀准教授がまとめた多読三原則「1. 英和辞書を引かない 2. わからなければ飛ばす 3. 進まなければ後回し」に従い、易しい本からたくさん読んでいくうちに2年くらい(毎日30分)すればPaperbacksが読めるようになり、ひいては英語の専門原書を読むのが楽になるはず。専門原書には知識が必要ですが、ただし、卒業に必要な英語の単位にはなりません。帰国子女の方は、読み聞かせ等をしていただくと優遇します。インターネットで利用できる英語ニュース等のサイトも紹介します。気分転換に英語の音楽を聴いても構いません。1時間程度読んだら退出自由です。もともとTOEIC 高得点の人は1時間半読みますが。</p>					
授業の一般目標					
<p>専門書は別ですが、自分にとって面白い本を何ヶ月もかけて訳読しようとする、途中で興味が薄れてしまい止めてしまいかねません。「大草原の小さな家」等の原作を数日で読める自信をつけるのが目標です。</p> <p>訳読にこだわるのは、もうやめましょう。大学院入試、大学病院検査部の就職試験に辞書持込で英語の試験が出ることがありますが、直訳ではなく意訳をすればいいのです。英語をたくさん読めば分からなかった複雑な文もわかるようになります。訳すのは通常自分の頭を混乱させるだけです。むしろ日本語でかく小論文の方が大事でしょう。</p> <p>英語の本を訳読するとせいぜい毎分80語ですが、毎分100語以上で直読できればTOEICは600以上に相当します。毎日30分でも読んでいけば、誰でもできます。大学を出るまでにこの段階に到達しておけば、英語が楽しくなるはず。大学入学時より英語力が必ず向上します。</p>					
授業の到達目標					
<p>思考・判断の観点: 英語話者の思考方法に興味を持つ</p> <p>関心・意欲の観点: 英語で直接情報を取り込む意欲</p> <p>態度の観点: 英語文化に親しむ。</p> <p>技能・表現の観点: 7割くらいしか分からずともいいから、英文を訳さずできるだけ早く読めるようになること。(TOEIC600点台の人は毎分100語以上だそう。やさしい文章から始めればほとんどの人が毎分100語以上、200語以上の人も珍しくありません。)</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>英語への積極性を評価します。単位認定にはアンケートに必ずお答え下さい。皆勤であれば、誰も80点です。毎分100語で読むとすると、90分授業14回で、12万6千語です。中学高校6年間で読む英文は、熱心な人で10万語程度です。一方英米の小中高生は毎年100万語は読むそうです。記録手帳に語数を記録して10万語を越した分は、1万語の上積につき、1点加算します。TOEICの点数についても考慮します。</p>					
教科書					
参考書					
<p>さよなら英文法！多読が育てる英語力／酒井邦秀:筑摩書房, 2008</p> <p>100万語多読入門／古川昭夫、伊藤晶子:コスモビア, 2005</p> <p>英語候 50のメソッド／上川一秋、ジーナジョージ:三修社, 2007</p> <p>ロングマン ベーシック英英辞典／ロングマン社編集局:桐原書店, 2002</p>					
メッセージ					
<p>やさしい英語の本を訳さないで早く読読訓練はTOEIC創設者の一人、三枝幸夫元早大教授(個人)も薦めておられ、世界の常識です。</p> <p>英語を直読するのに慣れていないと、眠くなります。無意識に訳そうとすると眠くなるのでこんな易しい本と思う本から読んでください。また三コマ目の授業を受けるときは、少し昼ごはんを軽くしたらいいかもしれません。空腹気味だと眠くなりません。</p> <p>語数は、酒井先生、古川氏(SEG代表)らが多読の普及のために作ったSSSと言う団体の協力者が公開している語数です。教材の本に書き込んであります。</p>					
連絡先					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp					

オフィスアワー

授業時間がオフィスアワーです。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700201
開設科目名	英文多読			単位	1 単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	田中 経彦			区分	
授業の概要					
<p>自分が好きな本を色々読む小学校中学校での朝読書の英語版です。Extensive Reading と言います。多読と言うと義務的に読む感じがしますが、そうではなく色々自由に選んで読書しようというものです。楽しく読めれば結果的にたくさん読めます。その時点で非常に易しく読める英語の本から始め色々な本を読みます。訳さずに英語のまま読んで行きます。今日自分にとって楽しい本を読みます。読みたい本が今読めなければ、易しい本を読んで行くと読めるようになり。電気通信大学の酒井邦秀准教授がまとめた多読三原則「1. 英和辞書を引かない 2. わからなければ飛ばす 3. 進まなければ後回し」に従い、易しい本からたくさん読んでいくうちに2年くらい(毎日30分)すればPaperbacksが読めるようになり、ひいては英語の専門原書を読むのが楽になるはず。専門原書には知識が必要ですが、ただし、卒業に必要な英語の単位にはなりません。帰国子女の方は、読み聞かせ等をしていただけると優遇します。インターネットで利用できる英語ニュース等のサイトも紹介します。気分転換に英語の音楽を聴いても構いません。1時間程度読んだら退出自由です。もともとTOEIC 高得点の人は1時間半読みますが。</p>					
授業の一般目標					
<p>専門書は別ですが、自分にとって面白い本を何ヶ月もかけて訳読しようとする、途中で興味が薄れてしまい止めてしまいかねません。「大草原の小さな家」等の原作を数日で読める自信をつけるのが目標です。</p> <p>訳読にこだわるのは、もうやめましょう。大学院入試、大学病院検査部の就職試験に辞書持込で英語の試験が出るがありますが、直訳ではなく意識をすれればいいのです。英語をたくさん読めば分からなかった複雑な文もわかるようになります。</p> <p>英語の本を訳読するとせいぜい毎分80語ですが、毎分100語以上で直読できればTOEICは600以上に相当します。毎日30分でも読んでいけば、誰でもできます。大学を出るまでにこの段階に到達しておけば、英語が楽しくなるはず。大学入学時より英語力が必ず向上します。</p>					
授業の到達目標					
<p>思考・判断の観点: 英語話者の思考方法に興味を持つ</p> <p>関心・意欲の観点: 英語で直接情報を取り込む意欲</p> <p>態度の観点: 英語文化に親しむ。</p> <p>技能・表現の観点: 7割くらいしか分からずともいっから、英文を訳さずできるだけ早く読めるようになること。(TOEIC600点台の人は毎分100語以上だそう。やさしい文章から始めればほとんどの人が毎分100語以上、200語以上の人も珍しくありません。)</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>英語への積極性を評価します。単位認定にはアンケートに必ずお答え下さい。皆勤であれば、誰も80点です。毎分100語で読むとすると、90分授業14回で、12万6千語です。中学高校6年間で読む英文は、熱心な人で10万語程度です。一方英米の小中高生は毎年100万語は読むそうです。記録手帳に語数を記録して10万語を越した分は、1万語の上積につき、1点加算します。TOEICの点数についても考慮します。</p>					
教科書					
参考書					
<p>さよなら英文法！多読が育てる英語力／酒井邦秀：筑摩書房、2008</p> <p>100万語多読入門／古川昭夫、伊藤晶子：コスモピア、2005</p> <p>英語喉 50のメソッド／上川一秋、ジーナジョージ：三修社、2007</p> <p>ロングマン ベーシック英英辞典／ロングマン社編集部：桐原書店、2002</p>					
メッセージ					
<p>やさしい英語の本を訳さないで早く読む訓練はTOEIC創設者の一人、三枝幸夫元早大教授(個人)も薦めておられ、世界の常識です。</p> <p>英語を直読するのに慣れていないと、眠くなります。無意識に訳そうとすると眠くなるのでこんな易しい本と思っ本から読んでください。また三コマ目の授業を受けるときは、少し昼ごはんを軽くしたらいいかもしれません。空腹気味だと眠くなりません。</p> <p>語数は、酒井先生、古川氏(SEG代表)らが多読の普及のために作ったSSSと言う団体の協力者が公開している語数です。教材の本に書き込んであります。</p>					
連絡先					
tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

授業時間がオフィスアワーです。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700202
開設科目名	英語聴解			単位	1 単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	服部 幸夫			区分	
授業の概要					
英語を実際に自分の口で喋ることにより、speaking および listening の能力の向上を図ります。 具体的には「shadowing」という技法で行います。 週に3回、各30分ずつ行いますが、継続が最も大切です。					
授業の一般目標					
英語を喋り、聴くことにより、異文化との触れ合いを実感する。 英語を喋る「羞恥心」を取り除く					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 言語は「コミュニケーション」のためにあるもので、決して「完璧」に喋る必要のないことを体得する。					
思考・判断の観点: 少しでも喋って、外国人と「コミュニケーション」が出来ると、楽しくなります。それは異文化との接触が心地よいからです。					
関心・意欲の観点: たとえ、自分の英語力がさほどでなくても、実際に自分で話してみると案外通じるものです。「使ってみよう」と心のバリアを越えると、関心と意欲が湧いてきます。					
態度の観点: 自分の文化と異なる異文化には、軽蔑でなく「尊敬」の心で接することにより、相互理解が深まることに気付く					
技能・表現の観点: このトレーニングを重ねればかさねるほど、語彙が豊富になり、より楽しくなることに気付く					
その他の観点: 英語は現在においては国際共通語です。寧ろ、第2の「日本語」と思って接するの如何？					
成績評価方法(総合)					
出席のみです。					
教科書					
NHK ラジオ講座「入門ビジネス英語」(H21 年度毎月発刊、¥380) / John K. Gillespie: 日本放送出版協会					
参考書					
メッセージ					
授業では 10 回程度しか shadowing が出来ませんので、是非残り 20 回ほどを自分で行って下さい。これは「ながら族」で結構です。shadowing はスキットの会話の後追いをすること、つまり、「聴きながら喋って」後追いすることです。遅れたら、中断をして追いついたらまた追いかけて下さい。文字を見ないようにすることがコツです。					
連絡先					
yhattori@yamaguchi-u.ac.jp tel & fax: 0836-22-2807					
オフィスアワー					
授業、会議、その他でオフィスにいないことが多いので、先に連絡(上記)をいただければ、幸いです。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700203
開設科目名	英語読解			単位	1単位
対象学生				学年	2～4
担当教員	服部 幸夫			区分	
授業の概要					
<p>月～金の毎朝 8:05-8:35 の 30 分間に、英語で書かれた医学書を読みます。毎日英語に触れることにより、医学の専門英語が身につき、文献を読むのが楽になります。1文章ずつ、誰かが英語で読んで、別の者がその部分の日本語の訳本を読み上げ、最後に教員が「英語」で解説をつけます。したがって、30分間の大部分が英語で行われる授業です。内容は国試に関連のあるものを選んで読みます。つまり、医学書の読解、speaking、国試レベル以上の知識習得を知らずのうちに獲得するという欲張った企画です。</p>					
授業の一般目標					
<p>医学英語に慣れる 国試にも関係する医学知識をより深く獲得する 自分の speaking に寄与する</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:「Pathology」(病理学)の本を読んでいます。内容を理解すると同時にそこに使われている医学用語(英単語)に慣れる。(ここで得られた知識は国試にも役立ちます。)</p> <p>思考・判断の観点:授業で浅く習った内容を、もう少し深く学び、より楽しく知識を獲得する</p> <p>関心・意欲の観点:特に3、4年次生、編入生には基礎知識が幾分かあるだけに、一段と楽しめます。</p> <p>態度の観点:単に学習するだけでなく、毎日持続できる「人格」の養成が、最も得るところが大きいかもしれない</p>					
成績評価方法(総合)					
出席のみです。					
教科書					
Essential Pathology／Emanuel Rubin:Lippincott, 2001					
参考書					
メッセージ					
自分との戦いですが、得るものも少なくないプロジェクトです。					
連絡先					
yhattori@yamaguchi-u.ac.jp tel & fax 0836-22-2807					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700204
開設科目名	臨床栄養学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	非常勤 講師			区分	
授業の概要					
適切な栄養管理は、患者の生命維持に必須であるばかりでなく、疾病の治療・予防や周手術期の管理を効果的に実施する上で基本となる治療である。また、患者のQOLを向上させる重要な要因である。この講義では病態の改善に食事療法が重要な位置を占める代表的疾患を取り上げ、その概念、病態、診断、治療(食事療法を中心に)の原則について概説する。					
授業の一般目標					
1. 栄養素の種類と機能に関する基礎知識をもとに栄養所要量、栄養法の種類と適応、栄養障害の評価方法、治療方法を理解する。					
2. 腸疾患、肝臓病、腎臓病の病態と栄養サポートに関する知識を習得する。					
3. 生活習慣病の考え方を理解し、肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧の病態と食事療法を中心とした治療法を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 栄養素の種類と機能を列挙できる。					
2. 日本人の食事摂取基準がそのように設定されたか説明できる。					
3. 栄養法の種類と適応を列挙できる。					
4. 栄養障害の評価方法と治療法を説明できる。					
5. 肝臓病・腎臓病の食事療法の基本を説明できる。					
6. 肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧についてその病態と食事療法の意義について説明できる。					
7. 病態に応じて必要なエネルギー量、栄養素の配分を算出できる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験、小テスト・授業内レポート、授業態度・授業への参加度、出席により評価する。					
教科書					
系統看護学講座専門基礎③ 栄養学 人体の構造と機能[3] / 小野章史、杉山みち子、鈴木志保子他: 医学書院					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700205
開設科目名	保健学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	山崎 秀夫			区分	
授業の概要					
保健医療従事者として必要な公衆衛生的視点を培うため、公衆衛生の学問的特徴、公衆衛生と人口・環境・食・健康問題・保健統計・疾病・疫学等の関わりから、公衆衛生の内容・方法を説明する。					
授業の一般目標					
保健学の基盤となる公衆衛生の理解、人口と公衆衛生、環境と公衆衛生、食と公衆衛生、国民の健康と保健統計、疾病の疫学と予防等について理解し、保健学とは何かを考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 保健学とは何かを、公衆衛生的視点から捉え説明できる。					
2. 人口と公衆衛生について、その動向・関連指標等を整理し説明できる。					
3. 環境と公衆衛生について、生活環境、環境問題等を整理し説明できる。					
4. 食と公衆衛生について、健康づくり、食品保健等の視点から説明できる。					
5. 国民の健康と保健統計について、保健統計の意義・種類、健康指標、傷病統計、社会資源等の観点から説明できる。					
6. 疾病の疫学と予防について、疾病成立条件、具体指標、感染性・非感染性疾患の予防等から整理し説明できる。					
思考・判断の観点: 1. 保健学の存在理由を指摘できる。					
2. 保健学の内容について、公衆衛生的視点から整理できる。					
関心・意欲の観点: 保健学に対する関心を広げ、公衆衛生への問題意識を高めることができる。					
態度の観点: 具体的な公衆衛生問題について主体的に考えることができる。					
成績評価方法(総合)					
授業内容についての理解度を、定期試験により評価する。加えて、授業内で実施するレポート等も加点して総合評価を行う。出席は欠格条件となるので注意すること。					
教科書					
公衆衛生学(新体系看護学全集7 社会保障制度と生活者の健康②)／小野寺伸夫:メヂカルフレンド社, 最新					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700206
開設科目名	医療放射線学			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	松永 尚文			区分	
授業の概要					
医療放射線学では、放射線および放射性同位元素の基礎物理学、放射線測定法、放射性同位元素を用いた検査方法、放射性同位元素の安全な取扱い方、および放射性同位元素に関する法規制について概説する。また、放射線診療の歴史、放射線診断技術とその治療的応用、核医学的診断、放射線治療の適応と有効性、放射線の人体に及ぼす影響などについて教授する。					
授業の一般目標					
1)放射線および主な放射性同位元素の種類について説明できる。 2)放射線の単位および測定法について説明できる。 3)放射性同位元素に関する法令について説明できる。 4)ラジオイムノアッセイおよびエンザイムイムノアッセイ法による検体検査について説明できる。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験 70%、小テスト・授業内レポート 10%、授業態度・授業への参加度 10%、出席 10%					
教科書					
臨床放射線医学／大澤 忠、他:医学書院、2009 標準放射線医学第6版(CD付)					
参考書					
メッセージ					
臨床放射線医学を教科書とし、教科書に沿って講義をするので、必ず予習、復習してください。					
連絡先					
松永尚文: matsuna@yamaguchi-u.ac.jp、電話 22-2282					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700207
開設科目名	緩和ケア論			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	齊田 菜穂子			区分	
授業の概要					
健康レベルが終末期にある人々とその家族を理解し、終末期患者及び家族のニーズ・健康問題を解決するために必要な考え方、理論及び具体的な方法を学ぶ。また、医療現場で患者や家族を取り巻く倫理的課題や終末期患者及び家族に対する看護者の役割・姿勢、他職者との連携の重要性を学ぶ。					
授業の一般目標					
1.緩和ケア、終末期ケアの概念とその歴史的背景を理解する。 2.終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 3.健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・問題に対して、その人らしさを重視して質の高い生活を送れるような方向で援助する方法を理解する。 4.終末期患者や家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、他者職との連携の重要性を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.緩和ケア・終末期ケアの概念とその歴史的背景を述べることができる。 2.終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴を述べることができる。(進行がんの一般的な病態整理、告知・病状進行・死別による生理的・心理的反応) 3.健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を述べることができる。4.健康レベル低下に伴い生じるニーズ・健康問題を解決するための具体的な方法を述べる ことができる。5.終末期患者の生活の質に関わる要因とその測定方法を述べる ことができる。					
思考・判断の観点: 1.対象の生活・生命の質を維持・向上させるような方向で援助することの意味を述べる ことができる。2.健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題をアセスメント できる。 3.健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を解決するための具体的な方法を選択 できる。					
関心・意欲の観点: レポート、グループ討議に際して人間の生と死の意味、生命・人間の尊厳、終末医療現場の現状と課題、終末期患者の生活の質(QOL)に関わる要 因等の情報収集・活用ができる。					
態度の観点: 1.終末期患者や家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、他職者との連携の重要性を述べる ことができる。 2.グループ討議に積極的に参加している。					
技能・表現の観点: グループ討議時の発表、レポートの表現が倫理的である。明快な表現 ができる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験:80%、授業レポート:10%、授業態度・グループワーク参加度 10%					
教科書					
系統看護学講座別巻10 緩和ケア /恒藤暁、内布敦子編集:医学書院, 2007					
参考書					
系統看護学講座専門5 成人看護学総論 成人看護学(1)/小松浩子、井上智子他編集:医学書院, 2007 初心者も活用できるがん医療・がん看護/阿蘇品スミ子編集:南山堂, 2002					
メッセージ					
連絡先					
齊田菜穂子:22-2855					
オフィスアワー					
齊田菜穂子:研究室に存否を確認してから訪室してください。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700208
開設科目名	医療情報システム論			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	篠原 紀幸			区分	
授業の概要					
医療従事者にとってもコンピュータに関わる基本的な知識は必須である。これまでに身につけたコンピュータに関する多くの技能、知識をベースにしてコンピュータネットワークとその医療への応用である医療情報ネットワークシステムに関する知識を学ぶ。当講義は2年生対象とあるが、3年生、4年生も受講可能である。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータネットワークのしくみやプロトコルなどを理解する 2. コンピュータネットワークにおける標準化、規格化の重要性を理解する 3. コンピュータネットワークの一般的な管理のしかたや運用におけるマナーなどを理解する 4. 医療情報ネットワークの現状を見聞し、その利点や問題点を理解する <p>以上の目標に向けて学習し、意欲のあるものはさらに医療情報技術者資格の認定試験に挑戦してもらいたい</p>					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. コンピュータの構造とコンピュータネットワークのしくみを理解する					
2. ネットワーク利用の利点と問題点を指摘することができる					
3. コンピュータシステムの管理とデータ保守について対策法を指摘することができる					
4. ネットワーク利用の倫理を理解する					
5. 医療情報システムの特徴を挙げることができる					
6. 医療情報システムの管理と保守の対策法および倫理について説明することができる					
思考・判断の観点: 1. システム運営、管理における諸問題について問題の分析と対策を考えることができる					
2. 医療情報の特殊性を理解し、その適切な利用法について考えることができる					
成績評価方法(総合)					
授業内レポート100%					
教科書					
医療情報(医療情報システム編)／日本医療情報学会医療情報技術者育成部会:篠原出版新社, 2006					
医療情報(情報処理基礎編)／日本医療情報学会医療情報技術者育成部会:篠原出版新社, 2006					
参考書					
メッセージ					
医療現場ではコンピュータは必須アイテムであるが、その管理運用をできるものが少ないので、コンピュータに“強い”者が望まれている。そういうひとを認定する資格として「医療情報技術者」というのがあるので、意欲のある学生は取得を目指して勉強してもらいたい。					
連絡先					
nshino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700209
開設科目名	基礎検査学実習Ⅱ			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	岡野 こずえ			区分	
授業の概要					
臨床検査の基礎となる実習である。貴重な患者検体という意識を持つために、臨床材料に近いものを使って、実習を進めて行く。検体の採取法、保存法、実技、結果解釈、それら全てに対して「知識と実技」が結びつくように実習を進めていく。					
授業の一般目標					
自分が出した検査結果が、臨床診断に反映することを実感させる。 1:採血実習および試薬作成を行うを行う、2:各自の検体を用いて4項目の実習を行う、3:実習の項目毎にレポートを作成・提出させ、知識の整理を行う、4:試験で知識の習得を確実にする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 臨床検体および検査結果に影響を及ぼす因子を理解し、説明できる。的確な採血技術を取得する。					
思考・判断の観点: 正しい検査結果を出すために対処すべきことを考察・実行できる					
関心・意欲の観点: 基礎検査項目を含めた臨床検査全般に興味・関心をもち、実施できる					
態度の観点: 臨床検査技師としてとる精度の高い検査結果を出せる態度を身に付ける					
技能・表現の観点: 正確な検査結果を出す技術を身に付け、適切な結果を出せる技術を身に付ける					
成績評価方法(総合)					
毎回のレポート、期末試験、出席で総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
臨床検査技師として必要な基礎知識と技術を身に付ける					
連絡先					
電話は 0836-22-2837、メールは kozue@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
岡野は 5 時以降					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700210
開設科目名	分子生物学実習			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	渡部 省二			区分	
授業の概要					
本実習では DNA の取り扱いに習熟し、PCR、プロッティング、電気泳動、プラスミドの取り扱いおよび DNA のクローニングを実際に行い、その技術を習得する。					
授業の一般目標					
DNA の取り扱いに習熟し、遺伝子の実験技術を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: PCR の原理を理解する。					
遺伝子クローニングの原理を理解する。					
発現ベクターによる遺伝子発現の原理を理解する。					
遺伝子多型解析(PCR-RFLP 法)の原理を理解する。					
態度の観点: 実習内容を予習し、手際よく実験を行う。					
技能・表現の観点: PCR の実験技術を習得する。					
遺伝子クローニングの実験技術を習得する。					
遺伝子多型解析(PCR-RFLP 法)の実験技術を習得する。					
成績評価方法(総合)					
レポートによる(Excel のファイルをシラバスよりアップロードする)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
あらかじめ予習し、実習内容を理解しておくこと。					
実習の資料はホームページ(WEB シラバスからリンク)に掲載されているので参照すること。また、電気泳動の写真等のデータもホームページに掲載する。					
http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~shwatabe/po-login/menus/MBpractice.htm					
連絡先					
shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp					
0836-22-2830					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700211
開設科目名	病理形態学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	高橋 睦夫			区分	
授業の概要					
<p>病理形態学では病理学を基礎にして臓器別により細かく疾患について学ぶ。病理学がきちんと身に付いていれば、病理形態学に出てくる疾患の多くは既にその成り立ちが解っている。病理形態学はその応用であるから、非常に理解しやすいはずである。単に講義を聴くという受け身の勉強ではなく、自分の知識を整理し、考える習慣をつけて欲しい。「何故、どうして、そうなるのか？」を考えるのが病理形態学である。</p>					
授業の一般目標					
<p>機能別系統を構成している臓器とその機能や組織像等が基本である。各臓器に特有な重要疾患の特徴、原因、経過、治療法などを理解し、その臓器に何故発生し、どのような影響が全身に及ぶかを考察する。病理学的検査が最も重要視されるのは腫瘍性疾患であり、不明な点は積極的に質問し、正確な知識を身につける。</p>					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:					
1. 基本的病変が起こりやすい臓器をあげることができる。					
2. 各臓器に特有な疾患は何か理解している。					
3. 系統的に臓器を冒す全身性疾患について述べる事が出来る。					
4. 各疾患と年齢、性、人種による差異を理解している。					
思考・判断の観点:					
1. 基本的病変が発生した結果どんな影響が全身に及ぶか説明できる。					
2. 全身性疾患の発生病理や、経過を考察できる。					
関心・意欲の観点:					
1. 病理形態学を学ぶために、病理学を復習する意欲がある。					
2. 解剖学、組織学の知識を病理形態学とを結びつけようとする意欲を示す。					
態度の観点:					
知識のまる覚えではなく、常に何故かと疑問を持ち、理解しようする意欲がある。					
成績評価方法(総合)					
定期試験(70点満点)と小テスト(3回を予定30点満点)の総合点で評価。					
教科書					
わかりやすい病理学 改訂第4版, 南江堂, 2005 年 / 岩田隆子監修, 恒吉正澄, 豊島里志, 高橋睦夫編: 南江堂, 2008					
参考書					
メッセージ					
臓器別の病変を学ぶので各臓器の形態や機能の特徴を理解していることが極めて重要。					
連絡先					
E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp, Tel/Fax: (0836) 22-2845					
オフィスアワー					
随時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700212
開設科目名	微生物検査学			単位	2単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	梅田 昭子			区分	
授業の概要					
<p>「微生物学」において病原微生物の総論について解説したので、「微生物検査学」においては、各病原微生物について、特徴、生化学的反応、起因感染症の症状・治療・予防・検査法について解説する。</p> <p>すなわち、病原微生物は種々の感染症を引き起こすが、各感染症での起因微生物について、微生物の分類学的順序に従い解説する。</p>					
授業の一般目標					
<p>各感染症ではどの微生物が起因しているか、また、その検査ではどの検体が適しており、どのような検査を行えば起因微生物が同定できるかを理解することを目的としている。また、個々の感染症における検査法のみではなく、感染症全体を把握し、その防御・治療を考慮できる能力を持つことを目的とする。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 各病原微生物の特徴と起因感染症の特徴、同定の決め手となる生化学的性状を理解する。</p> <p>思考・判断の観点: 各病原体の特徴と起因する感染症の特徴を理解することにより、感染症の診断がある程度予測でき、また防御法も考慮できる能力を養う。</p> <p>関心・意欲の観点: 自分の所属する地域・社会のみならず、日本国内ならびに世界で発生する感染症に対して深い関心を持ち、感染症への防御と予防への地域貢献およびボランティアとして働ける能力を養う。</p> <p>態度の観点: 自分の所属する地域および各地で発生する感染症に対し、適格な判断ができ、その感染症に対する予防・防御体制を迅速に行ない、地域保健に貢献できる能力を養う。</p> <p>技能・表現の観点: 自分の所属する地域および各地で発生する感染症に対し、適格で迅速な判断ができ、その感染症に対する予防・防御体制を積極的にこなうことのできる能力を養う。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末試験を中心とする。各項目終了後小テスト実施することもあります。</p>					
教科書					
<p>臨床検査学講座 微生物学/臨床微生物/岡田淳 他:医歯薬出版, 2008</p>					
参考書					
<p>戸田新細菌学/吉田真一、柳雄介 他:南山堂, 2007</p>					
メッセージ					
<p>微生物の各論は覚えることが多いので、少しずつ確実に覚えるようにしてください。復習を忘れずに行なうこと。</p>					
連絡先					
<p>内線2805 umeda@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>随時</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700213
開設科目名	医動物学			単位	2単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	梅田 昭子			区分	
授業の概要					
現在の日本は非常に衛生的になり寄生虫症は余り見られなくなってきたが、いまだにアニサキスなど食物からの寄生虫症が発症しており、また、海外旅行後に発症する例も報告されている。本授業では日本のみではなく世界でみられる寄生虫症について、種類別(原虫・吸虫・条虫・線虫)に解説し、それらを媒介する動物についても学ぶ。					
授業の一般目標					
各寄生虫症における起因寄生虫について、その形態・幼虫・虫卵の特徴、また、中間宿主・終宿主・感染ルート・ヒトにおける寄生場所を学び、その寄生虫症の特徴を理解する。また、各寄生虫症に対する予防や治療・診断法について学び、世界における寄生虫症を総合的に理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 各寄生虫症における起因寄生虫について、その形態・幼虫・虫卵の特徴、また、中間宿主・終宿主・感染ルート・ヒトにおける寄生場所を学び、その寄生虫症の特徴を理解する。また、各寄生虫症に対する予防や治療・診断法について学ぶ。					
思考・判断の観点: 世界中でどのような寄生虫症が発生しているか理解し、自分の所属する地域・社会でどのように予防すべきか考慮・判断ができる能力を養う。					
関心・意欲の観点: 世界中でどのような寄生虫症が発生しているか理解し、そのようにすれば予防できるか、撲滅できるか、新聞やテレビ等の報道に深い関心を持つ能力を養う。					
態度の観点: 国内のみならず発展途上国へのボランティア活動における寄生虫症への適格な判断と対処法を身に付ける。					
技能・表現の観点: 日々の食生活からの寄生虫感染症、および媒介動物からの寄生虫感染症を予防する能力を養う。					
成績評価方法(総合)					
期末試験、実習試験、小テストの総合評価を行なう。					
教科書					
寄生虫学テキスト／上村清他:文光堂, 2008					
参考書					
医動物学／吉田幸雄:南山堂, 2008					
メッセージ					
復習をしっかりと行なうこと。 虫卵他の画像を良く見分けられるよう、講義後に復習すること。					
連絡先					
内線2805 umeda@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
随時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700214
開設科目名	細胞診断学講義Ⅱ-2			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	尾野 緑			区分	
授業の概要					
<p>山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年次に認定試験の受験が可能です。認定試験では全般的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要です。</p> <p>後期は婦人科腺領域および甲状腺の細胞診について学びます。</p>					
授業の一般目標					
婦人科腺領域および甲状腺の基礎知識を習得しましょう。					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 婦人科腺領域および甲状腺の基礎知識を習得する。</p> <p>思考・判断の観点: 婦人科腺領域および甲状腺の基礎知識を活用することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
筆記試験で総合評価を行います。					
教科書					
～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方 第2版/西 国広;近代出版, 2007					
参考書					
<p>CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.1 婦人科」/椎名義雄・他;ユニバーサルコンピューター, 2004</p> <p>CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.4 甲状腺」/椎名義雄・他;ユニバーサルコンピューター, 2004</p> <p>細胞診用語解説集/日本臨床細胞学会;医学書院, 1996</p>					
メッセージ					
連絡先					
<p>高橋睦夫 E-mail:mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-22-2845</p> <p>上田順子 E-mail:jueda@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-22-2833</p> <p>尾野 緑 E-mail:mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-85-2853</p>					
オフィスアワー					
随時、可能です。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700215
開設科目名	細胞診断学実習Ⅱ-2			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	尾野 緑			区分	
授業の概要					
<p>山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年次に認定試験の受験が可能です。認定試験では全般的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要です。</p> <p>後期は子宮頸部扁平上皮領域、呼吸器、泌尿器を復習しながら、婦人科腺領域および甲状腺の細胞診について学びます。</p>					
授業の一般目標					
<p>子宮頸部扁平上皮領域、呼吸器、泌尿器の復習をしましょう。</p> <p>婦人科腺領域および甲状腺の基礎技術を習得しましょう。</p>					
授業の到達目標					
<p>技能・表現の観点: 子宮頸部扁平上皮領域、呼吸器、泌尿器の診断ができる。</p> <p>婦人科腺領域および甲状腺の基礎技術を習得する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーニング法を身につけるために課題を行います。 ・婦人科全般・呼吸器・泌尿器・甲状腺に関して、同定試験を行います。 					
教科書					
～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方 第2版/西 国広:近代出版, 2007					
参考書					
CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.1 婦人科」/椎名義雄・他:ユニバーサルコンピューター, 2004					
CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.4 甲状腺」/椎名義雄・他:ユニバーサルコンピューター, 2004					
細胞診用語解説集/日本臨床細胞学会:医学書院, 1996					
メッセージ					
連絡先					
尾野 緑 E-mail:mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-85-2853					
オフィスアワー					
随時、可能です。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700216
開設科目名	病態生化学 I			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	服部 幸夫			区分	
授業の概要					
<p>臨床化学は基礎編(病態検査学Ⅱ:15回)と応用編(病態検査学Ⅰ:15回)に分かれますが、「病態検査学Ⅰ」は応用編に相当します。講義はスライドで行います。スライドには説明が付けてありますので、それをじっくり読みながら、眺めると理解が進みます。シラバスにアップロードしてありますので、ダウンロードして使ってください。4年生での国試の勉強にも役立ちます。開始直後に、毎回前回学んだ部分の小試験(post-test)を行います。</p>					
授業の一般目標					
<p>臨床化学に関する一とおりの知識の獲得を目指します。医学専門用語は英語で併記しますので、英語の用語も獲得して下さい。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:基礎で学んだ生化学を土台にして、臨床化学が理解できます。血清や尿などを材料にして得られたデータの背景とその臨床的意義を理解します。</p> <p>思考・判断の観点:化学検査がどのように臨床検査に用いられているか、その意義は何かを学びます。これは、病理学や臨床医学Ⅰの知識の上に成り立っています。</p> <p>関心・意欲の観点:構造式を真近において学ぶと、一段と関心が出てきます。また、病態の解明に検査が役立つことが納得できると臨床検査が楽しくなります。</p> <p>態度の観点:「講義形式」ですが、すべてスライドで、ポイントのみを解説します。そのためには、毎回出席することが肝要です</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>出席状況、小試験と本試験の結果で判定します。</p>					
教科書					
<p>異常値の出るメカニズム 第5版/河合 忠、他:医学書院, 2008</p>					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>yhattori@yamaguchi-u.ac.jp tel & fax 0836-22-2807</p>					
オフィスアワー					
<p>いつでも結構ですが、上記で予約していただければ助かります。</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700217
開設科目名	病態生化学II			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	山城 安啓			区分	
授業の概要					
特に化学的手法によって生体試料を分析し、病態に有用なデータを提供するという臨床化学という学問領域の講義する。病態生化学 II は測定法や検査値の読み方等に重点を置くが、病態と検査の関係、異常値が出るメカニズムなども講義し臨床との関わりも学んでもらう。また、生体の動態を把握する上で必要な代謝などの生化学の内容も講義する。					
授業の一般目標					
臨床化学分野における、国家試験に合格できるだけの知識の獲得。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 国家試験合格レベル					
思考・判断の観点: 実験や研究では濃度計算等が瞬時にできなくてはならない。計算問題等で身につけてもらう。					
関心・意欲の観点: 自発的に学習					
態度の観点: 積極的に質問					
成績評価方法(総合)					
毎回前回の講義の内容に関する小テストを行う。小テスト4割、本試験6割として成績を評価する。					
教科書					
臨床検査技術学 臨床化学／菅野剛史:医学書院, 2000					
臨床検査知識の整理 臨床化学／藤田勝治:医師薬出版株式会社, 2004					
参考書					
メッセージ					
講義を聴くだけで学力はつきません。自ら勉強することでようやく身につきます。受動的ではなく積極的に勉強してください。					
連絡先					
メールアドレス:yamasiro@yamaguchi-u.ac.jp					
電話:22-2863					
オフィスアワー					
講義や会議のない時いつでも OK					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700218
開設科目名	免疫学実習			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	野島 順三			区分	
授業の概要					
<p>免疫学領域の進歩発展は目覚しく、免疫検査学にも幅広い専門知識と高度な技術が要求される。さらに移植医療の進展により、輸血・移植免疫学の専門的な検査技術の修得が必須となってきた。本実習では、免疫学および免疫検査学の講義で取得した知識をベースに代表的な免疫学検査を実習する。</p> <p>1) 免疫電気泳動法 2) 梅毒検査法(ガラス版法 or PRP カードテスト) 3) 溶解反応(CH50による補体価測定法 or ハム試験) 4) ELISA(ウイルス関連抗体 or 自己抗体 or サイトカイン) 5) フローサイトメトリー法(T・B 細胞の鑑別 or T 細胞サブセットの解析) 6) 輸血検査(ABO 式血液型・Rh 式血液型・交差適合試験・クームス試験)</p>					
授業の一般目標					
<p>免疫学および免疫検査学の講義で取得した知識をベースに代表的な免疫学検査を実習することにより、医療領域における免疫学的検査法の原理を理解し、技法を修得させる。</p> <p>1) 各種免疫電気泳動法 2) 各種梅毒検査法 3) 溶解反応(CH50による補体価測定法・ハム試験) 4) ELISA(ウイルス関連抗体・自己抗体・サイトカイン) 5) フローサイトメトリー法(T・B 細胞の鑑別・T 細胞サブセットの解析) 6) 輸血検査(ABO 式血液型・Rh 式血液型・交差適合試験・クームス試験)</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 医療領域における免疫学的検査法の原理を理解し、技法を修得する。</p> <p>思考・判断の観点: 各種免疫学的検査法に関して、その原理と臨床的意義を解説できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 実習に関して、自ら疑問点を見出し、その解決のために積極的に質問をすることができる。</p> <p>態度の観点: 予習を行って実習に望む積極的な態度を身につけ、実習で身につけた技法や知識を実習ノートに詳細に記載している。</p> <p>技能・表現の観点: 実習中、教員の質問に対して積極的に答えることができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>学期末試験の成績と実習ノートで判定する。 (ただし、学期末試験受験には2/3以上の出席が必要である)</p>					
教科書					
<p>臨床検査技術学13 免疫検査学 / 折笠道昭他: 医学書院, 2003 輸血検査の実際 : 日本臨床衛生検査技師会</p>					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
保健学科研究棟 407 号室 TEL:22-2824					
オフィスアワー					
後期 火曜日 12:40～17:40					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700219
開設科目名	免疫検査学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	野島 順三			区分	
授業の概要					
免疫学領域の進歩発展は目覚しく、免疫検査学にも幅広い専門知識と高度な技術が要求される。さらに移植医療の進展により、輸血・移植免疫学の専門的な検査技術の修得が必須となってきた。本講義では、前期過程で学習した免疫学の知識をさらに掘下げ、分子から見た免疫系(抗原および抗原-抗体反応・抗体の構造と機能・試験管内抗原抗体反応等)を解説し、疾患の診断に用いられる各種免疫学的検査法(アレルギー関連検査・感染症の免疫学的検査・自己免疫疾患関連検査・腫瘍マーカー等)や輸血・移植検査法の原理・方法を講義する。					
授業の一般目標					
1) 抗原・抗体・補体系の反応を分子レベルで理解する。 2) 試験管内抗原抗体反応の種類と原理を理解する。 2) 各種免疫学的検査法(アレルギー関連検査・感染症の免疫学的検査・自己免疫疾患関連検査・腫瘍マーカー・輸血・移植関連検査)の原理・方法を理解する。 3) 免疫系の異常による病態(アレルギー・自己免疫疾患・免疫不全など)の発症機序を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1) 抗原および抗体について解説でき、試験管内抗原抗体反応の種類と原理を説明できる。 2) アレルギー関連検査・感染症の免疫学的検査・自己免疫疾患関連検査・腫瘍マーカー・輸血・移植関連検査の種類と原理を説明できる。 3) 免疫系の異常による病態(アレルギー・自己免疫疾患・免疫不全など)の発症機序を説明できる。					
思考・判断の観点: 1) 試験管内抗原抗体反応の種類と原理を説明できる。 2) 各種疾患の診断に必要な免疫学的検査法について、その種類と原理を説明することが出来る。					
関心・意欲の観点: 授業での教員の質問に積極的に回答できる。さらに、自ら疑問点を見出し、その解決のために積極的に質問をすることができる。					
態度の観点: 予習を行って講義に望む積極的な態度を身につけ、講義でよく理解出来なかった箇所については復習をして知識を整理する。					
技能・表現の観点: 講義内容に関して、自分が理解できている部分と理解が不十分な部分を明確に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
学期末試験および小試験の成績で判定する。 (ただし期末試験受験には2/3以上の出席が必要)					
教科書					
臨床検査技術学 13 免疫検査学 /折笠道昭他:医学書院, 2003 輸血検査の実際 :日本臨床衛生検査技師会					
参考書					
一目でわかる免疫学 第4版 /田中伸幸訳 :メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2007 免疫学イラストレイテッド 第5版 /多田富雄 監訳:南江堂, 1999					
メッセージ					
講義に使用するスライド資料をシラバスにアップしているので、予習・復習に活用してください。					
連絡先					
保健学科研究棟 407 号室 TEL:0836-22-2824					
オフィスアワー					
後期 水曜日 8:40~10:10					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700220
開設科目名	形態機能学実習			単位	1単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	山田 治			区分	
授業の概要					
<p>本実習は「機能検査学実習」の基礎編に位置づけられる。生理機能学では、人の体の仕組みとその正常な働きと動態を学ぶ。これらの人体の基礎生理に基づく生体反応の中から代表的な7項目を選び、その反応を身近な機器を実際に使用し、記録をすることにより、基礎的な生理的機能を理解する。また、英語を用いた教材を通じて、生理機能の理解を深める。</p>					
授業の一般目標					
<p>?解剖学の知識を深め、その立体構造を述べることができる。?聴覚測定・視覚測定の手技を説明し実施できる。?肺機能検査の意義を説明し実施できる。?血圧・脈拍の意義を説明し正しく測定できる。?心電図の肢誘導についてその意義を説明し測定できる。?筋電図・神経伝導速度についてその意義を述べ測定できる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1. 6テーマの実習についてその原理を説明できる。2. 見学については、解剖学の立体的な器官の位置構造、名称および機能が説明できる。3. 聴覚測定・視覚測定の手技を説明し実施できる。肺機能検査の意義を説明し実施できる。4. 血圧・脈拍の意義を説明し正しく測定できる。5. 心電図の肢誘導についてその意義を説明し測定できる。6. 筋電図・神経伝導速度についてその意義を述べ測定できる。</p> <p>思考・判断の観点:1. 得られた結果の説明できる。2. 高頻度の異常を指摘できる。</p> <p>関心・意欲の観点:1. ヒトの生理機能のメカニズムに関心を持つ。</p> <p>態度の観点:1. 問題意識を持って積極的に実習に取り組むことができる。</p> <p>技能・表現の観点:1. 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>実習前に十分内容を把握して演習を行うことが重要(40%)です。実習中の積極的な態度(10%)と課題のレポート(50%)を採点して、授業評価とします。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>図書館等の生理学、解剖学の参考書を必ず読んで下さい。</p>					
連絡先					
<p>山田治:電話は0836-22-2803 E-mail は osamuymd@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700221
開設科目名	血液学			単位	1 単位
対象学生				学年	2～2
担当教員	山田 治			区分	
授業の概要					
21 世紀の血液学は、分子生物学に基づく病気の病因・病態の解明がめざましく進んでいる。それに伴い、急性前骨髄球性白血病、慢性骨髄性白血病や悪性リンパ腫の治療に、それぞれビタミンAの誘導体、チロジンキナーゼ阻害薬そして抗CD20抗体が有効であることが示されている。本講義では、これらのトピックスを含めながら、基本的な血液細胞の発生、分化・成熟、機能に始まり、各血球系の病気について、成因、診断・検査、治療及び予後についてを解説する。					
授業の一般目標					
1) 造血器細胞の産生から崩壊までの過程を知り、各血球の機能を理解する。2) 赤血球系、白血球系、止血凝固系の異常について理解し、その主要な疾患については具体的な病名を示し、診断に必要な検査を判断し、検査学的な異常を評価できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 血液細胞の造血過程を説明できる。各血球の機能を説明できる。					
赤血球の減少する疾患、増加する疾患についてその病態を説明できる。					
白血球の減少する疾患、増加する疾患についてその病態を説明できる					
血小板・凝固因子の異常を起こす疾患についてその病態を説明できる。					
思考・判断の観点: 造血臓器の正常および異常細胞を類別できる。					
赤血球系、白血球系、血小板・凝固因子系の疾患を類別し、その異常を指摘できる。					
関心・意欲の観点: 与えられた資料から、その病態を生じる疾患を検討し、疾患鑑別を討議できる。					
態度の観点: グループのメンバーと協調し、課題症例の発表に積極的に参加できる。					
技能・表現の観点: 疾病の症状、病因、診断のための検査、鑑別診断、治療について適切な根拠に基づく資料を使用できる。					
成績評価方法(総合)					
(1) 授業中に小テストを7回行う。					
(2) 課題症例についてレポートを用紙5 枚程度で作成し、提出する。					
(3) 試験を期末に1回実施する。以上を、下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たないものには、単位を与えない。					
教科書					
血液検査学第4版／古澤新平、磯部章一:医学書院, 2003					
血液細胞アトラス(第5版)／三輪史朗:文光堂, 2004					
参考書					
メッセージ					
質問した人を評価します。疑問を残さないようにしてください。					
連絡先					
時間帯は特に設定しませんが、ノックして、氏名を名乗って入室して下さい。					
オフィスアワー					
時間帯は特に設定しません。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700301
開設科目名	疫学・保健統計学			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	常岡 英弘			区分	
授業の概要					
<p>授業科目名は保健統計学であるが、環境衛生学を除いた範囲の公衆衛生学の授業である。社会医学としての公衆衛生学は、医学の中で最も変化が著しいと思われる。急性伝染病から慢性伝染病へ、AIDS や医療費の問題、少子・高齢社会の問題と社会全体の動きに左右されることが多い。国民の保健医療要求に常に的確に対応できる専門職である臨床検査技師として必要な範囲を、社会医学システムの観点から説明する。</p>					
授業の一般目標					
<p>(1)人口統計を理解する。(2)疫学の定義と方法論を理解する。(3)感染症の成立と要因、流行とサーベイランスを理解する。(4)主要感染症の分類と疫学像及び対処の仕方を理解する。</p> <p>(5)それぞれのライフサイクルにあった健康管理、保健管理システムを理解する。(6)生活習慣病の定義、特徴、現状、予防、医療費について理解する。(7)老人保健法を主とした、老人問題(痴呆性老人、寝たきり老人等)について理解する。(8)日本の社会保障制度について概要を理解する。(9)健康に関わる地域社会のしくみと保健行政の役割について理解する。(10)保健・医療との関係をふまえながら地域の福祉施策について理解する。(11)衛生統計、保健統計値を理解する。(12)基礎的な統計検定を理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:(1)人口統計を説明することができる。(2)疫学の定義と方法論を説明することができる。(3)感染症の成立と要因、流行とサーベイランスを説明することができる。(4)主要感染症の分類と疫学像及び対処の仕方が説明することができる。(5)それぞれのライフサイクルにあった健康管理、保健管理システムを記述することができる。(6)生活習慣病の定義、特徴、現状、予防、医療費について説明できる。(7)老人保健法を主とした、老人問題(痴呆性老人、寝たきり老人等)について説明できる。(8)日本の社会保障制度について概要を述べることができる。(9)健康に関わる地域社会のしくみと保健行政の役割について述べることができる。(10)保健・医療との関係をふまえながら地域の福祉施策について述べることができる。(11)衛生統計、保健統計値を計算でき、説明することができる。(12)基礎的な統計検定が出来る。</p> <p>思考・判断の観点:わが国の公衆衛生学的現状を説明できる。</p> <p>関心・意欲の観点:公衆衛生学的問題に積極的な関心を持つ。</p> <p>態度の観点:日常生活の中で公衆衛生学的問題について主体的に考えることができる。</p> <p>技能・表現の観点:統計的検定をするために、Excel を使用することが出来る。</p>					
成績評価方法(総合)					
主に定期試験の成績を主にするが、授業態度も加味する。					
教科書					
公衆衛生学／眞野喜洋:医歯薬出版、2006					
参考書					
国民衛生の動向／厚生統計協会:厚生統計協会、2008					
メッセージ					
連絡先					
0836-22-2854					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700302
開設科目名	救急看護学			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
緊急に対応を迫られる救急医療の概要と救急医療システムを解説し、救急状況にある患者とその家族の総合的理解と医療職者の医療および看護活動について、必要な知識と方法を教授する。また、救急医療で遭遇する事の多い疾患・外傷等について解説する。					
授業の一般目標					
1、救急医療の概要と救急医療システムを理解できる。2、救急状況にある患者とその家族の総合的理解と医療職者の医療および看護活動(災害医療を含む)について理解できる。3、救急医療で遭遇する事の多い疾患・外傷などの病態とケアについて理解できる。4、基本となる救命技術を身に付ける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1、救急医療の概要と救急医療システムについて説明できる。2、救急状況にある患者とその家族について説明できる。3、救急医療にかかわる医療職者および看護活動(災害医療を含む)について説明できる。4、救急医療で遭遇する事の多い疾患・外傷などの病態とケアについて説明できる。5、心肺蘇生法について説明できる。					
思考・判断の観点: 1、救急患者のアセスメント能力を高めることができる。2、救急医療に関する諸問題を考えることができる。					
関心・意欲の観点: 1、救急医療の理解を通して、救命への関心を高めることができる。					
技能・表現の観点: 心肺蘇生法を実施することができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験、レポート、出席状況					
教科書					
系統看護学:救急看護学/山勢博彰:医学書院, 2006					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700303
開設科目名	保健福祉行政論			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	常岡 英弘			区分	
授業の概要					
保健医療福祉行政に関する法令や仕組、問題点および今後の方向性を説明する。					
授業の一般目標					
保健福祉医療制度、衛生行政、保健所の機能、社会保障制度、医療制度、保健福祉行政などについて理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 保健福祉医療制度、衛生行政、保健所の機能、社会保障制度、医療制度、保健福祉行政を理解する。					
思考・判断の観点: わが国の保健医療福祉の現状を述べることができる。					
関心・意欲の観点: 保健医療福祉に関心を高めることができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験が主であるがレポートや授業態度も考慮する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
0836-22-2854					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700304
開設科目名	科学論文演習			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	石川 敏三			区分	
授業の概要					
<p>医学・医療の著しい進歩には、科学的思考や資料からの情報生理を的確に行う必要がある。英語資料も含め、総説、原著、症例などを身近に読みこなし、概要の理解をさせる。次にデータを元に論文の作成を細かく解説し、演習する。特に論理的でわかりやすい文章の表現を指導する。多く読み慣れること、あたえられたデータから解釈して考察する方法、これらの過程における論理適時術と展開を如何にするか、教授する。</p>					
授業の一般目標					
<p>英語資料の内容理解が出来る。先端研究に追従できる素養が身に付く。実際、データの解釈から如何に背景の情報を関連させ、その意義を考えるか、しかも、論理的にするかが身付く。</p>					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 科学論文の内容・意味や構成がわかる。					
思考・判断の観点: 論理的展開が分かる。論文の質評価やその活かし方が分かる。					
関心・意欲の観点: 先端研究や教務ある情報を通読できる。善し悪しの基準やその見極めるが出来る。					
態度の観点: 文献検索、仮説立案、概要把握などの演習に習熟する					
成績評価方法(総合)					
期末試験で評価。					
教科書					
科学論文の書き方／B Gustavii					
参考書					
メッセージ					
邦文にしても英文にしても、より多くの論文や症例報告などを読み習慣を付けて下さい。 なると興味がいっき、先端研究を知ることや科学的思考が発展してくると思っております。					
連絡先					
22-2888					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700305
開設科目名	基礎看護演習			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	稲垣 順子			区分	
授業の概要					
<p>疾病や障害により日常生活行動に援助を必要とする様々な発達段階にある対象に対し、安全・安楽・自立・能率を踏まえた看護援助に関する視点を習得し、演習を通して検査時に有用な看護技術の基礎を教授する。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病や障害により生活行動に援助を必要とするさまざまな発達段階にある対象を理解する。 2. 安全・安楽・自立・能率を踏まえた看護援助に関する視点を習得する。 3. 演習を通して対象が日常生活を送るために必要な援助や検査時の援助の基本を習得する。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1.様々な発達段階にある対象や疾病や障害により日常生活を送るために必要な援助の方法について基本を理解し、その知識を基に検査時に必要な援助方法を説明できる。</p> <p>思考・判断の観点:1.看護援助を行うとき、対象を理解し、安全・安楽・自立・能率を考慮することができる。</p> <p>2.実際に行う看護技術の行動の根拠を考えながら、実施する。</p> <p>関心・意欲の観点:1.看護技術に必要な知識を調べ、技術の習得を試みることができる。</p> <p>態度の観点:1.実際の場面を想定しながら、取り組むことができる。</p> <p>技能・表現の観点:1.検査時や日常生活を送るために必要な基礎的な看護技術を実施できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
授業や演習時の取り組み状況や参加度、レポートを通して評価する。					
教科書					
看護技術を根拠からマスターしよう／吉澤理:医学芸術社, 2004					
参考書					
<p>実戦的看護マニュアル／川島みどり:看護の科学社, 2002</p> <p>看護技術プラクティス／竹尾恵子:学研, 2004</p>					
メッセージ					
生体検査の援助時役に立つ看護技術を網羅的に教授します。					
連絡先					
<p>Tel/Fax: (0836) 22-2851</p> <p>E-mail: jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
月曜日 16:00～17:50					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700306
開設科目名	発生遺伝学演習			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	山城 安啓			区分	
授業の概要					
<p>検査遺伝学には分子遺伝学、細胞遺伝学、分子細胞遺伝学がある。このうちの細胞遺伝学および分子細胞遺伝学はさまざまな遺伝現象を細胞すなわち染色体レベルで研究する遺伝学分野である。その理解のためには、染色体に関する知識のみならず、ヒトの遺伝の仕組みを理解することが重要である。本講義では細胞遺伝学・分子細胞遺伝学に重点を置き、染色体の構造・機能および疾病との関係を理解するとともに、広くヒト遺伝医学の知識を習得することを目標とする。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 染色体とDNA・遺伝子との関係を理解し、説明することができる。 2. 染色体異常と単一遺伝子病の違いを説明することができる。 3. 染色体検査法について理解し、説明することができる。 4. 染色体の命名法、記載法について理解し、説明することができる。 5. 染色体分染法について理解し、説明することができる。 6. 染色体核型について理解し、記載することができる。 7. 染色体異常について理解し、説明することができる。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:リンパ球を培養するための、簡単な細胞培養の技術の習得。染色体標本作成の技術の獲得。今回は代表的なGバンドを用いた染色体分類の技術の獲得。</p> <p>思考・判断の観点:パソコンを使って、染色体を分類する。そのための、それぞれの染色体の特徴の把握・理解。</p> <p>関心・意欲の観点:自分のサンプルであるため、時間が許す限り観察して欲しい。</p> <p>態度の観点:積極的に標本作製したり、染色をしたり、標本観察をして欲しい。</p> <p>技能・表現の観点:美しい染色体標本作成し、観察することができる。</p> <p>最終的に分類した自分の染色体と症例のレポートを提出してもらうので、それが出来るまでの技術と目を養う</p>					
成績評価方法(総合)					
出席とレポート					
教科書					
臨床検査学講座 遺伝子・染色体検査学／奈良信夫他: 医師薬出版株式会社, 2002					
参考書					
メッセージ					
TAと一緒に指導していきますが、染色体分析のプロではないので、戸惑うことがあるとは思いますが、自分の染色体を見てみて分類して楽しんで下さい。					
連絡先					
メールアドレス:yamasiro@yamaguchi-u.ac.jp					
電話:22-2863					
オフィスアワー					
講義／実習と会議がなければいつでもOK					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700307
開設科目名	病理検査学実習			単位	2 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	高橋 睦夫			区分	
授業の概要					
<p>病理検査学実習では病理診断に必要な不可欠な病理組織学的検査法の基礎項目を実習する。病理組織標本による診断が治療の基盤となっていることを理解し、たうえて、自らの手で美しい組織・細胞診標本を作製する。作製した標本を顕微鏡にて観察し、種々の病理学的所見を理解することにより、病理組織学や細胞診の基本的技術と知識を習得する。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な病理組織像が理解・把握できる。 2. 基本的な固定液の組成を説明できる。 3. 組織を切りだし、HE染色標本が作製できる。 4. 標本作製器具の安全な取扱いができる。 5. 主要な特殊染色標本を作製し、その意義を説明できる。 6. 基本的な良性細胞と悪性細胞が鑑別できる。 7. 光学的組織標本と電顕的標本作製について対比説明できる。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 1. 病理組織標本の臨床的意義を理解している。 2. 病理組織標本の作製方法を理解している。 3. 細胞診の意義と、観察方法を理解している。</p> <p>思考・判断の観点: 1. 病理組織標本がどのように臨床に应用されているかを考察できる。 2. 細胞診が何故必要かを考察できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 複雑な病理標本作製過程に関心が高く、意欲を持って取り組んでいる。 知識向上のための質問ができる。</p> <p>態度の観点: 真面目に、積極的に、集中して実習に取り組んでいる。</p> <p>技能・表現の観点: 美しい標本が作製できる。 基本的な細胞や組織が理解・認識できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
実習前試験、実習終了時試験および定期試験の総合評価。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
高橋研究室: (0836) 22-2845, E-mail: mtsuo@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
高橋研究室: (0836) 22-2845, オフィスアワー: 随時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700308
開設科目名	臨床細胞診断学実習 I-2			単位	2単位
対象学生				学年	3~3
担当教員	尾野 緑			区分	
授業の概要					
<p>山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年次に認定試験の受験が可能です。認定試験では全般的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要です。</p> <p>後期は1~3年生前期で学んだ領域を復習しながら、リンパ節・その他の細胞診について学びます。</p>					
授業の一般目標					
<p>婦人科、呼吸器、泌尿器、消化器、体腔液、乳腺、甲状腺の復習をしましょう。</p> <p>リンパ節・その他の基本知識と基本技術を習得しましょう。</p>					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: リンパ節・その他の基本知識を習得する。					
思考・判断の観点: リンパ節・その他の基本知識を活用することができる。					
技能・表現の観点: 婦人科、呼吸器、泌尿器、消化器、体腔液、乳腺、甲状腺の診断ができる。					
リンパ節・その他の基本技術を習得する。					
成績評価方法(総合)					
細胞診専門コース認定試験で総合評価を行います。					
教科書					
～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方 第2版/西 国広:近代出版, 2007					
参考書					
CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.5 リンパ節・その他」/椎名義雄・他;ユニバーサルコンピューター, 2004					
細胞診用語解説集/日本臨床細胞学会:医学書院, 1996					
メッセージ					
細胞診専門コース認定試験合格に向けて、頑張りましょう。					
連絡先					
高橋睦夫 E-mail:mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-22-2845					
上田順子 E-mail:jueda@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-22-2833					
尾野 緑 E-mail:mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-85-2853					
山本美佐 E-mail:yamamoms@yamaguchi-u.ac.jp TEL/FAX:0836-22-2848					
オフィスアワー					
随時、可能です。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700309
開設科目名	感覚機能検査学			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	石川 敏三			区分	
授業の概要					
<p>感覚器の解剖・生理学的特徴、それらの機能の検査法、疾患の診断法を教授する。</p> <p>感覚神経の基礎及び痛覚系:</p> <p>眼底検査:</p> <p>聴力・平衡機能検査:</p>					
授業の一般目標					
感覚器の基礎的な構造・機能を基盤にその機能検査法、診断法が理解できる					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 様々な感覚器の仕組みと働きが理解できる。また、その機能障害でもたらされる疾患が理解できる。					
思考・判断の観点: 視覚、聴覚、皮膚感覚、および、痛覚について、その機能の特性と意義が分かる。					
関心・意欲の観点: 感覚がとくに自律神経系と相互に密接に繋がっていることなどに関心がもてる。					
態度の観点: 感覚機能の適切な理解により、様々な検査法の特徴、適性がわかる。					
技能・表現の観点: 様々な感覚機能検査が適切に行える。					
成績評価方法(総合)					
期末試験で評価する。但し、問題数は担当教員の講義数に比例する。					
教科書					
臨床検査学講座「生理機能検査学」: 医歯薬出版					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
22-2888(石川)					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700310
開設科目名	画像検査学実習			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	松田 昌子			区分	
授業の概要					
神経機能、呼吸機能、循環機能の検査をさせ、基礎的検査法の意義・目的を理解させ、同時に検査手技を修得させる。					
授業の一般目標					
1)それぞれの検査の目的、意義、結果について説明できる 2)基礎的な検査手技を修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1)それぞれの検査法の目的、意義、結果について説明できる 2)提示された異常データの判読ができる。					
思考・判断の観点: 実習で得られたデータの意味・問題点を考察し、また、アーティファクトの解決方法を説明できる。					
関心・意欲の観点: その日の実習がどのような疾患に応用されるのか関心を持っている。					
態度の観点: 1)積極的に実習に関わる 2)同じグループのメンバーと検者・被検者の関係で協調できる。					
技能・表現の観点: 各検査の手技を習得する。					
成績評価方法(総合)					
レポート、実技試験および筆記試験により総合的に評価する。規定の出席日数に足りない者は不可とする。					
教科書					
生理機能検査学／大久保善朗他:医歯薬出版, 2003					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
松田:0836-22-2832 [matsudam@yamaguchi-u.ac.jp]					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700311
開設科目名	機能検査学実習			単位	2単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	松田 昌子			区分	
授業の概要					
神経機能、呼吸機能、循環機能の検査をさせ、基礎的検査法の意義・目的を理解させ、同時に検査手技を修得させる。					
授業の一般目標					
1)それぞれの検査の目的、意義、結果について説明できる 2)基礎的な検査手技を修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1)それぞれの検査法の目的、意義、結果について説明できる 2)提示された異常データの判読ができる。					
思考・判断の観点: 実習で得られたデータの意味・問題点を考察し、また、アーティファクトの解決方法を説明できる。					
関心・意欲の観点: その日の実習がどのような疾患に応用されるのか関心を持っている。					
態度の観点: 1)積極的に実習に関わる 2)同じグループのメンバーと検者・被検者の関係で協調できる。					
技能・表現の観点: 各検査の手技を習得する。					
成績評価方法(総合)					
レポート、実技試験および筆記試験により総合的に評価する。規定の出席日数に足りない者は不可とする。					
教科書					
生理機能検査学／大久保善朗他:医歯薬出版, 2003					
参考書					
メッセージ					
予習をしっかりとってください。					
連絡先					
松田:0836-22-2832 [matsudam@yamaguchi-u.ac.jp]					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700312
開設科目名	血液検査学実習			単位	2 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	山田 治			区分	
授業の概要					
血液学、血液検査学で学んだ知識を、実際の検体(血液)を使用して検査技術を習得する。次に病気を診断するための検査方法とその結果を分析し、血液疾患の診断へと進めていく。					
授業の一般目標					
血液検査項目は、?血球計測検査、?細胞形態鑑別検査、?凝固・線溶系検査に大別される。これら一つ一つの技術を習得し、結果解析、診断へと関連づけて学習する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 各実習内容の原理を説明できる。					
2. 各検査間の関連を説明できる。					
思考・判断の観点: 1. 実習の結果を判断できる。					
2. 様々な疾患における各実習の異常発生メカニズムを指摘できる。					
関心・意欲の観点: 1. 状況に応じて適切に実習するように心がける。					
2. 検査の手技に関心を持ち実施できる。					
態度の観点: 1. 問題意識を持ち積極的に取り組むことができる。					
2. 精度の高い検査が実施できる態度を身につける。					
技能・表現の観点: 1. 検査結果を考察し、文章や口答で適切に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
実習態度の評価は、各実習項目は実施に対する積極性、実習結果の問題点を教員と検討する態度および実習後の整理整頓の態度をチェックする。期末試験としては、実習項目の理解度を paper test で評価し、到達度を実技試験で評価する。					
教科書					
血液細胞アトラス第5版／三輪史朗、渡辺陽之輔共著: 文光堂, 2004					
血液細胞学第4版／古澤新平、磯部享一: 医学書院, 2003					
参考書					
メッセージ					
実習中に疑問があればすぐに教員に質問する。疑問を持ったまま過ぎないこと。					
連絡先					
山田治: 電話は 0836-22-2803、メールは osamuymd@yamaguchi-u.ac.jp					
岡野こずえ: 電話は 0836-22-2837、メールは kozue@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp					
山本美佐: 電話は 0836-22-2853、メールは yamamoms@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700313
開設科目名	臨床医学			単位	2 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	市原 清志			区分	
授業の概要					
<p>最初に疾患別症例データベースに基づいて、主要な臨床検査値がどのような病態で変動するかを整理する。その後、剖検症例を中心に臨床検査データの変動がどのような臨床経過と関連しているかを多数の症例で学ぶ。この方式による、臨床検査診断の学習方式は、Reversed Clinicopathological Conference(RCPC)として知られ、簡単な臨床経過の記録と検査経過表から死亡までの病状の変化を、様々な可能性を想定し推論を行う。そして、最後に症例検討会が開催され、詳細な臨床経過と剖検で得た病理所見(実病態)の開示を受け、行ってきた推論の妥当性を検証する。本講義も、後半は RCPC 方式で、(1)あらかじめ与えられた課題症例の検査データからその病態の推論を行い、(2)次の授業で発表し、その後、(3)実病態の提示を受ける、という形式で進める。なお、最後の 2 回の授業は、病棟実習にそなえ、主な疾患の典型症例のカルテを閲覧し、その記載内容の見方と臨床検査の実診療での意義を学習する。</p>					
授業の一般目標					
(1)主要な検査値の病態変動の要因を列挙できる (2)主要な疾患の典型症例の臨床所見と検査所見との関連性を知り、臨床検査の診断的意義を理解している					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 臨床検査値の変動要因(生理的変動と病態変動)をよく理解している。推定される疾患の病態的特徴(疫学・病因・臨床所見・検査所見・治療法・予後)をよく理解している					
思考・判断の観点: 臨床像と臨床検査値の組み合わせから適切な推論を行える。					
技能・表現の観点: 与えられた症例について、検討した結果をわかりやすく発表できる					
成績評価方法(総合)					
知識と判断(診断)力を問うため、毎回授業の前に小テスト行う。 出席は欠格条件、小テスト(30%)、定期試験(70%)……受験には 2/3 以上の出席が必要					
教科書					
参考書					
メッセージ					
病気への関心を高め、実際に臨床検査が病気の診断にどのように使われるかを実践的に学習する大切な科目ですので、意欲的に取り組んで下さい。					
連絡先					
0836-22-2884					
オフィスアワー					
9:00-18:30					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700314
開設科目名	検査疫学演習			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	市原 清志			区分	
授業の概要					
<p>疫学とは、個々の患者が示す病態情報に注目数ではなく、集積した症例から、集団としての病気の振る舞いを調べ、そこから病気の原因や予防策を導く学問である。検査疫学では、大規模な臨床検査情報をデータマイニング技術を駆使して、さまざまな観点でデータを整理し、集団としての検査値の振る舞いから、臨床診断や予後予測のかかわる情報を抽出する技術が要求される。実際には、臨床検査システムから得た情報や、健診検査情報をもとに、各種の集団としての病態検査値がどのように振る舞うかを、さまざまな角度から分析するための情報科学的方法論を学ぶ。これらの学習過程を通して、生きた医療情報の解析技術と判断力を養う。</p>					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・疫学調査情報から、情報技術と統計解析技術を駆使して、検査診断論理を導いたり、疫学的知識を得るための方法論を理解している。 ・大規模で複雑な日常検査情報、健診検査情報をデータマイニング技術を使って編集し、意味のある疫学情報を取り出せる。 ・複数の検査法の診断的有用性を比較できる。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 臨床検査の診断的有用性を評価する観点を理解している。組み合わせ診断の必要性とその論理を理解している。</p> <p>思考・判断の観点: 検査値に基づいて病態診断を行う基礎的な思考能力を持っている。</p> <p>関心・意欲の観点: 検査診断の威力を理解し、その基礎となる情報技術を面白いと感じて演習に取り組んでいる。</p> <p>態度の観点: 検査診断学の威力を理解し、その技術を面白いと感じて演習に取り組んでいる。</p> <p>技能・表現の観点: データベース言語 SQL を自由に使って、様々な検査疫学的な知識を導ける。</p>					
成績評価方法(総合)					
全授業に出席し演習を行えば合格。課題のレポートの成績で秀・優・良・可を区別。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
データベースに関する基礎知識と SQL 文を処理する技術が要求されますので、受講は、すでに検査情報管理学を履修した人に限定されます。					
連絡先					
0836-22-2884					
オフィスアワー					
9:00-18:30					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700315
開設科目名	臨床病理学			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	服部 幸夫			区分	
授業の概要					
<p>「異常値の出るメカニズム」(医学書院)を読む。これに関する問題集を初日にシラバスよりダウンロードして貰う。問題集にはポイントが込められているので、それにしたがって、教科書を学習する。授業では図表を中心に簡単に教科書の説明をする。毎回、小テストで学習効果をチェックし、また小テストの解説をしながら、自己採点をする。小テストの前に問題集で分からなかった箇所の質問を受ける。</p>					
授業の一般目標					
問題集の背景に込められている知識を、教科書から獲得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 検査値の背景をなす病態の理解と知識を獲得する					
思考・判断の観点: 検査値はそれだけ単独で存在するのではなく、病態を反映して初めて意味を持つことを理解して、検査の意味を思考する。					
関心・意欲の観点: 検査の先にある病態との関わりに関心を持つ。					
態度の観点: 学習は基本的に自分の主体的な意志によって効果的となる。自ら学ぶとする態度で臨む。					
技能・表現の観点: ある疾患、病態につき、どのような検査がそれぞれどういう意味を持って存在しているのかを表現できる。					
成績評価方法(総合)					
教科書を読むことによって、主体的学習が出来ます。問題集はそれを助けます。					
国試に直結しているので、真面目に学習する。					
教科書					
異常値の出るメカニズム 第5版/河合 忠、他:医学出版, 2008					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yhattori@yamaguchi-u.ac.jp					
tel & fax 0836-22-2807					
オフィスアワー					
出来れば上記で予約をお願いします。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700316
開設科目名	臨床病態学演習			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	服部 幸夫			区分	
授業の概要					
<p>1) 英文の症例集より、1症例ずつを検討する。英文問題が付いているので、その問題を解きながら、正解を思考する。それを皆の前で発表する。</p> <p>2) 簡単な解説を教員が行う。</p> <p>3) 前回の小テスト(英語で出題) および中間テスト(英語で出題)を行う。</p>					
授業の一般目標					
<p>1) 症例の病態で検査がどのように役立っているのかを理解する。</p> <p>2) 医学の専門用語(英語)を獲得し、カルテが読めるようになる</p>					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 具体的な症例を通して、前期に「臨床病理学」で学習した検査値および病態の意味を理解する。					
思考・判断の観点: 総合的検査データ(検体検査、生理検査、画像、組織も含む)から病態を推測、解釈する。					
関心・意欲の観点: 検査データとおとした病気、病態の把握に興味を持つ。医学の専門用語(英語)を獲得し、カルテが読めるようになる意欲を持つ。					
態度の観点: 検査関係のプロとして、特に「チーム医療」を支える人材には必須の科目であるので、真摯に臨む。					
技能・表現の観点: 発表形式とするので、きちんと病態を表現できる技能を身につける。					
成績評価方法(総合)					
分量が多いので、前半、後半の2期に分けて評価し、その合計で最終評価を行う。					
1) 毎回、前の授業の症例の post-test (英語で出題)を行う。半期の post-test の合計で 60%以上獲得した者は本試験(中間試験あるいは期末試験)を免除する					
2) 本試験(中間試験、期末試験、両方とも英語で出題)を行う。免除者も受験可能。その際、免除者は成績の良い方を評点として採用する。					
3) 最終評価には、発表評価点、出席点が変わる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yhattori@yamaguchi-u.ac.jp					
tel & fax 0836-22-2807					
オフィスアワー					
Please contact me in advance.					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700317
開設科目名	検査管理学			単位	1単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	常岡 英弘			区分	
授業の概要					
関係法規: 臨床検査技師のための法律および医療従事者に関わる各種法律について解説する。精度管理: 3年前期で学んだ検査精度管理学の発展として、臨床検査の各部門で、日常どのような精度管理の工夫が行われているかを学ぶ。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> 臨床検査技師に関わる法規の主な内容とその意味を理解している 臨床検査の標準化・精度の現状を理解し、将来の方向性がわかる 検査の現場で、日常検査の精度管理を実践できる 検査の技術的評価法を理解し、実際の基礎検討のデータを用いてその評価を行える 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 検査技師に関する法律を一通り理解している。また臨床検査の精度を定量的な評価ができる。臨床検査の精度や安全性に問題をきたす要因について十分な知識を持っている。					
思考・判断の観点: 検査の精度管理の不備や検査過誤がどのような影響を持つかを考えることができ、計測値の扱いに関してさまざまな状況で正しい判断を行える。					
関心・意欲の観点: 検査精度管理および管理法に興味をもてる。					
技能・表現の観点: 臨床検査技師の法規および各精度管理法について説明できる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験で行うが授業態度も考慮する。					
教科書					
関係法規/佐藤乙一: 医歯薬出版, 2006					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
0836-22-2854					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700318
開設科目名	実験動物学			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	石川 敏三			区分	
授業の概要					
<p>この病気の理解とその治療において実験動物の存在は必須である。各種生体試料や組織票本採取に加え、最近では遺伝子改変アニマルによるさらなる疾患の解明が成されている。ここでは、動物の利用における倫理を教授し、微生物や遺伝的統御の重要性、さらに医学研究におけるさまざまな利用を解説する。</p>					
授業の一般目標					
<p>1)実験動物の愛護や倫理が身に着く。 2)動物を用いた実験に携えるよう、飼育条件、麻酔、手術、ケアなどの取り扱いが身に着き、 3)トランスゼニックや疾患モデル作成の基本が身に着く。</p>					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 医学の発展における動物の関わり、動物愛護					
思考・判断の観点: 飼育条件(遺伝的、微生物学的制御)と繁殖など					
関心・意欲の観点: 神経研究における基礎研究の実際(1)					
態度の観点: 神経研究における基礎研究の実際 (2)					
技能・表現の観点: 疾患モデルについて					
その他の観点: GLP 基準による研究とは(1)					
成績評価方法(総合)					
期末試験で評価する。					
教科書					
最新実験動物学／前島一俣、笠井憲雪編集					
参考書					
メッセージ					
生命科学関連の企業や進学を検討している学生は、是非参加ください。思考視野の広がりや現場の実践も伝えたいと思います。					
連絡先					
22-2888					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700319
開設科目名	発生遺伝学			単位	1 単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	服部 幸夫			区分	
授業の概要					
<p>検査遺伝学には分子遺伝学、細胞遺伝学、分子細胞遺伝学がある。このうちの細胞遺伝学および分子細胞遺伝学はさまざまな遺伝現象を細胞すなわち染色体レベルで研究する遺伝学分野である。その理解のためには、染色体に関する知識のみならず、ヒトの遺伝の仕組みを理解することが重要である。本講義では細胞遺伝学・分子細胞遺伝学に重点を置き、染色体の構造・機能および疾病との関係を理解するとともに、広くヒト遺伝医学の知識を習得することを目標とする。</p>					
授業の一般目標					
<p>染色体レベルでの発生、その障害に関して、ある程度の知識を獲得する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 遺伝子異常を、染色体から DNA レベルに至るまで理解できること</p> <p>思考・判断の観点: 遺伝学的観点から見て、染色体や DNA を考えることができる。</p> <p>関心・意欲の観点: 疾患を踏まえた染色体からの遺伝子異常を学ぶので、実際の臨床に即した内容となっている。臨床に興味を持った技術者となる意欲を持って欲しい</p> <p>態度の観点: 遺伝子異常の理解と処し方を真摯に学んで欲しい。また、遺伝子異常を有する患者さんやそのご家族の気持を認識し、不当な差別を排除すべく、科学的に説明できるようになって欲しい。</p> <p>技能・表現の観点: ここでは、主に実質的な理解が主となる。染色体の分析法の実際は、「発生遺伝学演習」(選択)で、技術を獲得する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>試験、出席率による(単位認定の最低条件:総授業数の 2/3 以上の出席)</p>					
教科書					
<p>「一目で分かる臨床遺伝学」/古関明彦 監訳:メディカルサイエンス・インターナショナル, 2004</p>					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700402
開設科目名	国際看護学			単位	1 単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	TURALE SUSAN			区分	
授業の概要					
This subject consists of seven classes held in the Research and Education building. They are 90 minutes each.					
授業の一般目標					
The goal of this subject is to enable Japanese students of nursing to learn about international nursing. This is help to improve nursing practice and the health of people through better understanding of the international community of nursing and health care, and its implications for Japanese nursing.					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: Provide a definition of international nursing, its purposes and challenges as globalization increases its effects					
Demonstrate an understanding of selected international nursing and health organizations, their structures and goals including Japan's nursing structure, organization, education and issues in the context of a global workplace					
思考・判断の観点: Critically analyze specific international nursing issues such as the global shortage of registered nurses; the education and training of nurses to ensure a competent workforce; and the development of nursing standards and competencies					
態度の観点: Demonstrate a willingness to learn by actively participating in seminars, directed readings, internet searches, classroom discussion and group work					
技能・表現の観点: Demonstrate new knowledge and critical thinking skills by passing brief papers, and a final examination					
成績評価方法(総合)					
ASSESSMENT					
Final gradings will be assessed by one individual and one group assignment.					
Gradings: S: 90-100%; A: 80-89%, B: 70-79%, C: 60-69%, and D: Fail Grade Below 60%					
If you fail either of your assignments the decision to give a compensatory rewrite of any assignments rests with the Professor taking the subject. It is not automatic that this is given. You must pass both your assignments to pass International nursing.					
Assignment 1 (40 marks):					
Working with another person, make a poster about a topic that is related to international nursing practice. Choose from: The effects on nursing practice of technology: socio-economic; political influences; ageing; AIDS; or multi-cultural populations of a country					
1. Your poster must contain words describing the main points about the issue, and some pictures/design to make it interesting.					
2. You have 5 minutes to present your poster.					
3. You must also hand in one double space page about your poster and give at least 5 different references from journals or reliable sites on the internet.					
Assignment 2 International Perspectives on nursing or education INDIVIDUAL work (60 marks)					
Do some research on the internet and in journal articles. Write your assignment and present it to the class on a powerpoint presentation					
1. Choose a country (not Japan). All students must do a powerpoint presentation on a different country.					
2. Please include					
a. A map of the country					
b. The most accurate number of registered nurses, registered midwives and any other types of nurses that are regulated (like LPNs Licensed Practical Nurses)? find the most up to date information.					
c. Draw a diagram to show the different ways a nurse can be educated in that country so that they can become a registered nurse (eg nursing school, college, university, hospital course, etc. and the level of education for registration, eg. Certificate, diploma, degree)					
d. Give Information about registered nurse practicing certificate in that country: Are there practicing certificates? How often does it have to be renewed?					

What are the important facts about registration that a nurse has to be aware of in that country?

- e. Include any other important facts in the history or development of nursing in that country that you think are really interesting or different to your experience in Japan.
- f. List the major health problems in the country.

Your referencing in both assignments has to be accurate. Give the author and year on the individual slide and the full reference on the last slide. Write the references of author and year on poster and the full reference on the handout sheet.

Journal Article:

Jones, K. (2007) The nursing profession today. Nursing Outlook, 28: 233-256.

Internet:

National Union of Nurses Associations., 2007. Nurses' statistics. Retrieved May 1, 2008 from:
<http://www.nurse.org.tw/km-master/ezcatfiles/cust/img/img/9702.xls>.

Text Book:

Maxwell, N., 1984. From Knowledge to Wisdom. Blackwell, New York

教科書

参考書

メッセージ

The responsibilities of students:

1. Every student is expected to undertake required readings/work on the class topic before each class (see schedule).
2. Students are expected to attend all classes: Absences of three (3) or more classes will result in an automatic Fail Grade (D); Absences for any class requires emergency or medical doctor certificate of sickness.
3. Students should never copy of someone else's work as this may result in a Fail Grade. The only exception to this is papers developed in group assignment work but direct quotes or ideas from other authors must always be referenced.

連絡先

Professor Susan Turale,
Subdivision of Fundamental Nursing,
Room 304, Faculty of Health Sciences Building.
Telephone (0836) 22-2138.
Email: sturale@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1052700403
開設科目名	応用薬理学			単位	1 単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	石川 敏三			区分	
授業の概要					
<p>医療の進歩に伴い、治療における適切な合成薬、伝承薬他の目まぐるしい開発と、その半面で要求される安全性、治療域などの課題が存在している。本講義では、動的薬理学、薬効力学、行動薬理学を中心に解説する。さらに、その展開として薬物の開発過程とその評価系、特に動物をもちいた戦略の進め方及び評価系の実際と課題を教授する。生命科学の広い研究、開発に従事できる基礎知識を理解させる。</p>					
授業の一般目標					
<p>1) 薬物治療における適切な合成薬、伝承薬他の開発過程と毒性安全性試験が分かる。 2) 動的薬理学、薬効力学、行動薬理学の基礎が理解できる。 3) 薬物の評価系、特に動物をもちいた戦略の進め方及び評価系の実際と課題が理解できる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 薬物の合成、生体内移行、有効量(治療) および薬物治療法の基礎が理解できる 思考・判断の観点: 開発のノウハウが分かる。また生体移行と治療効果の関係が分かる。 関心・意欲の観点: 薬物療法の実際とその課題がわかる。 態度の観点: 薬物治療法における理論と実際が分かる。 技能・表現の観点: 創薬や薬理効果の評価の実際が分かる。</p>					
成績評価方法(総合)					
試験及び課題を総合させ、評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
22-2888					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1053500305
開設科目名	老年看護学			単位	2単位
対象学生				学年	3～3
担当教員	堤 雅恵			区分	
授業の概要					
<p>高齢者一人ひとりに対し、対象者のもてる力を引き出し、健康レベルや QOL を維持・向上するための看護を実施するには、豊富な知識と的確な判断力・実践力が必要である。この科目では、高齢者の一般的な特性および特性に応じた看護のあり方や具体的な方法を学んだ上で、個々の高齢者の看護を実践する力を養うための看護過程演習を行う。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の一般的な特性と老年看護における看護の方法の基本について知る。 2. 高齢者とその家族の特性を理解した上で、個々の対象者の維持・向上を目指した看護について考える。 3. 高齢者に起こりやすい種々の症候や日常生活障害に応じた看護のあり方と方法について理解する。 4. 高齢者の看護過程の特徴や具体的方法を理解し、実践する。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1. 高齢者の一般的な特性と老年看護における看護の方法の基本について説明できる。 2. 高齢者に起こりやすい種々の症候や日常生活障害に応じた看護のあり方と方法について説明できる。 3. 高齢者を支援する保健・医療・福祉システムの目的・機能について、また、それらが個々の高齢者に対してどのように機能しているかを例をあげて述べることができる。</p> <p>思考・判断の観点:1. 高齢者とその家族に対し、健康レベルや QOL の維持・向上の視点から、対象者の特性に応じた看護のあり方と具体的方法について考えることができる。 2. 高齢患者の事例について、看護過程を展開することができる。 3. 保健・医療・福祉チームの一員の立場から、高齢者ケアにおける看護職の役割は何か考え、意見を述べることができる。</p> <p>関心・意欲の観点:1. 高齢者ケアに関連する情報を意欲的に収集することができる。 2. 高齢者ケアにおける課題について学生間で、もしくは教員をまじえてディスカッションするなどの行動がみられる。 3. 看護過程のグループワークに意欲的に参加し、意見を述べることができる。</p> <p>態度の観点:1. 出席状況が良好である。 2. 熱意をもって講義を聴くとともに、演習において積極的な発言がみられるなど、意欲的な態度が認められる。</p> <p>技能・表現の観点:1. 学習内容を踏まえて深く考察した内容を、発言・レポート等で表現できる。 2. 展開した看護過程の内容をレポートで表現できる。 3. 看護過程に関するグループワークの内容を、他の学生や教員が理解できるようにプレゼンテーションできる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>定期試験、演習、グループワークの経過・発表内容などを総合的に評価する。授業への出席回数が規定に満たない場合は、定期試験の受験資格を失う。</p> <p>【観点別】各観点から総合的に評価する。</p>					
教科書					
ナーシング・グラフィカ 27 老年看護の実践／大淵律子 他:メディカ出版, 2008					
参考書					
メッセージ					
<p>高齢者の特性や、特性に応じた看護の方法について、この科目でしっかりと学習していきましょう。看護過程については、これまでに学んだ基本的な事柄について復習した上で演習に臨んでください。</p>					
連絡先					
堤雅恵 22-2818, tututmi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 16:10～17:40(前期)、木曜日 13:00～15:40(後期)					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1053500408
開設科目名	看護学卒業研究			単位	4単位
対象学生				学年	4～4
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1053700101
開設科目名	生化学			単位	1単位
対象学生				学年	1～1
担当教員	渡部 省二			区分	
授業の概要					
<p>生物は物質から構成されており、現代の生命科学を理解するためには、まず生物を構成している物質について知らなければならない。本講義では、生物を構成する元素と化合物について説明し、生物がそれらの化合物を、何から、どのように合成して、どのように分解(すなわち、代謝)しているか、また、これらの物質代謝のためのエネルギーを、どこからどのようにして得て、どのように利用しているのか、そのメカニズムについて解説する。なお、DNA、RNA、タンパク合成に関することは分子生物学(2年前期)で行うので本講義ではふれない。</p>					
授業の一般目標					
<p>生体を構成している個々の化合物の化学構造とその化学的性質を理解する。 代謝経路の概略を理解し、その調節機構を学ぶ。 エネルギー通貨としてのATPの役割を理解し、エネルギー代謝の概略を学ぶ。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 1. 生体を構成している分子における分子内および分子間で働く力を理解する。 2. タンパク質の構造を知り、タンパク質がDNAの遺伝情報をもとにつくられることを理解する。 3. 生命活動の担い手としてのタンパク質の機能を理解する。 4. 糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝の概略を説明できる。 5. 代謝調節に関与している酵素をあげ、その調節機構の概略を説明できる。 6. ATPの産生機構の概略を説明できる。 7. 重要な補酵素の名称、化学構造、および機能について説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 生体内の個々の酵素反応が生体全体にとってどのような意味があるか考え、代謝調節(個々の酵素の活性化、不活性化)がせいいた全体にどのような影響があるかを判断する。</p> <p>態度の観点: 予習、復習をし、まじめに授業に取り組む。</p>					
成績評価方法(総合)					
試験(中間・期末)およびレポートによる					
教科書					
生化学キートン/B.D.Hames, N.M.Hooper:シュプリンガーフェアラーク, 2002					
参考書					
Essential 細胞生物学,第二版/B. Alberts 他:南江堂, 2004					
メッセージ					
<p>わからないことをわからないままにしておかず、すぐに質問すること。 メールによる質問も可。 講義の資料はホームページに掲載されているので参照すること。 http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~shwatabe/po-login/menus/biochemistry.htm 毎回の授業の概要をA4レポート用紙1～2枚程度にまとめ、次の授業時に提出すること。Wordで書いて、保健学科WEBシラバスから提出してもよい。</p>					
連絡先					
shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp					
0836-22-0830					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1053700407
開設科目名	病態生化学演習			単位	1 単位
対象学生				学年	4～4
担当教員	山城 安啓			区分	
授業の概要					
毎週火曜日の 17:30-18:30 に行われる検査部カンファレンスに参加して、そのレポートを提出する。2割以上出席でレポート数が4以上、あるいはレポート提出なしで6割以上の出席が必要。					
授業の一般目標					
検査がどのように検討されているか、あるいは研究されているかを臨床の現場でのカンファレンスに参加することにより、具体的に学ぶ。将来、検査技師あるいは他の職種で働く時に同様の検討(研究)を自分が行う時の参考とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 授業で習った臨床検査での検討、研究が実際にはどのように用いられているかを、学ぶ。同時にないようを理解する。					
思考・判断の観点: 臨床検査技師による発表が主なので、発表の構成およびその内容を理解する。					
関心・意欲の観点: 現場に則したテーマを内容を理解して、将来の糧とする。					
態度の観点: 質問が歓迎される。					
技能・表現の観点: レポートには、疑問や、それに対して調べたことを記載し、考察を加える。					
成績評価方法(総合)					
4レポート提出(出席約2-3回分)、あるいは出席のみ(14回以上:秀、13回-11回:優、11-10回:良、9回:可)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
レポートは聞いた内容だけでなく、ネットなどで関係情報を集め、最後に必ず「考察」を加えたものに仕上げる。出席のみの場合					
連絡先					
メールアドレス:yamasiro@yamaguchi-u.ac.jp					
電話:22-2863					
オフィスアワー					
講義/実習や会議でなければいつでも OK					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1053700408
開設科目名	検査技術科学卒業研究			単位	4単位
対象学生				学年	4～4
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					